

年 報

(令和 2 年度)

2020



社会医療法人大成会
FUKUOKA KINEN HOSPITAL

福岡記念病院理念

地域住民が求める安全で信頼される医療を行う

基本方針

患者様中心の医療

患者様の人格・権利を尊重します
診療内容を説明し、納得された医療を行います

適切な医療水準

専門知識・技術の習得に努め、診療の質を高めます
根拠・医の倫理に基づいたチーム医療を行います

地域との積極的な連携

医療連携を図り、地域の健康増進に寄与します
地域救急医療の中心的役割を担います

目次

福岡記念病院理念

目次

沿革

病院の年表	1
施設の概況	
許可病床数／診療科及びその他部門／定例会議／委員会	4
施設基準等承認・届出事項	5
建物の概要／配置図	7
福岡記念病院組織図	8
病院職員数	9
登録医療機関	10

活動報告

診療科	17
看護部	36
薬局	38
放射線科	39
リハビリテーション科	40
臨床検査科	40
感染制御部	42
医療安全管理室	53
栄養サポート室	58
地域医療連携室	59
福岡記念 PET・健診センター	60
臨床研修管理委員会	62

医療統計

初診患者数	63
外来患者数	64
入院患者数	65
平均在院日数	66
紹介患者数／逆紹介患者数	67
救急患者数	68

編集後記	70
------	----

沿革

1959年（昭和34年）	大塚外科医院を開設する
1964年（昭和39年）	医療法人大成会を設立する
1965年（昭和40年）	福岡記念病院に名称変更する 病床数156床に増床する 外科、内科、胃腸科、小児科、整形外科、肛門科を開設
1967年（昭和42年）	救急告示に指定
1977年（昭和52年）	第2期増築（鉄筋コンクリート造地下1階地上5階、病床数220床、 総床面積6,734㎡（現南館）） 脳神経外科、産科、婦人科を開設
1979年（昭和54年）	オーダーリングシステムの導入を行う
1989年（平成元年）	社団法人全日本病院協会より日帰り人間ドック実施病院の指定を受ける
1992年（平成4年）	社団法人日本医療法人協会より健康審査機関の認定を受ける
1993年（平成5年）	本館完成（鉄筋コンクリート造7階建て、総床面積6,454㎡） 南館改築完了（立体駐車場40台、総床面積10,921㎡） トータルオーダーリングシステム導入（IBM）を行う
1995年（平成7年）	一般社団法人日本病院会より優良短期人間ドック施設指定を受ける
1998年（平成10年）	開放型病院 施設基準を取得する 公益財団法人日本医療機能評価機構の定める一般病院種別Bに認定される 脳死による臓器提供病院に認定される
1999年（平成11年）	総合リハビリテーション施設基準を取得 レクセルガンマナイフ設置完了
2000年（平成12年）	循環器科を開設する
2002年（平成14年）	急性期特定加算（急性特定）第5号施設基準を取得 眼科、形成外科、美容外科を開設する
2003年（平成15年）	精神科、耳鼻咽喉科を開設する
2004年（平成16年）	管理型臨床研修病院に指定される 新制度下の臨床研修を開始する
2005年（平成17年）	電子カルテの導入を行う
2006年（平成18年）	DPC対象病院になる 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設になる 日本麻酔科学会麻酔科認定病院になる 日本感染症学会認定研修施設になる 一般病棟入院基本料7対1入院基本料施設基準を取得する
2007年（平成19年）	福岡中央総合健診センター開設、PET/CT設置完了 全国健康保険協会 生活習慣病予防健診指定を受ける 言語聴覚療法室設置完了 救急救命士による気管挿管実習病院に指定される 日本内科学会認定医制度教育関連施設となる
2008年（平成20年）	8階建の管理棟（延床面積2,693㎡）を増築 社会医療法人の認定を受ける インドネシア人・フィリピン人看護師候補者受入機関の認定を受ける 病院機能評価 Ver.5へ更新する

- 2009年（平成21年） 厚生労働大臣指定「臨床修練指定病院」の指定を受ける
 ICU・CCU（南館3階、6床）を開設
 「日本形成外科学会教育関連施設」として認定を受ける
 「化学療法室」の設置完了
 島津製作所製 床置き血管撮影装置「BRANSIST Safire」へ更新
 院内助産所・レディースフロア（南館5階、15床）開設
 助産師外来を開設する
 百道寮（24室）完成
- 2010年（平成22年） 脳神経外科・整形外科にて「治験」開始
 「院内がん登録」開始
 正面入口に救急車待機場所施工
- 2011年（平成23年） 日本救急医学会救急科専門医指定施設として指定を受ける
 細菌検査室・病理検査室設置
 福岡県災害拠点病院に指定される
 3日間発電可能（連続運転）な自家発電機を新設する
- 2012年（平成24年） 南館耐震補強工事を行う
 臨床検査科、病理診断科を開設
 栄養サポート室設置
 電子カルテシステムの更新（富士通）を行う
 心臓血管外科、呼吸器内科開設（全32科）
 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設として指定を受ける
 320列CTの導入を行う
 「玄界診療所」医師派遣協力病院となる
 ガンマナイフ機器更新
 「日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設」として認定を受ける
 指定自立支援医療機関指定「心臓脈管外科に関する医療」
 タイ「バンコク病院」と提携契約を結ぶ
 DMA Tチーム養成を実施
 血管外科を開設（全33科目）
- 2013年（平成25年） 結石破碎装置更新を行う
 「藤田産婦人科医院」開設
 「Ai撮影参加施設」として認定を受ける
 福岡県へき地医療拠点病院に指定される
 「災害医療」、「へき地医療」の業務を開始
 救急外来改修
 血管造影装置増設を実施
 病院機能評価訪問審査「一般病院 Ver.1.0」として認定を受ける
 病院機能評価付加機能「救急医療機能 Ver.2.0」として認定を受ける
 「日本糖尿病学会認定教育施設」として認定を受ける
- 2014年（平成26年） 病床数239床に増床
 救急ワークステーションを設置する
 「福岡記念クリニック」を開設
 「地域医療支援病院」として承認を受ける
 福岡県DMAT指定医療機関に指定される

- 2015年（平成27年）
 リニアック棟完成（鉄筋コンクリート造地下1階、地上5階建て）
 管理棟をリハビリ棟へ名称変更を行う
 リハビリテーション室がリハビリ棟（旧管理棟）へ移動
 福岡県肝疾患専門医療機関として指定を受ける
 通所リハビリテーションを開設
 国際医療担当室を開設
 外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）」の認証を受ける
 HCU（高度治療室：High Care Unit）（12床・6床）を開設
 手術室4完成（稼働）
- 2016年（平成28年）
 肝臓内科、肝臓外科、脊椎・脊髄外科を開設（全36科目）
 福岡県災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣する（熊本地震）
 「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」に推奨される
- 2017年（平成29年）
 3.0TMRI装置導入、稼働開始
- 2018年（平成30年）
 「下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設」に認定
 社会医療法人大成会理事長、福岡記念病院管理者・施設長に黒田康夫院長就任
 久留米大学教育関連施設になる
 一般社団法人日本専門医機構による「福岡記念病院総合診療専門研修プログラム」（プログラム責任者：太田勇司）の承認
 「福岡中央総合健診センター」を「福岡記念病院・PET健診センター」へ名称変更
 関連10学会構成 日本ステントグラフト実施基準管理委員会「腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設」として認定
 病院機能評価「一般病院2」Ver..2.0に更新
 病院機能評価「救急医療機能 Ver.2.0」を更新
 外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）を更新
 福岡県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関の指定を受ける
- 2019年（平成31年）
 （令和元年）
 レクセルガンマナイフ装置の線源交換を行う
 クライオ装置（冷凍アブレーション）の導入
 看護師寮の改修を行う
 婦人科外来改修
 乳腺外科・総合診療科・集中治療科を開設
 地域医療連携室患者相談窓口の改修
 電子カルテシステムの更新（富士通）を行う
- 2020年（令和2年）
 上野高史病院長就任
 治験管理室を新設
 日本集中治療医学会専門医研修施設

施設の概況

(1) 許可病床数

区分	病床数	病棟数	看護師の配置基準
一般	215 床	5	7 対 1
ICU・CCU	6 床	1	2 対 1
HCU	18 床	2	4 対 1
計	239 床	8	—

(2) 診療各科及びその他部門

- ・ 救急科
- ・ 外科
- ・ 消化器外科
- ・ 大腸・肛門外科
- ・ 肝臓外科
- ・ 呼吸器外科
- ・ 整形外科
- ・ 形成外科
- ・ 脳神経外科
- ・ 心臓血管外科
- ・ 血管外科
- ・ 脊椎・脊髄外科
- ・ 内科
- ・ 脳神経内科
- ・ 循環器内科
- ・ 消化器内科
- ・ 肝臓内科
- ・ リハビリテーション科
- ・ 呼吸器内科
- ・ 感染症内科
- ・ 糖尿病・内分泌内科
- ・ リウマチ科
- ・ 小児科
- ・ 婦人科
- ・ 泌尿器科
- ・ 皮膚科
- ・ 耳鼻咽喉科
- ・ 精神科
- ・ 眼科
- ・ 麻酔科
- ・ 放射線科
- ・ 歯科
- ・ 歯科口腔外科
- ・ 病理診断科
- ・ 臨床検査科
- ・ 乳腺外科
- ・ 放射線科
- ・ 栄養科
- ・ 薬局
- ・ 看護部
- ・ 感染制御部
- ・ 事務部
- ・ 診療情報管理室
- ・ 国際医療担当室
- ・ 臨床工学室
- ・ 地域医療連携室
- ・ 医療安全管理室
- ・ 視能訓練室
- ・ 歯科衛生室
- ・ 栄養サポート室
- ・ 結石破碎センター
- ・ ガンマナイフセンター
- ・ インプラントセンター

(3) 定例会議

- ・ 診療連絡会議
- ・ 看護師長会議
- ・ 診療部科長会議
- ・ 医療安全推進会議
- ・ 管理運営会議

(4) 委員会

- ・ 医療安全管理委員会
- ・ 院内感染対策委員会
- ・ クリニカルパス委員会
- ・ 個人情報保護推進委員会
- ・ 診療情報管理委員会
- ・ 褥瘡対策委員会
- ・ 院内教育委員会
- ・ 栄養管理委員会
- ・ NST 委員会
- ・ SPD 委員会
- ・ 地域医療連携委員会
- ・ 衛生管理委員会
- ・ 薬事委員会
- ・ 電子カルテ管理委員会
- ・ 手術室運営委員会
- ・ 輸血委員会
- ・ 診療情報提供委員会
- ・ 医療ガス安全管理委員会
- ・ 倫理委員会
- ・ 治験審査委員会
- ・ 臨床研修管理委員会
- ・ 病床管理委員会
- ・ 病院機能評価委員会
- ・ DPC 委員会
- ・ ICT 委員会
- ・ がん診療委員会
- ・ 臨床検査適正委員会

- ・ 広報サービス委員会
- ・ 救急運営委員会
- ・ 児童等虐待対策委員会
- ・ 情報管理委員会
- ・ 臨床研修小委員会
- ・ 国際医療推進委員会
- ・ 口腔ケア委員会
- ・ 保険診療委員会
- ・ TQM 推進委員会
- ・ ハラスメント防止委員会
- ・ 患者サポート委員会
- ・ 役割分担推進委員会

(5) 施設基準等承認・届出事項

2020 年 4 月現在

【指定】

- ・ 保険医療機関
- ・ 救急告示
- ・ 労災保険
- ・ 生活保護
- ・ 結核医療
- ・ 原爆医療
- ・ DPC 対象病院
- ・ 福岡県災害拠点病院
- ・ へき地医療拠点病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ DMAT 指定医療機関

【研修施設】

- ・ 厚生労働省基幹型臨床研修指定病院
- ・ 厚生労働省臨床修練指定病院
- ・ 日本外科学会専門医制度修練施設
- ・ 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・ 日本整形外科学会認定医制度研修施設
- ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・ 日本内科学会認定制度教育関連施設
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・ 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・ 日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・ 日本感染症学会認定研修施設
- ・ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・ 日本病理学会研修登録施設
- ・ 日本集中治療学会集中治療専門医研修施設

【施設認定・推奨】

- ・ 病院機能評価「一般病院 2 救急医療機能」(日本医療機能評価機構)
- ・ 指定自立支援医療機関承認(育成医療・更正医療・精神通院医療)
- ・ 外国人患者受入医療機関(一般財団法人日本医療教育財団)
- ・ ジャパン インターナショナルホスピタルズ(JIH)(一般社団法人 Medical Excellence JAPAN)

【その他】

- ・ 院内感染サーベイランス事業参加(厚労省)
- ・ 病院機能評価拠点病院(全日本病院協会)
- ・ インドネシア人、フィリピン人、ベトナム人看護師候補者受入機関

【施設基準】

- ・ 急性期一般入院基本料 1 (215 床)
- ・ 特定集中治療室管理料 3 (6 床)
- ・ 小児入院医療管理料 5
- ・ 重症者等療養環境特別加算 (5 床)
- ・ 救急医療管理加算
- ・ 診療録管理体制加算 1
- ・ 臨床研修病院入院診療加算
- ・ 超急性期脳卒中加算
- ・ 医師事務作業補助体制加算 15 対 1
- ・ 麻酔管理料 I
- ・ 無菌製剤処理料
- ・ 心臓カテーテル法による血管内視鏡検査加算
- ・ 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
- ・ 開放型病院 共同指導料

- ・ C T撮影及びMR I 撮影
- ・ 冠動脈C T撮影加算
- ・ 心臓MR I 撮影加算
- ・ 画像診断管理加算 2
- ・ 輸血管理料 II
- ・ 入院時食事療養(I)
- ・ 医療機器安全管理料 1
- ・ 総合評価加算
- ・ 神経学的検査
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
- ・ 運動器リハビリテーション料 (I)
- ・ 呼吸器リハビリテーション料 (I)
- ・ 集団コミュニケーション療法料
- ・ コンタクトレンズ検査料 1
- ・ 大動脈バルーン・パンピング(IABP 法)
- ・ クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・ H P V 核酸検出
- ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
- ・ 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 手術
- ・ 入退院支援加算 1
- ・ 医療安全対策加算 1
- ・ 薬剤管理指導料
- ・ 検体検査管理加算 (IV)
- ・ 急性期看護補助体制加算 25 対 1
- ・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・ 感染防止対策加算 1 (感染防止対策地域連携加算)
- ・ がん治療連携指導料
- ・ がん性疼痛緩和指導管理料
- ・ がん患者リハビリテーション料
- ・ がん患者指導管理料イ
- ・ がん患者指導管理料ハ
- ・ 処置の時間外加算 1
- ・ 処置の休日加算 1
- ・ 処置の深夜加算 1
- ・ 手術の時間外加算 1
- ・ 手術の休日加算 1
- ・ 手術の深夜加算 1
- ・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・ 胃瘻造設術
- ・ 病棟薬剤業務実施加算 II
- ・ ダメージコントロール手術
- ・ 経皮的冠動脈ステント留置術
- ・ 経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ ハイケアユニット入院医療管理料 1 (18 床)
- ・ 呼吸ケアチーム加算
- ・ 磁気による膀胱等刺激法
- ・ 経皮的冠動脈形成術
- ・ 医療機器安全管理料 2
- ・ 患者サポート体制充実加算
- ・ 夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
- ・ ヘッドアップティルト試験
- ・ 大腸 C T 撮影加算
- ・ データ提出加算 2 イ
- ・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・ 糖尿病透析予防指導管理料
- ・ 病棟薬剤業務実施加算 I
- ・ 院内トリアージ実施料
- ・ 後発医薬品使用体制加算 1
- ・ 地域連携診療計画加算
- ・ ロービジョン検査判断料
- ・ 硬膜外自家血注入
- ・ CAD/CAM 冠
- ・ 小児食物アレルギー負荷検査
- ・ 精神疾患診療体制加算
- ・ 内服・点滴誘発試験
- ・ 提出データ評価加算
- ・ 歯科点数表の初診料の注 1 に規定する施設基準
- ・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(心筋電極・経静脈電極)
- ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
- ・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極・経静脈電極)
- ・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術・交換術(心筋電極・経静脈電極)
- ・ 外来化学療法加算 1
- ・ 患者サポート体制充実加算
- ・ 認知ケア加算
- ・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
- ・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算
- ・ 婦人科特定疾患治療管理料
- ・ 後縦靱帯骨化症手術(前方侵入によるもの)
- ・ 椎間板内酵素注入療法

(6) 建物の概要

福岡記念病院

本館	構造	鉄筋コンクリート造
	規模	地上7階
	面積	延 6,454 m ²
南館	構造	鉄筋コンクリート造
	規模	地下1階、地上5階
	面積	延 4,663 m ²
リハビリ棟	構造	鉄筋コンクリート造
	規模	地上8階
	面積	延 2,693 m ²
リニアック棟	構造	鉄筋コンクリート造
	規模	地下1階、地上5階
	面積	延 1,058.24 m ²

(7) 配置図

管理部門		8階		
感染制御部 医療安全管理室 診療情報管理室 臨床工学室		7階		栄養科 喫茶・売店 食堂
管理部門 国際医療担当室 電子カルテ管理室		6階		病棟 (一般)
リハビリテーション室	会議室	5階	病棟 (一般)	病棟 (一般)
	図書室	4階	病棟 (一般)	病棟 (一般)
		3階	ICU 眼科・耳鼻咽喉科 病理・細菌検査室	手術室 放射線科
講義室		2階	婦人科 化学療法室 病棟 (一般)	一般外来 歯科・口腔外科 中央処置室 臨床検査科・内視鏡室
MRI室 指導室	放射線治療受付 診察室	1階	HCU 結石破碎室	救急外来 薬局 医事課 初診・再診受付 会計 地域医療連携室 防災センター 設備管理課 ATM
	リニアック室	地下 1階	カンマナイフ室 RI室	

【リハビリ棟】

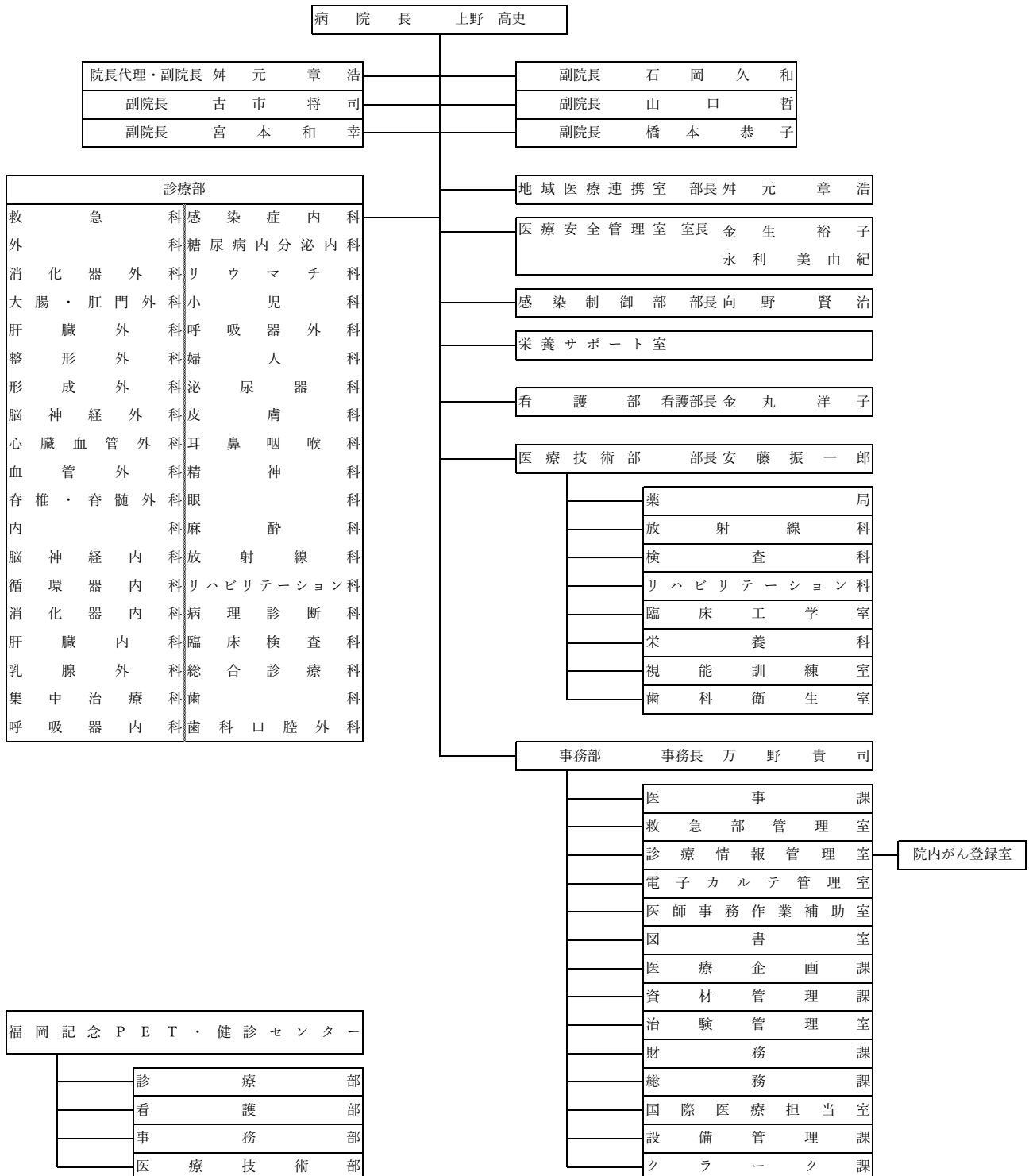
【リニアック棟】

【南館】

【本館】

社会医療法人大成会福岡記念病院組織図

2021年10月現在



病院職員数

福岡記念病院

令和3年8月1日現在

職名	現員	現員内訳	
		職員	非常勤・委託
【診療部門】			
医師	101	53	48
臨床研修医		12	
(放)放射線技師		25	
(病理)臨床検査技師		2	
(細菌)臨床検査技師	2	1	1
(検査)臨床検査技師		12	
(臨工)臨床工学技士		10	
(リハ)理学療法士		26	
(リハ)作業療法士		14	
(リハ)言語聴覚士		5	
(リハ)介護福祉士		1	
(栄養科)管理栄養士		5	
(眼)視能訓練士		2	
(歯)歯科衛生士		2	
(放)事務員		1	
医師事務作業補助者		20	
【看護部】			
看護部長		1	
副看護部長		1	
看護師長		6	
看護師	280	278	2
准看護師	16	15	1
看護補助員	26	23	3
事務員	2	2	
【薬局】			
薬剤師		22	
事務員		2	

職名	現員	現員内訳	
		職員	非常勤・委託
【地域医療連携室】			
ソーシャルワーカー		6	
事務員		5	
【救急部管理室】			
事務員		4	
【医療安全管理室】			
リスクマネージャー		2	
【感染制御部】			
医師		1	
看護師		2	
【診療情報管理室】			
診療情報管理士		6	
【事務部】			
事務長		1	
(医事課)事務員		24	
(設備)技術職員		3	
(電子カルテ)事務員		2	
(図書室)事務員		1	
【管理部】			
管理部長			
(総務)事務員	17	15	2
(財務)事務員		5	
(資材管理課)事務員		2	
(国際医療担当室)事務員		2	
(経営企画課)事務員		1	
(治験管理室)事務員		2	
合計	681	624	57

福岡記念病院 PET・健診センター

職名	現員	現員内訳	
		職員	非常勤・委託
医師	34	2	32
看護師・保健師・准看護師	8	3	5
薬剤師	1	1	
放射線技師	1	1	
臨床検査技師	1		1
事務員	12	6	6
合計	57	13	44

登録医療機関			
			令和3年8月現在
早良区			
施設名	院長名	住所	登録年月日
あきもとこどもクリニック	秋本 馨	早良区高取 1-28-24	2019年4月27日
新井眼科医院	新井 三樹	早良区次郎丸 2-10-43	2012年2月28日
川原クリニック	川原 昭夫	早良区城西 1-5-25	2001年3月29日
案浦クリニック	案浦 康高	早良区原 5-22-13	1998年2月20日
池田整形外科クリニック	池田 正一	早良区有田 7-19-33-1	2019年9月6日
稲村脳神経外科クリニック	稲村 孝紀	早良区西新 4-9-35-2F	2002年1月7日
犬丸医院	犬丸 雅比古	早良区小田部 1-6-5	1998年3月5日
井上内科クリニック	井上 橙爾	早良区田村 7-7-2	2012年2月27日
うめい内科医院	梅井 利彦	早良区昭代 3-5-15	2012年3月5日
大神内科クリニック	大神 信道	早良区高取 1-3-20-204	2014年10月1日
大木整形・リハビリ医院	大木 實	早良区藤崎 1-21-19	1998年2月20日
おおつかクリニック	大塚 誠	早良区次郎丸 2-10-43	2012年2月23日
岡田こどもクリニック	岡田 象二郎	早良区藤崎 2-11-35	2014年6月3日
おがた整形外科医院	緒方 孝俊	早良区原 7-4-18	2002年6月3日
おばた内科クリニック	尾畑 十善	早良区田村 5-16-38	2016年9月9日
加来内科・消化器科医院	加来 数馬	早良区小田部 4-19-5	2001年11月17日
香月医院	香月 祐介	早良区有田 5-1-30	1998年3月6日
かわの医院	河野 博巳	早良区荒江 2-9-13-2F	1998年3月2日
賀茂クリニック	松嶋 哲哉	早良区賀茂 4-28-1	2012年2月27日
北口内科消化器科医院	北口 安芳	早良区田隈 2-34-18	2009年7月9日
北島内科医院	北島 和彦	早良区原 1-6-5	2001年3月29日
草野医院	草野 忠良	早良区野芥 3-14-5	2016年7月6日
黒田整形外科医院	黒田 康二	早良区次郎丸 5-6-1	2006年5月9日
上月内科医院	上月 武志	早良区荒江 3-15-21	2012年2月29日
こたべ整形外科クリニック	溝上 浩士	早良区小田部 5-7-7-101	2019年8月5日
ざいつ循環器・内科	賤津 龍二	早良区飯倉 7-29-15-2F	2019年9月24日
さかうえ内科循環器科クリニック	坂上 明彦	早良区藤崎 1-1-47-2F	1998年3月6日
ささき内科・糖尿病クリニック	佐々木 修二	早良区西新 5-15-13	2019年4月19日
佐藤皮膚科医院	佐藤 一郎	早良区西新 5-1-32	2019年9月10日
さわらぐち胃腸肛門クリニック	中川 元典	早良区藤崎 1-24-19	2019年3月14日
三恵外科医院	加藤 眞理	早良区城西 2-6-21	2012年3月5日
重松クリニック	重松 勝	早良区百道 1-1-4	2001年11月21日
しばおクリニック	芝尾 敬吾	早良区百道浜 4-13-4	1998年3月2日
生野リウマチクリニック	生野 英祐	早良区西新 1-10-27-1F	2011年7月11日
白石整形外科医院	白石 光一	早良区田村 4-28-26	2019年9月13日
城谷内科医院	城谷 拓郎	早良区西新 4-8-28	2012年3月8日
菅医院	菅 康三	早良区四箇 6-14-5	1998年2月24日
すこやかクリニック	荻本 裕子	早良区百道 1-25-10	2004年10月18日
そう内科医院	曾 俊光	早良区賀茂 2-26-18	2019年8月1日
高木胃腸科内科医院	高木 孝輔	早良区高取 1-1-53	1998年2月20日
高取レディースクリニック	重松 敏之	早良区高取 1-3-20-203	2016年1月26日
高橋内科循環器科クリニック	高橋 啓美	早良区原 5-2-2-2F	2020年3月24日
高橋脳神経外科	高橋 禎彦	早良区飯倉 7-1-7	2002年11月26日
田北メモリーメンタルクリニック	田北 昌史	早良区室見 5-13-8	2012年2月29日

施設名	院長名	住所	登録年月日
武石クリニック	武石 卓	早良区西新 1-4-28	2021年1月28日
たけいち内科胃腸クリニック	武市 昌郎	早良区室見 2-15-27-1F	2016年12月7日
武田内科	武田 大輔	早良区室見 1-10-8	2019年4月18日
田代内科クリニック	田代 方民	早良区百道 1-5-5	2004年9月3日
田中じゅんこ乳腺クリニック	田中 旬子	早良区西新 4-9-35-6F	2019年4月6日
谷皮膚科医院	谷 淳二郎	早良区西新 3-2-3-2F	1998年2月19日
つかもと内科	塚本 雅俊	早良区飯倉 3-31-14	2019年4月12日
つじ耳鼻咽喉科クリニック	辻 剛二	早良区飯倉 7-3-7	2019年7月23日
つづきクリニック	都築 克幸	早良区原 4-4-15	2012年3月2日
土器医院	土器 辰雄	早良区田村 6-7-16	2019年6月27日
なかしま内科	中嶋 寿	早良区野芥 4-2-16	2019年11月28日
中手内科クリニック	中手 悟	早良区西新 4-3-22-2F	1998年2月19日
中村医院	中村 尚徳	早良区内野 2-20-10	1998年2月25日
なかよし眼科クリニック	仲吉 則雄	早良区野芥 7-19-35	1998年2月19日
なもと内科・胃腸クリニック	名本 真章	早良区南庄 5-11-15	2019年9月30日
なら林内科・循環器科医院	梶林 英樹	早良区小田部 1-13-7	2011年12月5日
南條内科・胃腸科クリニック	南條 環	早良区野芥 7-17-21	2001年12月7日
長澤医院	長澤 一成	早良区飯倉 5-15-34	1998年3月6日
西耳鼻咽喉科医院	西 憲一郎	早良区南庄 2-13-12	2019年8月20日
西新クリニック	山村 晋史	早良区西新 5-15-20	1998年2月20日
西内科医院	西 秀博	早良区原 3-8-23	2002年4月1日
にのさかクリニック	二ノ坂 保喜	早良区野芥 4-19-34	1998年2月20日
脳神経外科 クリニック高木	高木 忠博	早良区弥生 1-4-8	2001年11月16日
畑間内科クリニック	畑間 繁樹	早良区荒江 2-6-11	2012年3月6日
八田内科医院	八田 喜弘	早良区小田部 4-7-13	2001年11月20日
浜本整形外科医院	浜本 尚志	早良区東入部 1-3-33	2003年2月24日
疋田眼科医院	疋田 春夫	早良区西新 5-1-37	1998年2月23日
日吉内科消化器科医院	日吉 雄一	早良区有田 2-14-30	2019年9月19日
平野内科消化器科医院	平野 基	早良区曙 2-1-7	2001年12月22日
廣橋クリニック	中本 浩史	早良区東入部 6-15-9	2012年2月28日
フカガワクリニック	深川 康裕	早良区西新 2-7-8	2019年4月4日
福田心臓血管クリニック	福田 裕次郎	早良区西新 4-9-35	2019年5月29日
ふじい耳鼻咽喉科クリニック	藤井 加奈子	早良区藤崎 1-1-32-3F	2019年6月15日
藤崎メディカルクリニック	佐藤 眞也	早良区藤崎 1-1-32	2019年6月11日
フジタ内科消化器科医院	藤田 晃一	早良区原 7-4-7	1998年4月16日
ふじもとクリニック	藤本 将史	早良区昭代 3-5-20	2018年2月24日
干隈すみれ内科クリニック	須貝 真生	早良区千隈 5-30-5	1998年3月5日
本多耳鼻咽喉科医院	本多 一至	早良区西新 5-1-33	2019年4月22日
まつおクリニック	松尾 勝一	早良区原 5-3-6	2013年9月26日
松口整形外科クリニック	松口 信行	早良区西新 4-9-35-3F	1998年2月23日
松口内科循環器科医院	松口 秀世	早良区有田 2-11-11	2009年9月1日
松田内科クリニック	松田 拓二	早良区早良 2-22-7-1	2019年9月11日
三松眼科医院	三松 栄之	早良区野芥 2-3-5	2019年4月2日
みまつ小児科皮膚科医院	三松 高一	早良区野芥 2-3-5	2019年4月2日
宮脇クリニック	宮脇 仁	早良区小田部 4-4-1	1998年3月5日
迎医院	迎 利彦	早良区南庄 2-17-7	1998年3月6日
牟田口整形外科医院	牟田口 啓介	早良区四箇 1-6-1	2006年8月7日
室見クリニック	樋口 恒夫	早良区室見 1-12-1	2012年2月23日
もち浜クリニックTNC放送会館在宅診療所	吉田 利香	早良区百道浜 2-3-2-2F	2019年10月31日

施設名	院長名	住所	登録年月日
森口脳神経外科クリニック	森口 政嗣	早良区梅林 7-2-15	2019年11月15日
やすだクリニック	安田 修	早良区次郎丸 3-22-8	2020年12月14日
やすなが内科クリニック	安永 芳樹	早良区飯倉 4-8-5-2	2019年7月23日
やまうちクリニック	山内 俊彦	早良区重留 7-18-1	2019年7月9日
やまさき小児科	山崎 靖人	早良区重留 7-18-2	2019年11月18日
やまさき脳神経・内科クリニック	山崎 賢智	早良区次郎丸 4-9-10	2019年9月6日
やら整形外科	屋良 貴宏	早良区東入部 6-26-4	2019年7月10日
吉住内科医院	吉住 尚志	早良区原 6-29-10	1998年3月6日
ようこ皮ふ科	河野 容子	早良区小田部 3-17-23	2019年12月26日
よしだクリニック	吉田 正裕	早良区賀茂 4-28-19	2012年3月1日

中央区

施設名	院長名	住所	登録年月日
阿部医院	古賀 光	中央区今川 1-2-6	1998年2月18日
有村内科クリニック	有村 勝彦	中央区荒戸 1-5-28	2012年3月6日
胃腸科藤クリニック	藤 洋吐	中央区天神 3-4-8-5F	1998年3月19日
入江内科医院	入江 信行	中央区大名 2-4-22-2F	1998年3月3日
うえむら痛みクリニック	上村 裕平	中央区六本松 2-3-6-3F	2019年8月22日
うめした内科クリニック	梅下 滋人	中央区荒戸 3-10-11-1F	2019年7月18日
大濠こどもクリニック	牛ノ濱 大也	中央区大濠 1-3-5-2F	2019年4月16日
大堀内科	井上 晃太	中央区大濠 2-13-39	2021年8月11日
大濠パーククリニック	八谷 俊朗	中央区大濠公園 2-35-2-2F	2019年10月9日
かきうち耳鼻咽喉科クリニック	垣内 康徳	中央区地行 4-18-21-2F	2019年4月15日
かきうち小児科	垣内 辰雄	中央区地行 4-18-21-3F	2019年5月2日
萱島外科	萱島 孝二	中央区荒戸 2-2-40	1998年3月7日
川崎胃腸科・内科クリニック	川崎 真澄	中央区赤坂 2-6-1	2014年12月9日
川嶋医院	川嶋 恒典	中央区清川 2-12-29	1998年2月19日
木村眼科クリニック	木村 一賢	中央区赤坂 1-10-23-2F	1998年3月6日
香江医院	香江 篤	中央区唐人町 1-12-12	1998年2月20日
御所ヶ谷ホームクリニック	田中 耕太郎	中央区舞鶴 1-6-1-2F	2019年10月24日
後藤整形外科医院	後藤 徳雄	中央区鳥飼 1-5-45-1F	1998年2月18日
権藤内科医院	権藤 公和	中央区今泉 2-5-24	1998年3月3日
桜坂内科循環器科	松吉 哲二	中央区警固 3-6-1	2019年11月5日
ししめ内科医院	志々目 光宏	中央区梅光園 1-3-7	1998年2月24日
島松循環器内科クリニック	島松 昌由	中央区六本松 2-8-2-1F	2019年4月16日
しまだ内科・循環器クリニック	嶋田 寿文	中央区六本松 4-2-2-2F	2019年4月16日
たかお整形外科	高尾 恒彰	中央区地行 3-1-24	2021年6月17日
武田医院	武田 良一	中央区梅光園 1-2-6	1998年2月25日
たけとみクリニック	武富 賢治	中央区輝国 2-11-13-102	2012年2月28日
たのうえメンタルクリニック	田上 伸興	中央区六本松 4-11-26	2002年4月1日
中央歯科・口腔外科クリニック	下田 恒久	中央区大名 2-8-1-4F	2005年6月1日
つのだ泌尿器科クリニック	角田 雄一	中央区笹丘 1-10-21	2019年9月24日
天神駅前まめクリニック	石川 雅俊	中央区天神 2-2-12 T&Jビル5階	2021年1月21日
天神頭痛クリニック	吉岡 進	中央区天神 2-14-13-1F	2019年7月23日
天神皮ふ科	松尾 眞二郎	中央区天神 2-4-20-3F	2019年10月24日
糖尿病ケアクリニック六本松	大久保 賢	中央区谷 1-9-19-2F	2019年5月30日
とみた内科クリニック	富田 直史	中央区小笹 4-4-5	2018年4月1日
とよしまファミリークリニック	豊島 元	中央区六本松 4-8-15	2012年4月6日
中垣内科小児科医院	中垣 健	中央区今川 1-24-27	1998年2月18日

施設名	院長名	住所	登録年月日
なごみ泌尿器科クリニック	御厨 学	中央区黒門 2-31-2F	2014年11月10日
梅光園 田中たもつクリニック	田中 保	中央区梅光園 2-7-6	2009年4月28日
畠山内科胃腸科クリニック	畠山 定宗	中央区桜坂 1-3-31	2019年10月21日
皮膚科・形成外科和田クリニック	和田 秀敏	中央区荒戸 1-6-10	1998年3月3日
平田内科胃腸科クリニック	平田 泰彦	中央区鳥飼 1-5-45-1F	1998年2月18日
ひろた内科クリニック	広田 雄一	中央区荒戸 2-4-14	2012年2月29日
福岡みなど在宅医療クリニック	中堀 亮一	中央区黒門 9-17	2019年4月16日
ふくだ内科	福田 敏郎	中央区赤坂 2-2-45	2019年6月26日
福浜中央クリニック	神殿 哲	中央区福浜 2-1-3	2010年8月10日
ふくろのクリニック	袋野 和義	中央区草香江 1-8-39	2019年4月15日
藤見胃腸科内科医院	藤見 是	中央区今川 2-1-15	1998年2月23日
ふなこし内科・循環器内科	船越 元	中央区笹丘 1-4-12	2015年9月7日
戸次整形外科クリニック	戸次 鎮昭	中央区草香江 1-1-27	1998年2月25日
別府外科医院	別府 健二	中央区平尾 2-3-14	1998年2月19日
まいづる内科クリニック	中村 東樹	中央区舞鶴 3-2-1-2F	2014年6月6日
まち神経内科クリニック	町 ミチ	中央区唐人町 1-5-1 3F	2014年1月31日
松本整形外科医院	松本 光司	中央区笹丘 1-34-2	2019年8月2日
みなと内科クリニック	大塚 大河	中央区長浜 3-11-3-2F	2019年9月26日
宮城脳神経外科クリニック	宮城 潤	中央区今泉 2-5-25	2012年3月6日
三宅内科クリニック	三宅 恒徳	中央区薬院 2-5-15	2010年9月17日
村山内科・胃腸科	村山 通秋	中央区天神 2-4-20-2F	2019年10月24日
森田クリニック	伊原 喜子	中央区大手門 1-4-21-2F	2019年10月9日
もろくまクリニック	諸隈 中	中央区梅光園 3-4-1	2012年3月1日
山田内科クリニック	山田 晋	中央区赤坂 1-10-23-5F	1998年3月3日
山本内科胃腸科クリニック	山本 勉	中央区小笹 3-11-1	2020年2月20日
吉田耳鼻咽喉科	吉田 申一	中央区赤坂 1-12-8	2012年3月13日
六本松漢方内科	久保田 正樹	中央区六本松 2-3-6-2F	2019年8月9日
六本松通りクリニック	前田 充秀	中央区草香江 2-1-6	2019年9月9日
六本松ひとみ泌尿器科	中村 仁美	中央区六本松 2-3-6-3F	2019年5月25日
六本松皮ふ科	下津浦 耕士	中央区六本松 4-2-2-2F	2019年10月11日

城南区

施設名	院長名	住所	登録年月日
明石内科医院	明石 昌幸	城南区鳥飼 5-19-12	1998年2月24日
あらせ内科	守永 晋	城南区梅林 1-19-3-1F	2019年7月9日
いこいの森クリニック	橋口 庸	城南区東油山 6-19-23	2001年11月17日
石橋医院	石橋 慧史	城南区樋井川 1-24-26	1998年2月24日
内田こどもクリニック	内田 智子	城南区別府 1-21-21	2012年3月9日
江下内科クリニック	江下 明彦	城南区樋井川 1-6-26	1998年2月24日
尾野医院	尾野 健一	城南区七隈 4-3-8	2019年7月29日
かとうクリニック	加藤 功	城南区鳥飼 5-4-12	2019年4月17日
金谷内科クリニック	金谷 英樹	城南区荒江 1-25-10-101	1998年2月20日
かわなみ内科	川浪 憲一	城南区長尾 3-27-1	2019年12月23日
かわもと胃腸内科クリニック	川元 健二	城南区別府 3-2-33	2019年12月9日
くまの整形外科 スポーツ&肩クリニック	熊野 貴史	城南区南片江 1-29-25	2019年8月20日
在宅療養支援クリニック ここはる	新田 壮平	城南区南片江 2-8-6	2020年6月1日
さかい内科循環器クリニック	酒井 博	城南区長尾 1-13-23-1	1998年2月24日
しげた消化器科・外科医院	繁田 公志	城南区長尾 1-19-1	2019年8月6日
しんどう小児科医院	進藤 静生	城南区神松寺 3-22-28	2019年9月4日

施設名	院長名	住所	登録年月日
進藤整形外科クリニック	進藤 隆康	城南区茶山 5-2-6	1998年2月25日
すがお内科クリニック	菅尾 頼明	城南区七隈 4-11-3	2019年6月25日
杉田脳神経外科クリニック	杉田 俊介	城南区神松寺 2-12-6	1998年2月24日
鈴木内科医院	鈴木 続久	城南区堤 2-11-16	2012年2月28日
瀬戸循環器内科クリニック	瀬戸 拓	城南区梅林 2-27-13	2011年9月9日
だい小児科内科医院	臺 俊一	城南区別府 2-20-46-101	1998年2月25日
高宮外科内科医院	松本 朗	城南区樋井川 6-15-1	2019年9月25日
田中宏明・内科胃腸科クリニック	田中 宏明	城南区片江 4-1-6	1998年2月20日
トータルケアやまさきクリニック	山崎 繁通	城南区茶山 4-14-15	2019年5月10日
内藤胃腸科外科クリニック	内藤 英明	城南区別府 7-7-30	1998年2月25日
なかむら整形外科	中村 和史	城南区長尾 1-19-7	2019年7月10日
にしのクリニック	西野 雅博	城南区別府 4-1-25	2019年10月15日
のみやま整形外科クリニック	野見山 宏	城南区長尾 5-28-19	2019年9月24日
英内科クリニック	田中 英明	城南区茶山 2-15-1	2019年9月12日
原クリニック	原 裕介	城南区梅林 4-21-23	2019年9月4日
平川耳鼻咽喉科クリニック	平川 直也	城南区堤 1-1-1	2019年9月24日
ほりた内科・透析クリニック	堀田 義雄	城南区茶山 1-6-1-1F	2019年11月15日
堀之内胃腸科内科医院	古川 尚志	城南区東油山 2-3-7	2019年2月28日
松山診療所	瓦 隆	城南区松山 2-8-5	2010年1月12日
もとむらクリニック	本村 明	城南区干隈 2-8-28	2009年4月8日
やまぐち整形外科	山口 幸二	城南区別府 2-16-21	2019年8月6日
横山内科医院	横山 俊宏	城南区田島 4-22-40	2019年4月20日
りょうすけ内科外科	山口 良介	城南区樋井川 2-9-15	2020年3月9日

西区

施設名	院長名	住所	登録年月日
青木内科循環器科小児科クリニック	青木 真	西区姪の浜 4-9-12	1998年10月21日
阿南クリニック	阿南 健	西区愛宕浜 4-1-20	2003年2月25日
アーバンハートクリニック	渋井 俊之	西区今宿西 1-30-26	2019年7月23日
池田内科呼吸器科医院	池田 昭仁	西区姪の浜 3-39-6	2019年9月13日
井上さとし内科	井上 聡	西区戸切 2-18-2	2020年11月25日
今村内科循環器科クリニック	今村 光秀	西区拾六町 5-18-21	2019年9月30日
大内医院	大内 二郎	西区横浜 1-19-1	2019年2月25日
緒方内科医院	緒方 秀昭	西区橋本 2-17-31	2019年8月7日
おかべ耳鼻咽喉科	岡部 洋平	西区野方 1-4-7-1	2019年12月6日
岡村内科クリニック	岡村 秀樹	西区下山門 3-1-9	2010年8月3日
おにき内科クリニック	鬼木 秀幸	西区拾六町 1-3-16	2021年8月4日
学研都市クリニック	山本 博昭	西区大字徳永 1071-1	2012年2月27日
かつの整形外科リハビリテーション科	勝野 雷二郎	西区福重 4-7-6-2F	2017年6月26日
北野クリニック	北野 亀三郎	西区姪浜駅南 2-19-16	2019年8月20日
上山門クリニック	瀬戸山 浩	西区上山門 2-2-22	2016年10月26日
岸田内科医院	岸田 猛	西区姪浜駅南 2-19-22	1998年9月17日
きむらしろうクリニック	木村 史郎	西区福重 5-19-8	2020年5月7日
國崎真クリニック	國崎 真	西区今宿駅前 1-7-6	2012年3月13日
久保田クリニック	久保田 晃	西区大字小田字中間 51-1	2020年3月18日
佐野内科胃腸科医院	佐野 栄二郎	西区周船寺 1-8-39	2019年9月10日
猿田皮膚科医院	猿田 泰夫	西区壱岐団地 136-9	1998年3月2日
せんばクリニック	仙波 垂水	西区十六町団地 1-25	2019年11月12日
高松ひろこ皮フ科	高松 紘子	西区愛宕 4-13-5	2019年7月22日

施設名	院長名	住所	登録年月日
たけのしたクリニック	竹之下 博正	西区愛宕 4-13-4	2019年4月27日
ときつ医院	野村 明彦	西区内浜 2-6-7	2012年3月2日
戸高内科・呼吸器科	戸高 憲二	西区福重 3-21-3	2012年3月1日
中村クリニック	中村 秀治	西区豊浜 1-2-12	2019年6月11日
西の丘 平尾クリニック	平尾 隆	西区西の丘 2-1-1	2009年10月21日
はしぐち脳神経クリニック	橋口 公章	西区愛宕 4-14-19	2019年5月14日
ひとみの眼科	高野 豊久	西区愛宕 4-13-3	2019年5月14日
ひらやま内科クリニック	平山 裕介	西区福重 4-7-6-3F	2017年6月26日
ふかほり整形外科クリニック	深堀 雄蔵	西区拾六町 5-16-11	2019年5月27日
二田哲博クリニック姪浜	二田 哲博	西区姪浜駅南 1-2-17	2001年11月8日
福重たしろ整形外科	田代 茂義	西区福重 1-6-18	2019年8月6日
前田ごう整形外科	前田 剛	西区姪浜駅南 3-15-18	2019年10月8日
まつお内科クリニック	金沢 文高	西区上山門 1-22-5	1998年3月3日
松口胃腸科・外科医院	松口 宰邦	西区野方 1-26-12	2019年8月19日
松本内科胃腸科	松本 新一	西区姪浜駅南 1-4-1	1998年2月19日
まなべ整形外科クリニック	真鍋 尚至	西区愛宕 4-14-22	2019年5月14日
まるもと脳神経外科クリニック	丸本 朋稔	西区周船寺 1-5-25	2019年9月10日
皆川外科医院	皆川 博美	西区姪の浜 4-2-21	1998年2月20日
三宅クリニック	三宅 恵一	西区姪の浜 4-2-1	1998年2月20日
めいのはま白翠内科クリニック	武田 洋子	西区姪の浜 4-14-30	2009年10月10日
もとやま小児科クリニック	元山 浩貴	西区姪浜駅南 2-31-2	2015年2月20日
矢野耳鼻咽喉科	矢野 玄	西区姪浜駅南 2-1-34	2019年6月4日
やまだクリニック	山田 勝博	西区姪浜駅南 2-1-37-3F	2019年10月16日
吉永産婦人科医院	吉永 公典	西区下山門 4-14-26	1998年2月20日
ゆう内科クリニック	兪 孝一	西区野方 1-20-10	2019年7月29日
りゅう・たけだクリニック	武田 韻論	西区野方 6-26-6	2019年7月29日

南区

施設名	院長名	住所	登録年月日
大山小児科医院	橋本 信男	南区大橋 4-24-40	1998年2月25日
如月福岡クリニック	福嶋 敬愛	南区大楠 1-32-14	2019年4月19日
こうだ内科クリニック	幸田 忠裕	南区三宅 2-10-31	2012年3月7日
しばた内科クリニック	柴田 恵介	南区花畑 2-32-18	2020年2月6日
とじたま甲状腺・糖尿病クリニック	玉井 秀一	南区大橋 1-9-15LenteFUKUOKA2F	2021年7月12日
長住医院	漢 幸太郎	南区長住 2-15-15	2019年9月17日
ふくだ内科循環器・糖尿病内科	福田 佑介	南区長住 2-1-11	2019年9月17日
みはら整形外科	三原 隆	南区長住 4-1-4	2019年12月18日
みやにし整形外科リウマチ科	宮西 圭太	南区松原 3-13-17	2019年9月12日
ラ・グランメール すどうクリニック	首藤 孝夫	南区大橋 1-4-10-2F	1998年2月25日

博多区

施設名	院長名	住所	登録年月日
かなみやクリニック	金宮 八重子	博多区博多駅南 1-3-11-1F	2015年2月5日
ごんどう外科胃腸科クリニック	権藤 寿昭	博多区東雲町 2-1-18	1998年2月19日
つつみクリニック福岡	堤 光太郎	博多区神屋町 2-26-103	2019年5月24日
野田医院	野田 淳子	博多区千代 3-3-9	1998年3月4日
のむら内科・神経内科クリニック	野村 拓夫	博多区博多駅中央街 1-1-5F	2019年11月18日
博多駅東クリニック	山本 宗満	博多区博多駅東 1-13-9-2F	2006年4月6日
ひまわりホームクリニック	工藤 啓介	博多区千代 1-1-55	2016年3月14日

施設名	院長名	住所	登録年月日
福岡メディカルクリニック	内藤 恵子	博多区店屋町 6-18-5F	2019年5月23日
昌樹医院	川原 雅樹	博多区上川端町 5-117-2F	-

東区

施設名	院長名	住所	登録年月日
上田内科クリニック	上田 美恵子	東区雁の巣 1-4-7	2007年11月30日

糸島市

施設名	院長名	住所	登録年月日
伊都クリニック	大島 章	糸島市波多江 265-1	2012年2月27日
さくらのクリニック	鷺坂 英輝	糸島市志摩桜井 2435-17	2017年1月18日
しばの循環器クリニック	芝野 竜一	糸島市波多江駅北 3-18-18	2020年1月16日
田中耳鼻咽喉科クリニック	田中 資介	糸島市波多江南 2-1-20	2019年7月24日
筒井内科医院	筒井 隆一	糸島市波多江駅北 1-8-16	2019年11月28日
ひづめ内科	樋詰 貴登志	糸島市浦志 2-2-1	2018年12月1日
フクヨ内科医院	福與 健介	糸島市高田 4-24-1	2019年6月27日
まさき循環器科内科クリニック	眞崎 浩行	糸島市前原 1018-3	2019年1月21日

活動報告

診療科

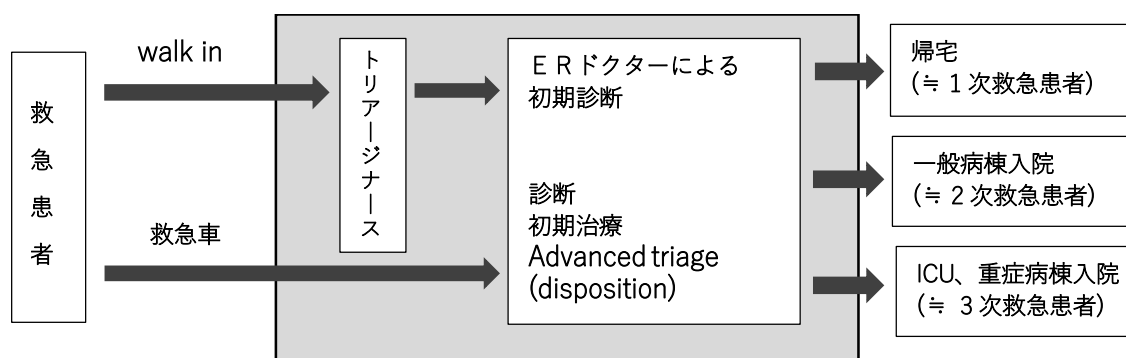
救急科

1. スタッフ

副院長 救急科部長 山口 哲 [DMAT (災害時派遣医療チーム) 隊員]
常勤医 東 貴寛 [日本本救急医学会専門医 日本外科学会専門医 日本消化器外科
学会専門医] 令和3年4月より

2. 診療内容

ER型救急システムは、北米のER(救急外来)で行われている救急医療システムです。①すべての救急患者(1次~2.5次まで)を断ることなく受け入れる。②ERで初期診療を行い、入院患者や手術には関与しない。③初期診療とは診断・初期治療・Advanced Triageを意味する、を満たしたものです。下図のように救急車やWalk inで来院した救急患者をERドクターが診療するシステムです。



当院では、ERで入院が必要と判断した場合は、各科が責任をもって患者さんを引き継ぎ、専門的な医療を提供しています。また2015年4月からは看護部も救急外来としての看護部門が外来から独立して、ER型救急システムがより充実してきています。ER型救急システムの充実により、全ての救急患者を受け入れ、「断らない医療」を実践していきたいと考えています。

3. 救急車搬入件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2018年	506	436	481	441	450	400	526	517	412	439	485	483	5,576	464.7
2019年	540	403	511	484	487	463	444	535	463	439	449	472	5,690	474.2
2020年	443	444	353	29	110	314	358	480	457	415	445	440	4,288	357.3
平均	496.3	427.7	448.3	318.0	349.0	392.3	442.7	510.7	444.0	431.0	459.7	465.0	5,184.7	432.1

総合診療科

1. スタッフ

総合診療科部長	太田 勇司	[日本外科学会専門医 日本内視鏡学会指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本気管食道学会専門医 日本大腸肛門病学会専門医・指導医 福岡県医師会認定総合医]
総合診療科部長	茂木 恒俊	[日本プライマリ・ケア学会専門医・指導医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 京都大学小児科学非常勤講師] 令和3年4月より
常勤医	後藤 仁典	令和3年4月より

外科・消化器外科・大腸肛門外科 肝臓外科・呼吸器外科

1. スタッフ

診療部長	城戸 英希	[日本外科学会専門医 日本消化器外科学会認定医 日本医師会認定産業医 福岡県医師会認定総合医]
外科部長	長谷場 仁俊	[日本外科学会専門医]
外科部長	御鍵 和弘	[日本外科学会専門医]
外科部長	芝原 幸太郎	[日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 消化器がん外科治療認定医 がん治療認定医 緩和ケア研修会修了]
外科部長	土井 篤	[日本外科学会専門医]

2. 活動報告

令和2年度外科業績を報告いたします。年度始めより、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により通常業務が停止しましたため、まずは病院一丸となり感染制御、機能回復に努めました。5月中旬以降外来を再開、その後救急患者受け入れも再開し、徐々に元の当院の姿に戻って行きました。患者様はもちろんですが、いつもご紹介いただいている先生方、また当院で対応困難となった患者様を受け入れていただいた医療機関の皆様には、改めて深謝申し上げます。

外科手術につきましては当面緊急症例のみに限定し、施行の際には full PPE で対応するという日々が続きました。予定手術は6月から再開しましたが、例年通りの状況に戻るにはやはり時間を要しました。このため手術症例数は、330例と前年と比べかなり減少しました。症例を個別に見てみますと胆石・胆嚢炎が最も多く、腹腔鏡下胆嚢摘出術50例、開腹胆嚢摘出術4例でした。虫垂切除は34例（2例のみ開腹手術）、大腸癌根治手術は30例（25例が腹腔鏡下手術）行いました。イレウス解除や小腸切除が16例、鼠径ヘルニア16例、消化管穿孔に対する手術は、上部7例・下部5例、肝切除3例、その他ヘルニア（腹壁癒痕ヘルニアなど）が6例という順になっております。また、総胆管結石・胆管炎症例に対する、ERCP 施行件数は129例でした。その他、CV ポート挿入や非代償性肝硬変症例に対する腹水濾過濃縮再静注法（CART）も行なっております。

地域医療支援病院の使命感の下、一層の地域貢献を目指します。逆紹介を増やし開業の先生や連携病院から1例でも多くご紹介いただけるように精進いたしますので何卒よろしくお願い申し上げます。

3. 診療実績

区分	術式	件数
食道・胃・ 十二指腸	食道裂孔ヘルニア手術	1
	胃・十二指腸穿孔縫合術	7
	胃全摘術	1
	胃切除(悪性腫瘍手術)(腹腔鏡1例)	3
肝臓・脾臓・ 膵臓	肝切除術	3
	膵頭部腫瘍切除術(悪性腫瘍)	1
胆嚢・胆道	内視鏡的胆道ステント留置術、乳頭 切開術、碎石術	129
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	50
	胆嚢摘出術	4
	胆嚢悪性腫瘍術	1
肛門	痔核手術(脱肛を含む)	6
	肛門周囲膿瘍切開術	1
	肛門ポリープ切除術	2
心臓・血管・リンパ	中心静脈注射用埋込型カテーテル設置	1

区分	術式	件数
小腸・大腸・ 直腸	イレウス解除術(内腹腔鏡下2例)	16
	小腸切除術(悪性腫瘍手術以外)	3
	小腸切除術(悪性腫瘍手術)	1
	虫垂切除術	2
	腹腔鏡下虫垂切除術	32
	結腸切除術(悪性腫瘍手術)	2
	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	23
	人工肛門閉鎖術	1
	ハルトマン手術(急性汎発性腹膜炎手術)	5
	腹腔鏡下直腸切除・切断術	5
	鼠径ヘルニア	16
	腹腔鏡下鼠径ヘルニア	4
	閉鎖孔ヘルニア	2
その他	腹水濾過濃縮再静注法	10

4. 内視鏡検査件数、内視鏡処置及び手術件数

区分	術式	件数
処置・手術	内視鏡的消化管止血術	34
	内視鏡的ポリープ・粘膜切除術	50
	内視鏡的ステント留置術	9
	内視鏡的乳頭切開術	56
	内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	9

整形外科 脊椎脊髄外科

1. スタッフ

整形外科部長	本家 秀文	[日本整形外科学会整形外科専門医]
脊椎・脊髄外科部長	隈元 真志	[日本脊髄外科指導医 日本骨粗鬆症学会認定医]
常勤医	樋口 健吾	[日本整形外科学会整形外科専門医]
常勤医	高島 怜史	令和3年4月より

2. 診療内容

昨年度は4月早々に新型コロナウイルスによる院内クラスターの発生に伴い、近隣の先生方には大変ご迷惑をおかけしました。当院整形外科の外来、入院患者様も一時的に落ち込みましたが、現在は近隣の先生方のご協力により紹介の患者様も以前同様に増えてきており、手術数も例年同様まで増えてきております。この場を借りて先生方には改めて感謝の意を伝えさせて頂きたいと思っております。

今年度は4月より佐賀大学整形外科に新入局した高島怜史先生を迎えました。新任の高島先生にくわえて前年度同様脊椎・脊髄外科の隈元真志先生、膝関節外科の樋口健吾先生、診療科部長の本家の4人体制で診療を行っております。

外来は月～土曜日の午前中に行っており、月曜日は樋口・高島、水曜日は樋口、火・金曜日は本家、木曜日、土曜日は交代制となっています。脊椎・脊髄外科主には月、木、金の午前を中心に外来を行っています。また、引き続き佐賀大学整形外科、馬渡正明教授に木・土曜日は股関節疾患の患者様を中心に外来、手術をして頂いています。

当院整形外科の手術数は昨年度 700 例程度でしたが、例年 800～900 例の手術を行っております。外傷に伴う骨折等に対する手術と股関節、膝関節、脊椎の変性疾患に対する手術が主ですが、症例によっては佐賀大学から肩関節、手の外科、足の外科などの専門医を招聘し、積極的に手術を行っています。

今後も近隣の開業医の先生方、回復期病院の先生方にご協力頂き、患者様のご紹介や術後の患者様の転院などをお願いさせていただく機会があるかと思いますが、今後ともよろしくお願い致します。

3. 診療実績

年間新患者数：1041 人

年間手術総数：772 例

脊椎手術：頸椎 7 例、胸椎 17 例、腰椎 66 例、その他 4 例

関節手術：股関節：121 例、膝関節 53 例（そのうち関節鏡視下手術 21 例）、足関節 2 例

骨折（骨接合術）：上肢 126 例、下肢 206 例

手の外科：13 例

その他：149 例

脳神経外科

1. スタッフ

副院長 脳神経外科部長 古市 将司 [日本脳神経外科学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医]

脳神経外科部長 大田 正流 [日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医]

脳神経外科部長 ガンマナイフセンター長

溝田 新吾 [日本脳神経外科学会専門医]

脳神経外科部長 八木 伸博 [日本脳神経外科学会専門医]

福田 修志 [日本脳神経外科学会専門医] 令和 3 年 4 月より

2. 診療実績

平均入院患者数…………… 60 名

3. 手術症例分類表（2020 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

○脳外科的手術の総数…………… 39 件

区分	術式	件数	区分	術式	件数
脳腫瘍	摘出手術	3	外傷	急性硬膜下血腫	3
	脳血管障害	高血圧性脳内出血		6	慢性硬膜下血腫
その他		3		急性硬膜外血腫	1
水頭症	脳室シャント術	5		その他	5
	その他	1			

○血管内手術総数…………… 25 件

区分	術式	件数
血管内手術総数	動脈瘤塞栓術（破裂動脈瘤）	6
	動脈瘤塞栓術（未破裂動脈瘤）	1
	閉塞性脳血管障害	17
	その他	1

○その他…………… 1 件

○脳定位的放射線（ガンマナイフ）治療… 117 件

形成外科

1. スタッフ

形成外科部長 岡 潔 [日本形成外科学会専門医]

2. 診療内容

当院形成外科では、顔・手足（指）の骨折や先天異常（副耳や耳瘻孔、多指症など）、体表の外傷や熱傷、褥瘡や皮膚潰瘍、皮膚・皮下腫瘍、陥入爪（巻き爪も含む）などの治療を行っています。また、外傷や癌などの手術後の瘢痕・欠損・変形に対する機能や形態の再建（修正）なども行っています。患者さんの QOL（Quality of Life）の向上のために、「目立ちにくい傷あと」を目指しています。

当科は他の診療科との境界領域も多く、必要な場合は連携をとりながら治療を行なっております。日常の診療でお困りの症例などございましたら、ぜひご相談ください。

3. 診療実績（20 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

外来 ……総数 1,318 名（新患）150 名

手術 ……84 件

手術名	件数
創傷処理	28
腫瘍摘出術・切除術	8
骨折観血的手術（眼窩・頬骨・上顎）	7
腋臭症手術	4
植皮術（分層・全層）	11
臍剥離術・移植術	2

手術名	件数
皮弁形成術	6
デブリードマン	6
骨折経皮的鋼線刺入固定術	2
瘢痕拘縮形成手術	3
四肢切断術	2
その他	5

心臓血管外科・血管外科

1. スタッフ

副院長 心臓血管外科部長 宮本 和幸 [日本外科学会専門医・指導医 心臓血管外科専門医 心臓血管外科
修練指導者 腹部大動脈ステントグラフト実施医 心臓リハビリ
テーション学会指導士]

心臓血管外科 鬼塚 大央 [心臓血管外科専門医 日本外科学会専門医 日本脈管学会専門医
下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医 臨床研修指導医]

2. 診療内容

昨年より引き続き、宮本と鬼塚の二人で診療を行っています。手術は九州大学心臓血管外科教室のバックアップで行っています。

新型コロナ感染症の影響で2020年4月から6月中旬まで、手術が全くできない状態が続きましたが、以後は手術症例が回復しました。今後も地域の病院、当院の循環器内科と連携し手術数の増加、成績の向上に努めていきます。

3. 診療実績

2020年に行った手術は71例で、開心術は昨年より17例増加しました。内訳は以下の通りでした。

(1) 開心術 35例

- ・単独冠動脈バイパス術(CABG) 12例 (緊急手術4例)
- ・心筋梗塞後心破裂修復 2例 (CABG追加1例)
- ・心筋梗塞後心室中隔穿孔根治 1例
- ・左室血栓除去+CABG 1例
- ・弁膜症手術 9例
(AVR 2例、MVP 3例、AVR+MVP/R 3例、AVR+CABG 1例)
- ・胸部大動脈手術 7例 (A型乖離3例、破裂2例)
- ・心臓腫瘍摘出 1例
- ・心タンポナーデ解除 1例
- ・収縮性心膜炎手術 1例

(2) 非開心術 36例

- ・腹部大動脈手術 5例 (破裂1例)
- ・末梢血管手術 19例
- ・下肢静脈瘤手術 8例
- ・その他 4例

4. 学会・講演会

なし

脳神経内科

1. スタッフ

- 理事長 黒田 康夫 [日本内科学会評議員・指導医 日本神経学会評議員・指導医 日本認知症学会
専門医・指導医]
- 脳神経内科部長 長山 成美 [日本神経学会専門医・指導医 日本認知症学会専門医・指導医 日本脳卒中
学会認定脳卒中専門医 日本内科学会認定内科医] 令和3年7月より

内科・消化器内科・呼吸器内科・感染症内科 糖尿病内分泌内科・リウマチ科

1. スタッフ

- 診療部長 辛嶋 健 [日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学
会・内分泌代謝科専門医、功労評議員]
- 内科部長 藤原 英樹 [日本循環器学会専門医 日本医師会認定産業医 福岡県医師会認定総合内科医]
- 内科部長 松岡 浩
- 感染制御部長 向野 賢治 [日本内科学会内科認定医 日本感染症学会専門医・指導医 日本リウマチ学会
専門医 日本化学療法学会抗菌薬臨床試験指導者 インフェクションコント
ロールドクター (ICD) 日本医師会認定産業医 特別管理産業廃棄物管理責任者
第一種衛生管理者衛生工学衛生管理者]

2. 診療内容

当院の内科の常勤医師は4名（辛嶋、藤原、向野、松岡）です。

内科に属する専門外来は糖尿病・内分泌（月－木の午前；担当辛嶋）、リウマチ・感染症（月－木の午前；担当向野）となっています。

入院診療に関しては辛嶋、松岡、藤原が担当します。内科に入院となった症例は血糖コントロール目的以外ほとんど救急患者です。

昨年度の入院疾患は肺炎を始めとした感染症が多く、高血糖緊急症や電解質異常などの代謝性疾患、アルコール中毒を含む薬物中毒などが中心です（表参照）。

超高齢化社会を迎え、後期高齢者、超高齢者の入院例が圧倒的に多く、ベッドを円滑に運営するため、リハビリ病院、療養型病院、老健施設、在宅診療医との病診連携、病々連携を密にしていく必要があります。関係各位には更なるご支援をお願い致します。

3. 入院症例の主病名一覧（内科のみ）

区分	病名	件数	区分	病名	件数
呼吸器系疾患	肺炎、誤嚥性肺炎	317	感染症	尿路感染症	31
	COPD	10		敗血症	5
	肺繊維症・間質性肺炎	10		感染性腸炎	3
	急性上気道炎・気管支炎	5		インフルエンザ	2
	原因不明の旧姓呼吸不全	5		ウイルス以外の感染症	10
	気管支喘息	5		その他のウイルス性感染症	5
	その他の呼吸器疾患	9		COVID19 感染症	15
区分	病名	件数		区分	病名

内分泌・代謝疾患	糖尿病	32	中毒性疾患 熱中症	急性薬物中毒	48
	脱水症	25		急性アルコール中毒	19
	横紋筋融解	15		熱中症・低体温	9
	水・電解質異常	11	脳・神経系疾患	認知症	8
	低血糖	4		パーキンソン病・症候群	7
	栄養障害	4		脳症	2
	内分泌疾患	4		癲癇	2
	骨粗鬆症	2		その他の神経系疾患	9
	その他の代謝疾患	4	血液疾患	種々の血液疾患	2
消化管疾患	肝炎・肝機能異常	6	腎疾患	急性及び慢性腎不全	5
	消化管腫瘍	2	新生物		15
	食道疾患	2	その他の入院	精神科関連疾患	16
	肝硬変・肝不全	2		整形外科疾患	14
	胆嚢・胆管結石	1		耳鼻科疾患	6
	その他の胃腸疾患	4		脳外科疾患	4
その他の循環器疾患	14	皮膚科疾患		4	
その他の循環器疾患	14	泌尿器科疾患	3		

循環器内科

1. スタッフ

病院長	上野 高史	[日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本心血管インターベンション学会専門医・指導医、日本心臓血管内視鏡学会専門医]
副院長 循環器内科部長 病院長代理	舩元 章浩	[日本内科学会認定・総合内科専門医・指導医 日本循環器学会専門医 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 日本心臓リハビリテーション学会指導医 日本心血管インターベンション学会専門医 臨床研修指導医]
循環器内科部長	中村 広	[日本循環器学会専門医]
循環器内科部長	久米田 洋志	[日本循環器学会専門医]

2. 診療内容

当科の診療体制は循環器専門医4名、研修医1名で、入院・外来診療を行っております。前年と比して、冠動脈インターベンション、高周波カテーテルアブレーション件数が増加しました。非侵襲的な検査である心エコー、ホルター心電図、冠動脈MDC検査、薬物負荷タリウム心筋シンチ検査を組み合わせることにより、今まで冠動脈造影検査だけの目的で入院していただいていた症例も、入院せずに外来での精査・経過観察が可能となりましたので、患者さんによりやさしい医療を提供できるようになりました。冠動脈インターベンションも冠動脈MDCT検査所見をもとに、より詳細なstrategyをもって施行できるようになりました（末梢血管形成術も同様です）。また、高周波カテーテルアブレーションに対しても積極的に取り組み、薬剤抵抗性である不整脈の根治・寛解を目指しております。

このように(PCPS、IABPなどの)循環器救急領域から心臓リハビリテーションまで多岐にわたって、より専門的な医療を提供できるようになってきております。昨年より上野高史先生（前久留米大学循環器病センター教授）も院長として着任されましたので、ますますパワーアップした体制で診療を行っていききたいと思います。

3. 診療実績 (2020年1月1日～12月31日)

主な検査、治療実績	件数	主な検査、治療実績	件数
冠動脈造影	105	経胸壁心エコー	2,917
冠動脈インターベンション	90	経食道心エコー	6
冠動脈CT	516	ホルター心電図	242
心筋シンチ	199	イベントレコーダー	74
下大静脈フィルター	2	カテーテルアブレーション	727
人工ペースメーカー	41		

4. 業績

学会・研究会・講演会

開催日	演題名	発表者	名称
1月25日	心不全、洞不全症候群を併発したRS3PE症候群の1例	麦田 史仁 舩元 章浩 久米田洋志 中村 広 向野 賢治 上野 高史	第328回日本内科学会九州地方会(福岡)
1月23日	心不全ガイドライン：かかりつけ医向けガイダンスを活用したうっ血管理	舩元 章浩	福岡西部地区医療連携講演会(福岡)

開催日	演題名	発表者	名称
11月24日	アブレーションにおけるマッピングカテーテル	舩元 章浩	アボットジャパン Web 講演会(福岡)
11月27日	植え込みバイパス治療について	舩元 章浩	バイオトロニック社 Web 講演会(福岡)

論文・症例報告

著者	論文・著作名	雑誌名：巻(号) 頁・年号
Mito M Takemoto M Antoku Y Masumoto A Nozoe M Tanaka A Ueno T Tuchihashi T	Evaluation of Coronary Artery Disease in Patients with Atrial Fibrillation by Cardiac Computed Tomography for Catheter Ablation:CADAF-CT Trial.	Heart and Vessels 35:1037-1043, 2020
Mito M Takemoto M Antoku Y Masumoto A Nozoe M Tanaka A Ueno T Tuchihashi T	Evaluation of Coronary Artery Disease in Patients with Atrial Fibrillation by Cardiac Computed Tomography for Catheter Ablation:CADAF-CT Trial2.	Heart and Vessels 59:2831-2837, 2020
Antoku Y Takemoto M Tanaka A Mito M Masumoto A Ueno T Tuchihashi T	Radiofrequency catheter ablation of premature ventricular contractions from the mitral annulus in patients without atructural heart disease.	PACE 43:1258-1267, 2020

著者	論文・著作名	雑誌名：巻(号) 頁・年号
舩元 章浩 野田 啓司 石岡 久和 向野 賢治 上野 高史 黒田 康夫 渡邊 浩	ファビピラビルの副作用が新型コロナウイルス感染症増悪と似た経過をたどり鑑別が困難であった1例	日本感染症学会 HP, 2020
藤澤 愛 舩元 章浩 向野 賢治 上野 高史 黒田 康夫	高齢発祥の新型コロナウイルス感染症に対してファビピラビルとトシリズマブを投与した症例	日本感染症学会 HP, 2020
杉元 悠太郎 舩元 章浩 藤澤 愛 御鍵 和弘 中村 広 石岡 久和 向野 賢治 上野 高史 黒田 康夫	ファビピラビルが無効であった新型コロナウイルス治療にトシリズマブ投与を行った2症例についての検討	日本感染症学会 HP, 2020

小児科

1. スタッフ

小児科部長 山崎 兼吾 [日本小児科学会専門医]

2. 診療内容

2019年9月より常勤医1名で診療を行っており、朝8時15分から夕方は17時15分まで診療時間を設けております。

また隔週火曜日、久留米大学病院小児循環器の須田先生の循環器外来は2021年3月をもって閉鎖となりました旨を報告いたします。

入院に関しては一般病棟の個室にて対応しております。COVID-19陽性例の入院は当院の体制では対応困難である旨ご了承ください。

時間外の入院・検査のご依頼、救急搬送に関しても可能な限り対応致しますのでお問い合わせください。

3. 新型コロナウイルス感染症の影響

2020年4月に当院で発生いたしました新型コロナウイルス感染症によるクラスターにより、近隣の住民の皆様、関係医療機関の方々に多大なご心配をおかけいたしましたこと改めてお詫び申し上げます。

開業の先生方も小児科受診の大半を占める感染症患者数の減少には頭を悩ませていらっしゃるかと存じますが、当科におきましてもクラスターによる病院機能閉鎖の影響もあり、2020年の年間入院数は22名と前年の152名から激減しております。

現在入院患者様に関しましては、患児本人および付き添いの保護者さまを対象に入院時にLAMP法によるPCR検査を院内で施行しております。

これからも早良区・西区を中心に福岡市内のこども達の笑顔のために地域開業医の先生方と連携を図りながら診療をしていきたいと思っております。

4. 診療実績 (2020年1月1日～12月31日) 小児科総入院数 22名

主な入院病名	件数
感染性胃腸炎、嘔吐症	10
気管支炎、気管支喘息	4
熱中症、誤飲、外傷他	8

泌尿器科

1. スタッフ

副院長 泌尿器科部長 橋本 恭子 [日本泌尿器科学会専門医・指導医]

2. 診療内容

2020年の外来総数は2937名、うち新患は804名でした。入院内訳は以下のようになっています。結石治療及び尿路感染症が増加傾向にあります。当院では高気圧酸素治療が可能な為、止血困難な放射線性膀胱炎の紹介が増えています。診療体制は、2020年も変わらず常勤1名、非常勤1名です。

3. 入院実績 296例

疾患名	件数
尿路結石症	110
尿路感染症	89
排尿障害	63

疾患名	件数
悪性腫瘍	11
精巣・陰囊の疾患	4
その他	19

4. 手術実績 271例

術式	件数
体外衝撃波結石破碎術	90
経尿道的尿管ステント留置術等	120
膀胱内凝血除去術	12
腎瘻造設術	21

術式	件数
膀胱結石摘出術	5
膀胱瘻造設術	12
その他	11

皮膚科

1. スタッフ

皮膚科部長 工藤 稔

2. 診療内容

当院皮膚科は常勤1名です。入院対象としては、帯状疱疹、蜂窩織炎・丹毒、アナフィラキシー、熱傷、水疱性類天疱瘡などがあります。手術は外来で行える小手術がほとんどです。中でも粉瘤が最も多く、その他、石灰化上皮腫、色素性母斑、ポーエン病、脂漏性角化症、脂肪腫、軟線維腫などがありますが、基本的には単純縫縮できるものを扱っておりますので、いつでもご相談ください。

婦人科

1. スタッフ

婦人科部長 山口 淑恵 [日本産婦人科学会専門医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
母体保護法指定医]

常勤医 安岡 真理子 [日本産婦人科学会専門医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医]

2. 診療内容

急性腹症や不正性器出血、月経困難症、更年期障害、排尿障害、子宮留膿症、外陰部異常、婦人科検診の二次精査など、様々な症状に対応しています。子宮付属器炎や高度貧血などでの入院治療や骨盤臓器脱などの腔式手術は行っていますが、緊急手術（開腹、腹腔鏡下）を要する症例や精査にて悪性腫瘍（の疑い）が判明した症例は対応可能な医療機関へ紹介しています。

当院では多言語による診療案内など体制を整えていますので、多くの外国人の方にも安心して受診していただいています。

3. 診療体制

外来診療は当院の診療時間通り、月曜から土曜日まで行っており、基本的には予約制ですが、急な受診や救急対応、当日紹介にも対応しています。

4. 診療実績

手術（2019年1月～12月）

術式	件数
子宮全摘出術	1
子宮脱手術（腔式子宮全摘出及び前後膈壁形成術）	1
子宮頸部円錐切除術	1

5. 今後の展望

今後も地域の先生方とともに地域住民に寄り添った医療を提供できるよう努力してまいりますので、日常診療において婦人科疾患でお困りなこと、心配なことがありましたら、是非ご相談ください。

耳鼻咽喉科

1. スタッフ

耳鼻咽喉科部長 新里 祐一 [日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本気管食道科学会専門医]
碓 絵馬 令和3年4月より

2. 概要

当科は平成15年6月に開設され、九州大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の関連病院として常勤医師が勤務しています。平成29年4月に常勤医師が2名に増員となったものの、諸般の事情にて平成30年4月から常勤医師は1人体制となりました。令和2年は月曜日および木曜日に九大病院からの外来非常勤医も勤務しています。

3. 診療体制

令和2年度は、全国どこの医療施設でも同様でしょうが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を強く受けています。さらに当院でクラスターが発生したために当科の外来・入院治療はいうに及ばず、当院の救急診療受け入れまでもストップとなる深刻な状態でした。

令和2年3月までの外来受診患者の延べ人数は月当たり平均270人でしたが、4月は外来受診がストップとなったため、外来受診延べ人数37人でした。この人数はほぼこれまで定期通院されていた方の電話再診によるものです。5月に外来診療再開となってからも、5月は84人、6月は153人であり、徐々に増加はしてきましたが、10月から12月の3ヶ月平均も186人となっていて、COVID19以前と比較すると、外来の受診延べ人数は7割弱程度になっています。

耳鼻咽喉科での検査・処置はエアロゾルが発生しやすい状況なだけに、耳鼻咽喉科検査としては不可欠な喉頭ファイバー検査についても、外来再開当初は対応に苦慮しました。幸いなことに内視鏡装置のすぐそばに薄型パーティションタイプのエアフィルターを設置することが可能になったため、ゴーグルを含むPPEを装着することによって再開することができました。同様にしばらくは他科入院の患者さんについても嚥下内視鏡検査(VE)を中止していましたが、徐々に再開としています。

他科疾患にて入院中の方にたまたま下咽頭癌が見つかり、4月初めに転院予定であった矢先にPCR陽性となった方がいました。保健所の指導により転院不可となり、陰性が確認できるまで高次医療施設に転院できませんでした。その時点ではどうしようもないこととは今でも思っていますが、残念なできごとでした。

4. 入院診療実績

福岡市内でも救急搬送の多い当院の性格上、これまで同様末梢性めまい症が最多です。

基本的にはこれまでと同様、救急外来にて脳血管障害が否定された後に当科に入院の連絡があるというパターンがほとんどです。ただ、COVID19以降は入院する際には救急入院患者でも全員PCR検査をすることになっていますので、陰性が確認できるまでは基本的には大部屋には入室できません。個室にて結果が判明するまでは待機となるのですが、特に緊急の場合を除いて一人用PCRではなく、11時および15時にまとめて検査をすることになります。それまではたとえ聴力検査等できるような状態まで軽快していたとしても耳鼻咽喉科外来にくることはできず、PCR陰性が確認できるまで病室内で待ってもらわなければなりません。しばらくはこの状況が続きそうです。

5. 高気圧酸素治療(HBO)について

当院は福岡市内では数少ないHBOの実施可能な施設です。他施設での初期治療例あるいはステロイド治療後の方で突発性難聴の聴力改善が思わしくない方のご紹介をいただくことがあります。

これまでCOVID19以前は外来患者の方でもHBOを施行していましたが、高気圧酸素治療室がHCUのすぐそばにあり、COVID19患者さんとの動線の区別がどうしてもできないために、HBOをしばらく休止せざるをえなくなりました。

HBO再開後も基本的には入院でPCR陰性を確認してからHBOを施行することとなり、しかも1日4枠から2枠に減らさざるを得ませんでした。HBOでは装置の中で密閉の状態になるので、まだCOVID19禍の状況では外来治療ではしばらくはできないだろうと感じています。

6. その他

診療体制はこれからもまだCOVID19の影響を受けるものと思われます。しかしながら、ワクチン接種も徐々にひろがると思われますし、感染予防に気をつけながら地域医療に貢献できる耳鼻咽喉科をめざしたいと考えています。

精神科

1. スタッフ

精神科部長 内田 信哉 [日本精神神経学会専門医・指導医 精神保健指定医]

2. 外来診療体制

当院精神科は完全予約制になっています。それは精神分析的な精神療法、力動精神療法が診療基盤となっている為、患者さん1人当りにかける時間が通常の精神科外来診療より長いことが特長の1つです。しかし、当院は救急病院ということもあり、身体的救急患者さんに精神疾患が併存している時には上記の限りではありません。

3. 入院診療

当院には精神科病床はない為、入院中の患者さんで精神科治療が必要である方に対しては、リエゾンコンサルテーションサービスを行っています。2020年における精神科サービスの科別詳細人数は下表のとおりです。内容としてはせん妄が最も多い症例でした。

診療科	件数	診療科	件数	診療科	件数
内科	33	泌尿器科	6	脳神経外科	1
整形外科	29	心臓血管外科	4	呼吸器科	1
循環器内科	24	耳鼻咽喉科	4	皮膚科	1
外科	16	救急科	3		
脳神経内科	12	形成外科	2		
合計					136

4. 研修医教

協力病院として油山病院にて現在は1人1か月の研修を行っています。当院精神科医も水曜日午後は研修医の講義・指導を油山病院で行う為、当院外来は、水曜日は午後休診となっています。

5. 外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新患	1	3	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	6
再診	129	113	125	25	84	107	125	107	112	125	105	116	1,273
合計	130	116	125	25	84	107	125	107	113	126	105	116	1279

眼科

1. スタッフ

眼科部長	春野 佳子	[日本眼科学会専門医]
視能訓練士	佐野 和子	
視能訓練士	寺崎 かおり	

2. 診療内容

常勤スタッフは上記の通りです。視能訓練士（ORT）がひとり育児休暇中のため、佐野 ORT が孤軍奮闘中です。皆様には検査時間の調整などにご協力頂き感謝に絶えません。

外来診療は、予約優先です。午前是一般診療を、午後は手術や特殊検査、外来手術（外眼部手術や硝子体注射、レーザー治療）や視能訓練・ロービジョンケアを行います。

診療範囲は、眼窩、眼瞼、涙道から網膜硝子体、視神経まで、眼科全てに対応しました。より高度な診断・治療や多角的な判断が必要な時は、近隣の大学病院と連携しています。

3. 手術・入院

手術日は、月曜・木曜の午後と金曜午前中です。今年は 81 件と前年の 2/3 と大幅減でした。内訳は以下の通りで、白内障手術が最多でした。

手術名	件	手術名	件
白内障手術	41	涙道手術	2
(眼内レンズ縫着 3)		眼瞼手術	8
(後発白内障手術* 4)		(内反症 2)	
緑内障手術	9	(下垂症 2)	
(濾過手術 0)		角膜異物除去	2
(虹彩切除術* 4)		虹彩整復・瞳孔形成	3
(隅角形成術* 5)		網膜光凝固術*	4
硝子体手術	4	その他	8

注射	件
硝子体注射	12
Botox 注射	9

*はレーザー治療

4. 今後の展望

令和 2 年は、新型コロナのクラスター発生のため 4～5 月は休診となり、皆様には大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。

4 月に就任した上野新院長の指揮のもと、新型コロナ感染の対応に全力を尽くしましたが、その際当科では、患者さん皆さまに直接医師が電話連絡し、病院現状の説明と各人の病状の確認を行い、できる限りの対応をさせて頂きました。

眼科開設以来 19 年目。今後変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

麻酔科

1. スタッフ

麻酔科部長 竹内 広幸 [日本麻酔科学会麻酔科専門医 日本救急医学会救急科専門医 日本小児麻酔学会
小児麻酔認定医 日本集中治療医学会集中治療専門医 JB-POT 認定医]

常勤医 秋吉 瑠美子 [日本麻酔科学会麻酔科専門医]

西川 文 [日本麻酔科学会麻酔科専門医]

松尾 顯 [日本麻酔科学会麻酔科専門医] 令和3年4月より

2. 診療実績

2020年1月1日～12月31日の期間(以下、本年とする)における麻酔科の麻酔実績は以下の通りである。

麻酔科管理症例数	1,092件(内、手術室内 1,066件 それ以外 26件)
救急救命士による気管挿管実習	1名 修了

年間麻酔科管理症例数全体は前年と比べて約250件減少(前年1,339件)した。その要因の一つとして、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により一時的に患者受け入れができなかった期間があったことがあげられる。

以下、本年の麻酔科管理症例について、いくつかの方法で分類し、それぞれの視点から見える実情と今後の課題を分析する。

【ASA-PSによる分類】

予 定	1	2	3	4	5	6*	計	合計
	221	608	115	5	0	0	949	1,092
緊 急	1E	2E	3E	4E	5E	6E*	計	
	36	55	42	8	2	0	143	

*: 臓器摘出を受ける脳死患者

ASA-PSの詳細は、米国および日本麻酔科学会の記述を参照のこと。

本年の手術症例は、前年と比較して予定手術、緊急手術ともに減少した。減少幅としては、予定手術は前年比約18%、200件減少、緊急手術では25%、45件減少という結果であった。ASA-PS 3E別では、特に予定手術PS 1,2の患者が大きく減少していたが、緊急手術3E(コントロール不良な身体疾患が併存していたり、透析やペースメーカーなどの比較的濃厚な治療をうけていたりする患者)である重症患者の手術数はあまり変わらなかった。これは新型コロナウイルス感染拡大の影響で全国的に不要不急の予定手術を差し控える傾向にあることが関係している可能性があると思われる。一方で可及的迅速な手術が必要な重症患者はコロナ禍であっても変わらず存在するということがわかる。

この状況下で我々に課せられる課題は、地域の救急病院の手術室としての役割を全うするために、徹底した感染防護策を徹底したうえで、重症の緊急手術を受け入れられる体制をしっかりと整えておくことであろう。

【手術部位による分類】

部位	症例数	部位	症例数
脳神経・脳血管	40	胸壁・腹壁・会陰	32
胸腔・縦隔	11	脊椎	109
心臓・血管	54	股関節・四肢(含末梢神経)	607
胸腔+腹部	0	検査	0
上腹部内臓	88	MAC	0
下腹部内臓	1089	ECT	0
分娩	0	その他	6
頭頸部・咽喉部	34	合計	1,092

【麻酔法による分類】

麻酔法	症例数	麻酔法	症例数
全身麻酔(吸入)	257	硬膜外麻酔	14
全身麻酔 (TIVA)	244	脊髄くも膜下麻酔	163
全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	377	伝達麻酔	11
全身麻酔 (TIVA) +硬・脊、伝麻	15	その他	4
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 (CSEA)	7	合計	1092

麻酔法に関しては前年と特に変わりなし。本年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、極力全身麻酔を避けるように心掛けたのだが、結果としては相応に全身麻酔を行っていた。これはコロナ禍であっても全身麻酔手術が必要な患者が一定数いたという事実を反映していると思われる。

【年齢構成による分類】

	男性	女性	合計
～1ヶ月	0	0	0
～12ヶ月	0	0	0
～5歳	4	3	7
～18歳	20	12	32
～65歳	248	148	396
～85歳	217	277	494
86歳～	36	127	163
合計	525	567	1092

19～65歳女性の件数が約100件減少している。これの大半には人工股関節置換術を受ける患者が含まれるであろうと考えられる。

以上のことを総合すると、

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で手術件数は前年より大幅に少なかったが、高齢で周術期リスクの高い患者の緊急手術の件数はあまり減っていない。
- ・予定手術は、いわゆる「いつやってもいい」手術を中心に大きく減少している。その中で特に人工股関節置換術を受ける患者の減少が目立つ。

本年は、何においても新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年であった。本年も手術件数を増加させることが結果としてできなかったことに関しては残念な思いがある。ただ、新型コロナウイルス感染症への対策として手術室の体制の整備、他部署との連携を作っていく過程で、これからの福岡記念病院、手術室のあり方を考えさせられた。上述の結果でも示したが、コロナ禍であっても重症の緊急手術患者の数は変わらずに存在する。現況下でこういった患者を救うためには、新型コロナウイルス感染症へ対策を万端にした体制作りが必要であろう。新型コロナウイルス感染症患者、非感染症患者ともに、安全な手術室運営が引き続き行えるように研鑽は続けなければならない。

放射線科

1. スタッフ

副院長 放射線科主任部長 石岡 久和 [日本医学放射線学会放射線診断専門医]
放射線科部長 國弘 敏之 [日本医学放射線学会放射線診断専門医]

2. 診療内容

画像診断としては、急性疾患を中心として撮像・読影を施行しています。一方で、精査目的の検査も施行し、複数の医療機関からの疑わしい病変についての撮像・読影のご依頼も受けています。院外の先生方からのご依頼を多く頂き、このような形での地域への貢献をできればと願っています。

CTでは、80列、320列の2台のCTを駆使して診療を行い、MRIでは3.0T、1.5T装置の2台体制で診療を行っています。これにより多くの検査を迅速に施行し、救急のみならず炎症・腫瘍を含めた多くの疾患に対応できる体制を整えています。

放射線治療としては、九州大学医学部放射線科（九州大学医学研究院 臨床放射線科学分野）から放射線治療医を派遣して頂き、リニアック装置による高いレベルの治療を行っています。福岡市に限らず県外を含めて広く篤く対応いたしますので、ご紹介を頂ければ幸いです。

今年度は新型コロナウイルス肺炎のため、胸部を撮像する機会がこれまでに比べて格段に増加しました。今後もこの傾向は続くことと思いますが、救急疾患や炎症・腫瘍をはじめとする重要な疾患は依然として診療の場に登場します。

画像診断・放射線治療の2本の柱で、これまでと同じ堅実な姿勢で院内の各科先生方、院外の多くの先生方からのご依頼に応え、この地域で頼りになる福岡記念病院放射線科を目指していきたく考えています。

3. 診療実績

放射線科業務実績（2020年）

種別	件数
一般撮影	24,891
乳房撮影	39
骨塩定量測定	798
造影撮影（DIC,IVP,ERCPなど）	601
消化管撮影 上部消化管	88
下部消化管	53
その他	83
消化管 計	224
血管造影（含IVR） 頭部	19
軀幹・四肢	32
循環器	479
血管造影 計	530

種別	件数
CT撮影 頭頸部	4,113
軀幹	7,042
四肢	465
CT撮影 計	11,620
MR撮影 頭頸部	2,498
軀幹	916
四肢	233
MR撮影 計	3,647
核医学検査（RI）	302
放射線治療 ガンマナイフ	111
リニアック延照射数	455

歯科・歯科口腔外科

1. スタッフ

副理事長 大塚 秀一 [歯学博士]
常勤医 大塚 智子

2. 診療内容

歯科医師 2 名、歯科衛生士 2 名の体制にて診療を行っています。診療としては一般歯科治療、口腔外科、歯科インプラント治療、入院患者（希望者）の口腔ケア、摂食機能療法、歯科健診、口臭測定等を行っています。

診察時間	
平日	8:30～17:00（16：30 受付終了）
土曜日	8:30～12:00（11：30 受付終了）

2. 診療実績

病名	件数	病名	件数
歯周病	190	顎関節症	8
義歯作製	38	歯牙脱臼	7
智歯周囲炎	21	歯槽骨骨折	3
歯牙破折	11	口腔裂創・挫創	2
顎骨骨折	8		

3. 勉強会

開催日	名称	テーマ
2020 年 5 月 11 日	歯科勉強会	新型コロナ感染対策の勉強会①
2019 年 10 月 12 日	歯科勉強会	新型コロナ感染対策の勉強会②

4. 今後の方針

近年患者様の QOL 向上のために、嚥下や口腔内環境が大きく関与していると言われていています。そのため入院の患者様に対しての、口腔ケアや嚥下訓練を行う、摂食機能療法を行っております。また口腔内疾患と全身疾患との関連性も多数報告されています。このようなことを患者様や多くの方々に知ってもらい、歯科治療に対する関心を持って頂きたいと思えます。

新型コロナウイルスの感染対策として、標準予防策の遵守、患者ごとの環境消毒の配慮、エアロゾル対策として口腔外バキュームを導入しコロナ禍でも患者様に安心して受診して頂ける環境を整えています。

臨床検査科

1. スタッフ

臨床検査科部長 塚本 良樹 [日本医学放射線学会放射線専門医]

看護部

○ 看護部の理念

常に社会と医療の動向に目を向け、安全で信頼される良質の看護を提供します。

○ 看護部の基本方針

1. 患者さんの人間性を尊重し生命の安全を確保します。
2. 患者さんの意志決定の支援を行います。
3. 地域との連携を密に行い、継続看護の充実を図ります。
4. 自己研鑽を重ね、専門職としての能力開発の向上に努め、組織の活性化につなげます。
5. 情熱と誇りを持った看護人を目指します。

○ 令和2年度看護部の目標

1. 接遇意識を高め、一人一人が病院の顔であるとの自覚を持ち親切丁寧な看護を提供する。クレームの減少。
2. エビデンスに基づく質の高い看護・医療安全の視点に基づき、安全で安楽な看護を提供する。
3. 看護協会加入者の増員と積極的な研修参加に努める。
4. 働き方改革に向けた業務改善を行い長時間労働の解消 離職者の減少に努める。
5. 地域医療機関との連携を深め、退院支援の充実、地域住民が求める看護を行う。
6. 経営に参加しし病院経営に参画する。
 - ・看護サービスの質向上に努め質の高いサービスを提供する。コスト意識を持ち行動する。

目標1については、患者様中心の看護を念頭に親切丁寧に対応する。笑顔で患者差にあった対応をしていくよう指導はしていましたが忙しさに患者様の要望に対してすぐ対応できないときがありご指導されるときがありました。今後も接遇教育の強化でクレーム減少に努めていきます。目標2については、年間ラダー別の医療安全研修を行い医療安全マニュアルの徹底、インシデント報告の共有など安全に対する意識教育は行ってきた。確認不足によるインシデントもありさらなる教育を行うようにする。目標3に対し、看護協会入会者は、新卒看護師の入会者が部署により差があったが今後も入会し研修参加の出来る環境を整えていく。目標4は、看護部教育委員会でのQC活動や申し送りの廃止、変形労働勤務などの改善など行ったが長時間労働が、ゼロにはならなかった。今後も働き方改革に向けた業務負担の軽減、長時間労働減少により退職者の減少に努めたい。看護師が定着するためには、やる気、モチベーションが持てるような体制作りをしていく。目標5は、病院経営にも重要で病床利用90%を目標にしていたが、令和2年度は、新型コロナウイルス院内感染で救急の受け入れが出来なくなり病床利用率が85%と下がりました。平均在院日数15.4日と昨年と比較すると1.7日長くなっており令和3年度は14日以下を目標とする。病床稼働率も90%越えを目指したい。ベッドコントロールがスムーズに行われるように緊急入院患者のベッドの調整・確保、予約入院のベッド調整、転棟・転出の調整、退院予定の把握、地域連携室との話し合いを密に行い転院がスムーズに行えるようにしていきたい。次年度は医師と共に入退院調整をおこなっていく必要がある。

○ 看護師の入退職の動向

令和2年度の4月入職者は、新卒者26名 既卒者19名 准看護師2名の採用者であった。新卒者の就職人数が予定30名より少なかった。病院看護実態調査での離職者は、正規雇用看護職員10.7%、新卒者7.8%、既卒採用者は17.7%となっており当院でも既卒者の離職率が高い。看護師の離職防止として給与の見直しを全体的に行い。新卒看護師予定初任給、看護師の賃金見直しを行い正規看護職員離職率防止に努めた。また

中堅看護師の育成と働きやすい職場づくり、ワークライフバランスを考慮した勤務体制のあり方、有給休暇所得率 85%と働き方改革に向けた業務改善を主任会中心に行った。看護補助者の業務を見直し少しでも看護師の負担が軽減し、専門的業務ができるように年 2 回師長会で見直しを行った。新卒看護師の確保を目的としたインターンシップを行っていたがコロナ禍で今年度は中止となった。

○ 活動内容

1. 看護教育活動

1) クリニカルラダー教育

各ラダー別研修の開催回数および延べ参加者数

	開催回数	延べ参加者数		開催回数	延べ参加者数
ラダー I 研修	9 回	318 名	ラダー III 選択研修	9 回	89 名
ラダー I - b 研修	6 回	225 名	ラダー IV 研修	3 回	49 名
ラダー II 研修	6 回	259 名	トピックス研修	2 回	390 名
ラダー II 選択研修	8 回	226 名	平均参加率	必須 30 研修	72.5%
ラダー III 研修	4 回	108 名	選択 3 研修達成率	選択 17 研修	85.1%

2) 認定看護師による地域連携施設対象看護研修会

「災害トリアージの対応」

救急認定看護師 井藤 裕之
看護師 渡壁 忍

「当院で取り組む呼吸療法士」

救急認定看護師 白石 淳也
呼吸療法士 津留崎 恒治

感染拡大防止のため今年度は研修中止となる

3) 院内 BLS 研修 修了者数 27 名

4) 主な院内研修修了および資格取得者

- ・ 静脈注射エキスパートナース指導者講座修了認定者 10 名
- ・ 日本糖尿病療養指導士 津留崎 恒治

5) 院外研修参加者 60 名

6) 学会発表

- ・ 第 18 回 福岡県看護学会 (ナースプラザ福岡)
「膀胱留置カテーテル抜去後の尿流出障害を防止するケアの取り組み」 発表者 柿坂 佳子
- ・ 救急看護学会 (研究論文投稿)
「クラスター発生後の E R 再開に向けての取り組み」 救急外来看護師：4 名
- ・ 心電図検定 3 級合格者 古賀 香織、津留崎 恒治、松下 彩、吉原 史奈子
- ・ 医療安全管理者研修 永利 美由紀

7) 実習校受入れ実績

福岡医療看護専門学校 看護学科 1 学年～3 学年

基礎看護 I・II、成人看護 I・II、統合、小児、母性 計 延べ 857 名

8) インターンシップ受け入れ実績 3 名 (4 月で募集中止)

○ チーム医療、医療経営への参画

重症度・医療・看護必要度においては、I から II の基準へ変更し看護師の負担も軽減できた。「評価者院外指導者研修」を 6 名終了させ、全職員研修実施した。

急性期看護補助者夜勤加算を取り入れることで入院報酬の算定が出来また看護師の負担軽減及び処遇改善に資する体制を確保できた。

薬局

1. 活動報告

当院では、薬剤師 23 名が 24 時間体制（2 交代制）で業務にあたっています。

2008 年 7 月より、入院患者に対する医薬品安全管理の向上を目指して、一病棟から薬剤師の配置を開始し、徐々に全病棟へと拡大してきました。現在は ICU や HCU にも薬剤師を配置しております。2020 年度は薬剤管理指導件数 7,861 件、退院時指導 2,523 件の薬学的管理を行うことができました。また、入院患者全てを対象に 24 時間体制で持参薬の鑑別を行うことで、医師・看護師への情報提供に役立っています。その他にも病棟では、注射薬の手技、投与ルート、相互作用、配合変化、投与順序の確認、点滴時間の振り分け等も行っています。薬剤師が関与することで病棟での Medikation エラーの減少につながっています。また、適正使用が特に推奨されている抗 MRSA 薬の処方設計や、抗がん剤のミキシングも行っており、高度な専門知識が求められる場面で薬剤師が活躍しています。

福岡記念 PET・健診センターでは、薬剤師が放射線技師と共同して、放射性医薬品の製造・合成および検定を行い、品質が保証されたものを提供しています。

2020 年は新型コロナウイルス感染症治療薬について、当初は正式な薬剤がなかったことから適応外使用を含め検討することが多い年でした。また 2020 年 7 月からは、薬局事務員 2 名が増員となり、より薬剤師業務に専念できる環境となりました。今後も地域における基幹病院としての役割を果たせるよう薬剤師一同努力してまいります。

2. 業務集計

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
服薬指導	10,912	10,601	10,096	9,740	7,861
退院時指導	3,234	3,006	3,001	3,021	2,523

TDM・無菌調製・化学療法件数

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
TDM	215	225	176	221	191
無菌調製	480	714	387	484	165
化学療法	196	222	152	123	190

PET-CT 件数（FDG 製造・合成）

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
PET	1,627	1,618	1,805	1,706	1,336

3. 業績

演題	演者	開催日	学会・研修会名称
24 時間体制 急性期病院における薬局マネジメント	下山 真智子	2021 年 2 月 8 日	Pharmacy director Seminar
周産期に必要な葉酸	江藤 義和	2021 年 2 月 21 日	第 11 回山口県妊婦・授乳婦 専門薬剤師教育セミナー

4. 専門・認定薬剤師数

名称	人数
栄養サポートチーム専門療法士	4名
外来がん治療認定薬剤師	2名
がん薬物療法認定薬剤師	2名
日本糖尿病療養指導士	1名
日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師	3名
認定実務実習薬剤師	3名
骨粗鬆症マネージャー	1名
日病薬病院薬学認定	1名
日本医療薬学会認定	1名

放射線科

1. 活動報告

2020年は、2名の新人技師を迎え、総勢25名の体制で、福岡記念病院と福岡記念PET健診センターの放射線検査・治療業務を担当いたしました。

4月に入って早々からCovid-19の影響を受け、感染対策最優先での業務体制へと大きくシフトしてまいりました。これまで私たちが心がけてきた、安全・安心な検査環境の提供に加え、感染対策という視点が加わったことで、ひとつの検査にかかる時間が増え、患者様には大変なご迷惑をおかけすることになりました。

しかしながら、感染対策や安全対策と迅速な結果のご提供を両立させるべく、さまざまな工夫をしながら改善に努めているところです。

これからも、当院が掲げる「安全で信頼される医療」の一翼を担うべく、日々患者さまと向き合い、業務に励んでまいります。

2. 設置機器

設置施設	種別	台数
福岡記念病院	一般撮影装置	3台
	乳房撮影装置	1台
	骨塩定量測定装置	1台
	X線TV	1台
	80列MDCT	1台
	320列MDCT	1台
	1.5テスラMR装置	1台
	3.0テスラMR装置	1台
	核医学診断装置	1台
	循環器対応血管造影装置	2台
	移動型外科用イメージ	3台
	ポータブル撮影装置	3台
	ガンマナイフ	1台
	リニアック	1台
	CRシステム	3台
	DR (FPD) システム	2台

設置施設	種別	台数
福岡記念 PET・健診センター	一般撮影装置	1台
	乳房撮影装置	1台
	骨塩定量測定装置	1台
	X線TV	1台
	PET-CT装置	1台
	サイクロトロン	1台
	CRシステム	1台

3. 福岡記念 PET・健診センター業務実績

種別	2017年	2018年	2019年	2020年
胸部撮影	6,783	6,492	6,990	4,506
乳房撮影	1,603	1,625	1,571	1,060
消化管撮影	1,504	1,501	1,707	1,272
CT	153	85	51	0
脳ドック	432	465	547	118
PET-CT 検査	1,610	1,745	1,767	86
骨塩定量測定	127	100	98	59

リハビリテーション科

1. 施設基準

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料 I
- ・廃用症候群リハビリテーション料 I
- ・運動器リハビリテーション料 I
- ・心大血管疾患リハビリテーション料 I
- ・呼吸器リハビリテーション料 I
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・集団コミュニケーション療法

2. 人員配置

	理学療法士	作業療法士	言語聴覚療法士	介護要員	非常勤
人数	25	14	4	1	0

常勤合計 44 名

3. リハビリテーション料年間実績

患者実数： 3,867 名

年間累計単位数： 128,061 単位

臨床検査科

1. 活動報告

生理検査（院内と福岡記念 PET・健診センター）・細菌検査・時間外日当直検査は当院検査技師 13 名が担当しており、検体検査は LSI メディエンス検査技師 4 名が対応しています。

臨床検査適正委員会を 2 ヶ月毎に開催し、業務内容・査定状況・精度管理・インシデントやクレームへの対応について検討しています。外部精度管理は日臨技臨床検査精度管理、日本医師会精度管理に参加しましたが、本年も特に問題を指摘されませんでした。

輸血部門は生理部門技師が兼務し依頼・発注・受付・交差試験・製剤管理を行っています。医師との連携を図り、日赤との連絡も取り合いながら臨機応変に対応しており、心臓血管外科・救急患者等の大量輸血も迅速な対応を行っています。

細菌検査部門は専任技師1名+1名(パート職員)で、近隣病院との相互ラウンドも実施され、委員会等においても院内感染対策にも大いに貢献しています。

時間外検査件数につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による救急受診の件数減少に伴い、時間外検査件数も減少しております。生理検査部門では新卒技師を2名採用しており、当直体制から夜勤体制への移行出来る体制を整えることが出来る様教育を行っております。また、増員によって更なる検査内容の充実、及び各々が超音波検査士等の各種認定技師取得を目標に頑張っており、更なる検査の質の向上を目指しております。

2. 令和2年業務集計

検体検査件数(LSIメーガス)

院内検査	643,759 件
外注検査	13,984 件
計	657,653 件

細菌検査

一般細菌	3,615 件
抗酸菌	1,301 件
COVID-19(スマートジーン)	5,862 件
マイコプラズマ(LAMP法)	4 件
結核菌(スマートジーン)	38 件
その他	128 件
計	10,947 件

当直時間帯での検査件数

生化学検査	5,635 件
血算	5,628 件
感染症検査	360 件
凝固	2,272 件
血液型判定検査	116 件
交差適合試験	149 件
生理検査	148 件
心臓カテーテル検査	32 件
その他	2,198 件
計	16,533 件

輸血検査

RBC(WBC1単位)	993(2) 件
FFP480(FFP240)	148(11) 件
PC10(PC20)	124(1) 件
自己血全血(使用量)	9 件
計	1,268 件

生理検査(福岡記念病院)

心電図	3,421 件	
トレッドミル	17 件	
ホルター心電図	242 件	
イベントレコーダー	74 件	
ABI	233 件	
肺機能検査	223 件	
脳波	244 件	
その他	3 件	
エコー	腹部	1,618 件
	心臓	2,923 件
	血管	1,239 件
	腎動脈	23 件
	体表	204 件
計	10,464 件	

生理検査(福岡記念PET・健診センター)

心電図	5,938 件	
肺機能検査	285 件	
眼底撮影	1,296 件	
眼圧測定	792 件	
ABI	191 件	
エコー	腹部	1,925 件
	心臓	34 件
	頸動脈	270 件
	乳腺	621 件
	甲状腺	52 件
計	10,852 件	

感染制御部

【会議】

ICC 会議 第4木/毎月 16:00 から開催としているが、2020年4月2日～5月18日まで（クラスター発生のため）定例会議は行わず、臨時新型コロナウイルス対策会議として対策会議を朝夕2回開催した。

ICT 会議 第1火/毎月 16:00 から開催しているが、コロナクラスターのため4月、5月会議中止、6月以降定例会議開催した。

ICT 活動（ラウンド）木/毎週 14:00 から実施しているが、コロナクラスターのため4月ラウンド中止、5月以降ラウンド開催した。

【目標】

ICC：院内感染対策委員会規定に準じ、討議・検討し、活動を推進する

ICT：ICCで推進された事項をICT規定に準じ、感染対策活動を実施する

1. 新型コロナウイルス感染のクラスターを二度と起こさない

感染対策の日を策定し（2日～3日程度）感染対策に目を向ける

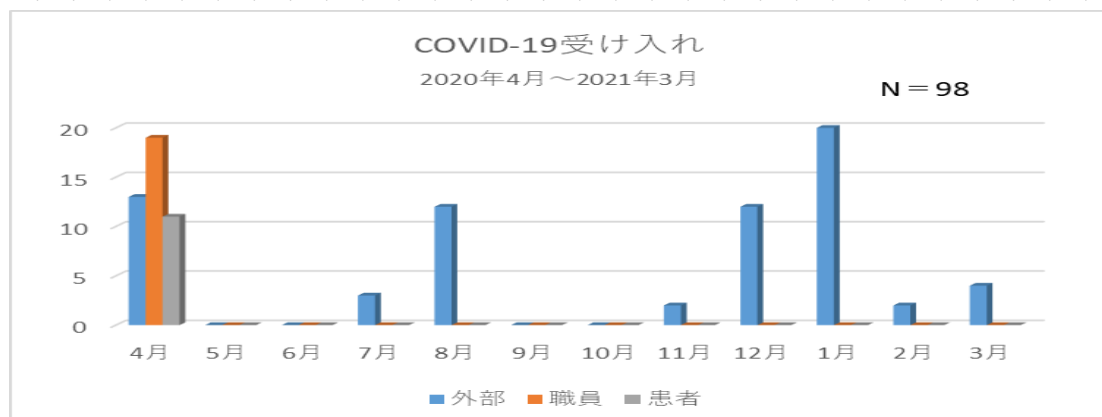
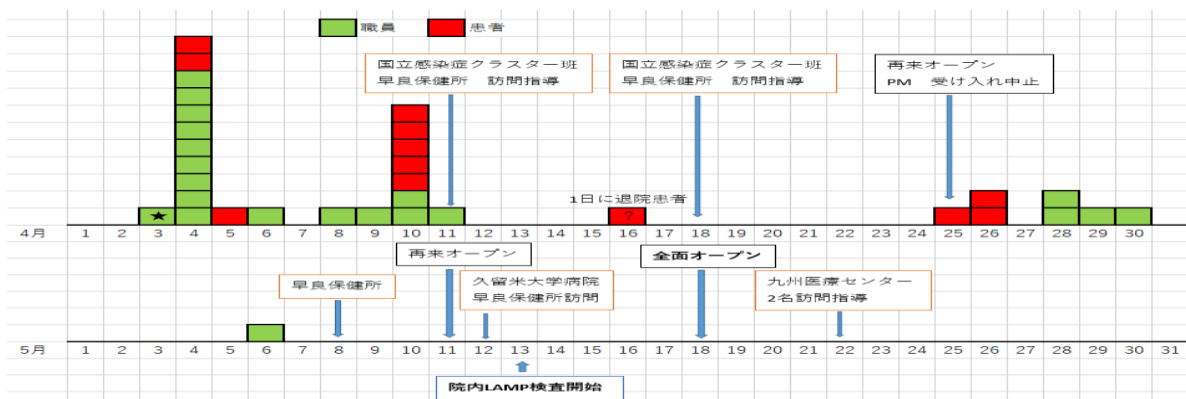
感染対策の日の中で感染対策に関する知識・技術を盛り込み研修を行なう

目標 クラスターを二度と起こさない

8月から毎月2日前後5日間程度「感染対策の日」と定め職員に対し感染対策に関する内容、院内感染に対する思いとして執筆いただき、院内掲示板に掲載し院内研修とした
4月新型コロナウイルス感染症のクラスター発生から5月18日診療再開以降クラスターが発生することなく年度を終了した

COVID-19 まとめ

COVID-19 院内陽性者（職員21名、患者12名）期間4/3～5/6

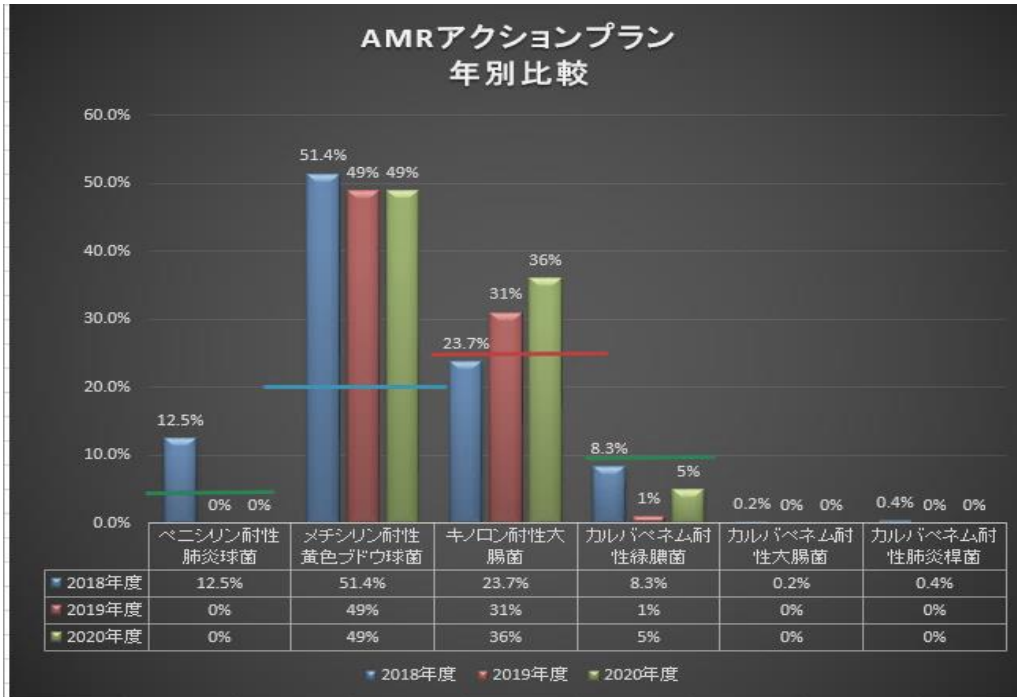


2. ICT 活動を継続する

1) AMR 対策 (2016 年-2020 年) を継続する

国の薬剤耐性菌減少目標値に向けての成果指導の報告

- 肺炎球菌 ペニシリン耐性 ⇒15%以下
- MRSA メチシリン耐性黄色ブドウ球菌⇒20%以下
- 大腸菌 フルオロキノロン耐性 ⇒25%以下
- 緑膿菌 カルバペネム耐性 ⇒10%以下
- 肺炎桿菌 カルバペネム耐性 ⇒10%以下



評価

肺炎球菌ペニシリン耐性→2020 年度：0%、2019 年度 0%

AMR15%以下、0%、15%以下の減少である

MRSA→2020 年度黄色ブドウ球菌の 49%を示す (2019 年 49%) MRSA の割合に変化はないが、AMR では目標 MRSA20%以下、59%の減少が必要となる

大腸菌キノロン耐性→2020 年度大腸菌の 36%を示す。2019 年度より 6%増加

AMR では、25%以下、44%の減少が必要となる

緑膿菌耐性緑膿菌→2020 年度緑膿菌の 5%を示す、2019 年度 1%で 4%の増加

AMR では 10%以下、50%減少である

2) 抗菌薬適正 (AST) 活動を継続する

AST メンバー：専従 (薬剤師)、兼任 (医師、看護師、臨床検査技師)

2021 年度の本格始動に向けて、専従薬剤師 1 名追加採用し、チェック項目体制の構築を行った。

3) 抗菌薬適正使用の監視と指導

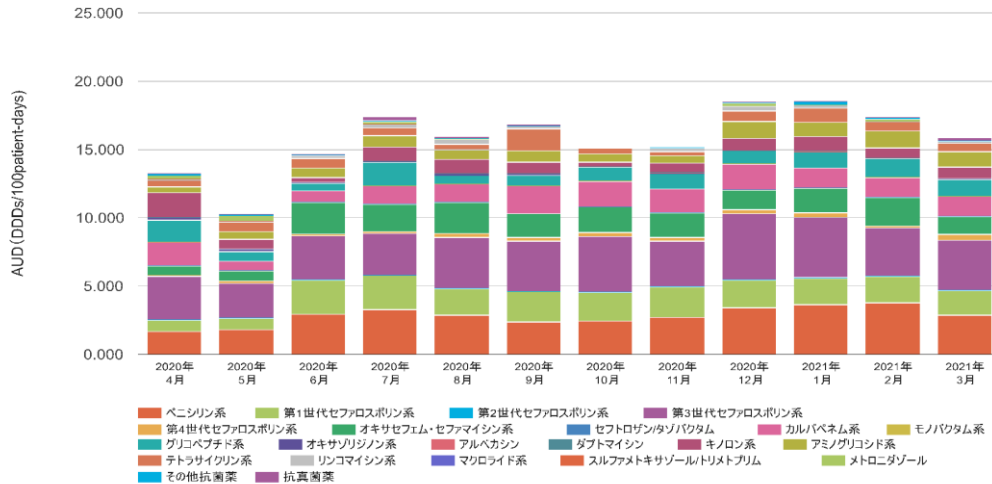
薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適切に把握

静脈注射抗菌薬の使用量 (AUD) を 150 (H31 年度 156) 以下とする

AUD は 1000 bed days→100 bed days で計算を行ったため、目標値は計算すると 15 となり、2020 年度の平均は 15.8であった。例年と比較し大きな変動は見られなかった。

引き続き、適正使用を大きく逸脱する症例がないか監視していく。

AUDの自施設推移
 【期間：2020年4月～2021年3月 薬剤種別：注射 薬剤グループ：全系統・薬剤系統／抗菌薬(22)】
 AUD: 抗菌薬使用量・DDD・在院患者延数×100



4) 手指消毒剤使用量を西部地区サーベイランスの2019年平均値(10.2ml)以上にする

2020年度当院使用量は平均10.6mlであり、2019年度西部地区使用量(平均値)と同等であった。

しかし4月にCOVID-19クラスター発生を鑑みると平均使用量が少ないがクラスター発生していない

3. 細菌検査部門での活動

- 1) 薬剤耐性菌サーベイランスの継続
- 2) JANIS サーベイランス継続
- 3) 2020年5月13日から院内核酸遺伝子検査(LAMP法)を開始 COVID-19 結核菌
- 4) 2020年9月25日から院内核酸遺伝子検査(スマートジン)を開始 救急外来に設置

4. 感染防止対策加算Iの継続

1) 加算1-1 連携

①年1回相互ラウンドを行ない双方の感染対策実施状況を評価する

②連携施設

福岡記念病院-九州中央病院

コロナ禍のため、双方が赴いてラウンドが出来なかったため質問項目を設けリモートによる評価を実施した

2) 加算1-2 連携

①年4回福岡記念病院主催でカンファレンスを行ない施設間の感染対策実施状況について意見交換を行なう

コロナ禍のため集合カンファレンスができなかったため、リモートによるカンファレンス2回を実施した

10月6日(火) 16:30~ ウェブによるカンファレンス実施

令和3年3月2日(火) 17:00~ ウェブによるカンファレンスを実施

②西部地区合同カンファレンス

4月、11月予定していたが、コロナ禍のため2回中止となった

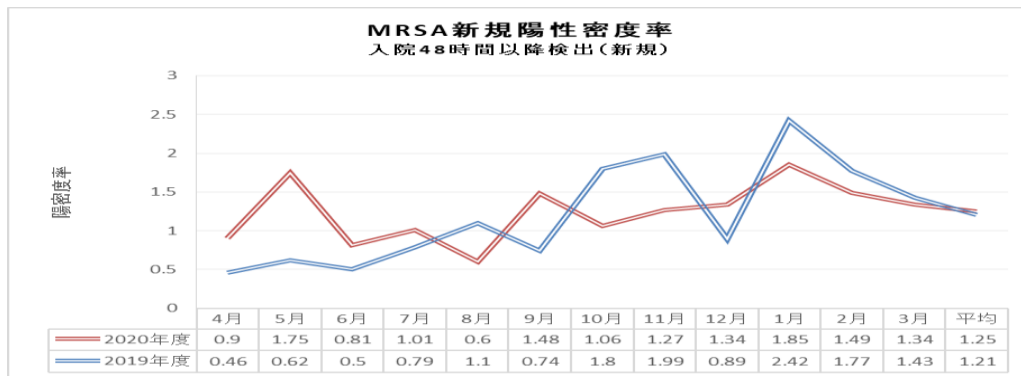
③福岡地区ネットワーク(ICT交流会)

10月、2月頃予定されていたが、コロナ禍のため参加を見合わせた

5. 院内サーベイランス

1) 耐性菌サーベイランス

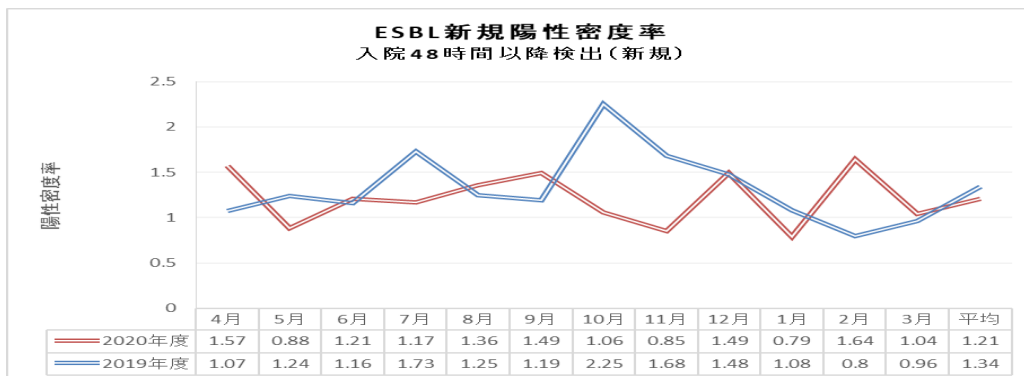
MRSA



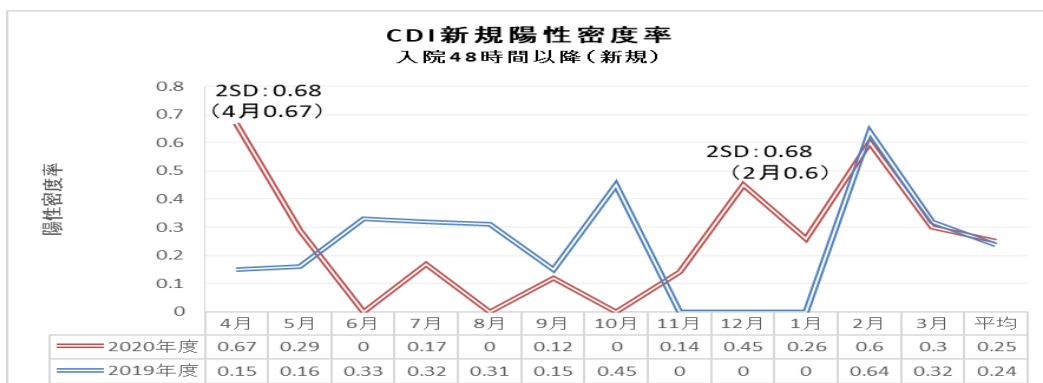
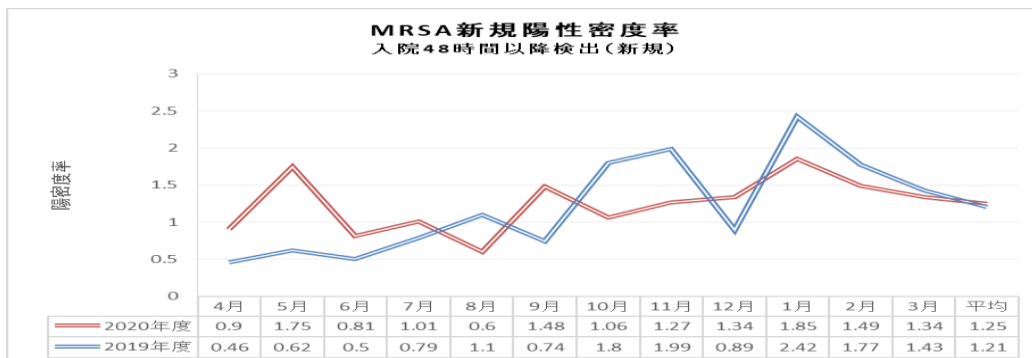
評価 5月1.75、1月1.85で1SD (1.61) と2SD (1.97) の間に位置する

比較 2020年度平均値: 1.25、2019年度1.21 変化無し

ESBL



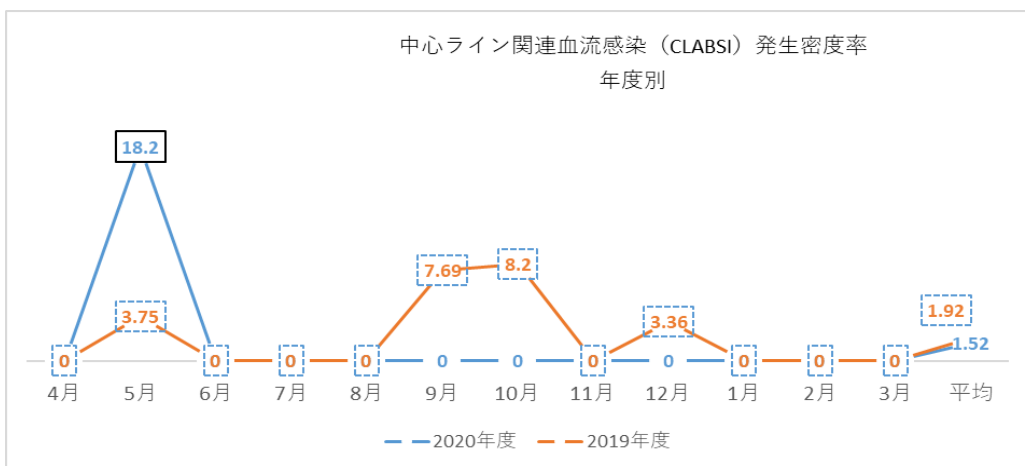
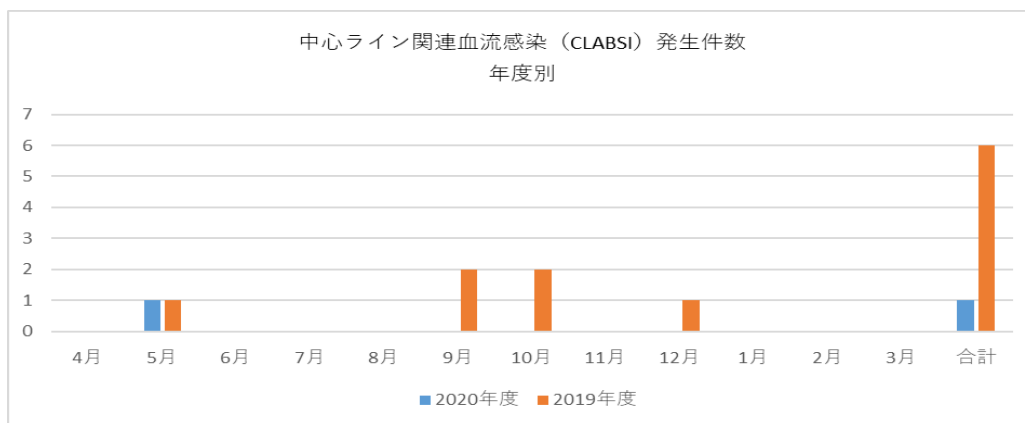
評価 平均値: 2020年度は2019年度に比べわずかに減少



評価 4月0.67、2月0.6で2SD (0.68) の近くに位置する。平均値は変化無し。

2) 医療関連感染サーベイランス

①中心ライン関連血流感染 (CLABSI)

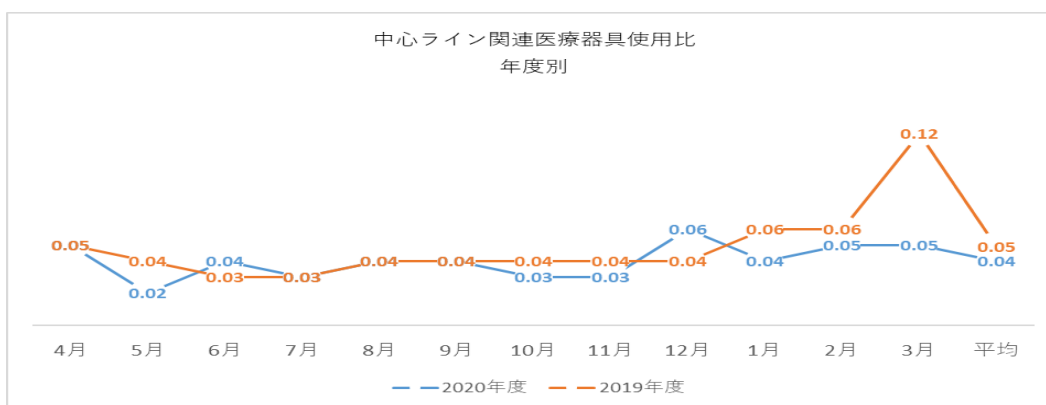


評価：CLABSI（臨床的敗血症除く）発生密度率：1.52

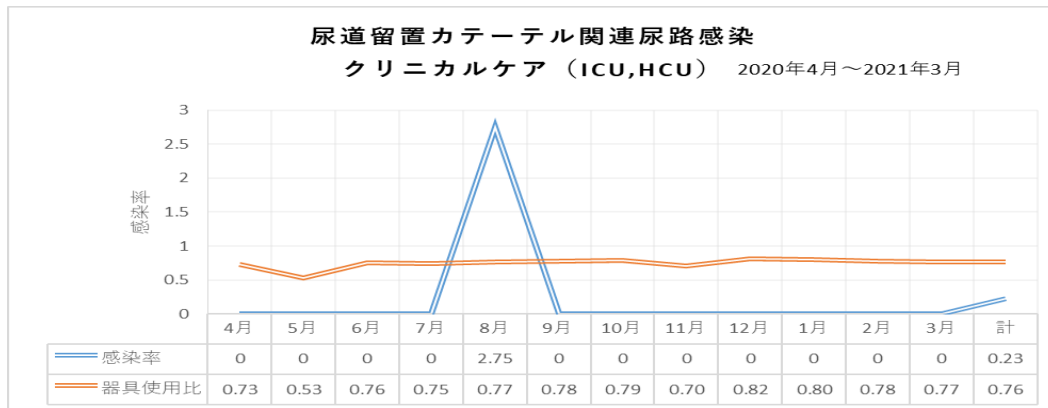
2019年度との比較

減少率 20% (2019年度 1.92)

挿入前の手指消毒、挿入部位の清拭、挿入時のマキシマルバリアプロシジョン実施



②尿道留置カテーテル関連尿路感染（UTI）



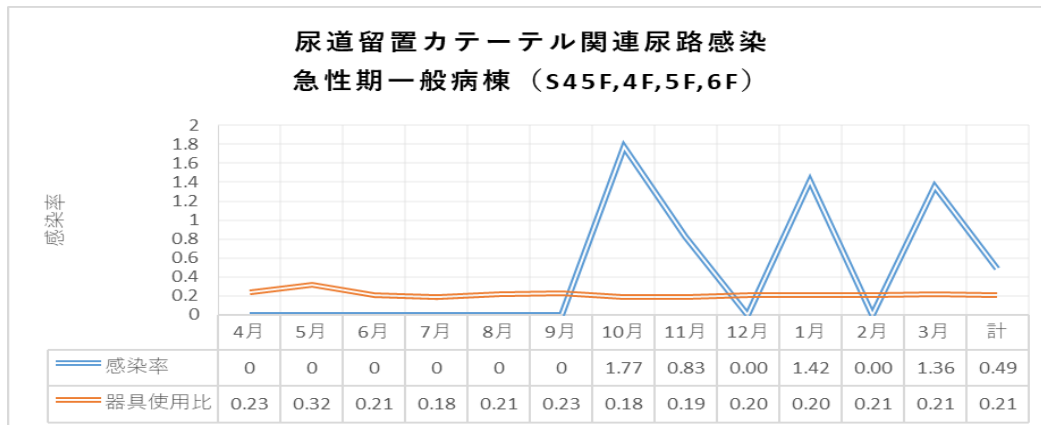
評価 JHAIS（2020/07/01～2020/12/31）との比較

感染率：0.23（JHAIS：1.2）

器具使用比：**0.76**（JHAIS：0.69）

JHAIS と比較し感染率は低い器具使用比が若干高い

医療器具の使用頻度を下げることができれば、感染率もさらに減少することができる



評価 JHAIS（2020/01/2020/12/31）との比較

感染率：0.49（JHAIS：1.8）

器具使用比：**0.21**（JHAIS：0.15）

2020年4月～2021年3月

JHAIS と比較し感染率は低い器具使用比が高い

医療器具の使用頻度を下げることができれば、感染率もさらに減少することができる

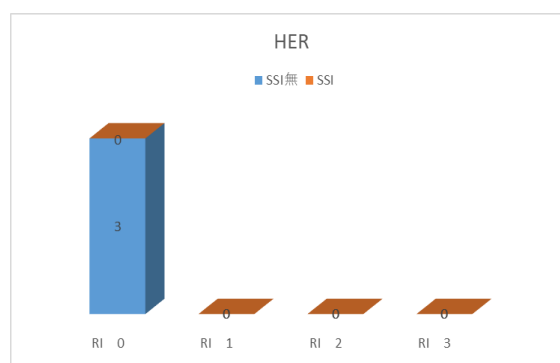
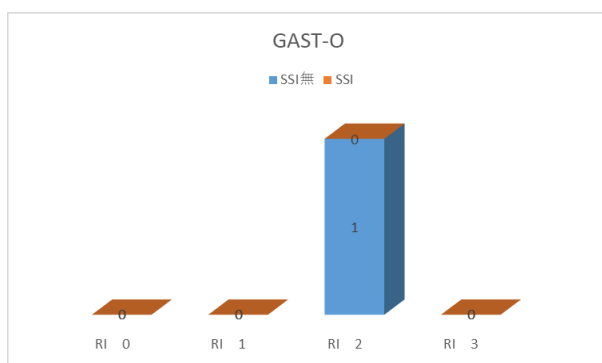
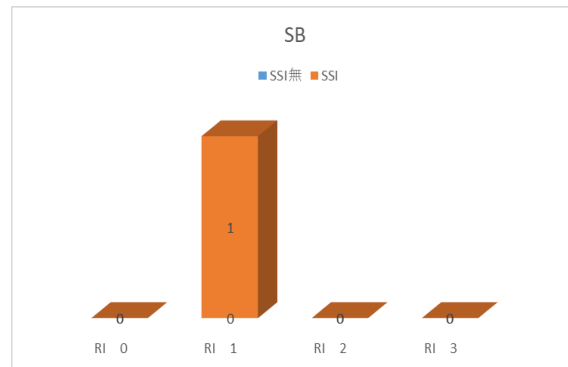
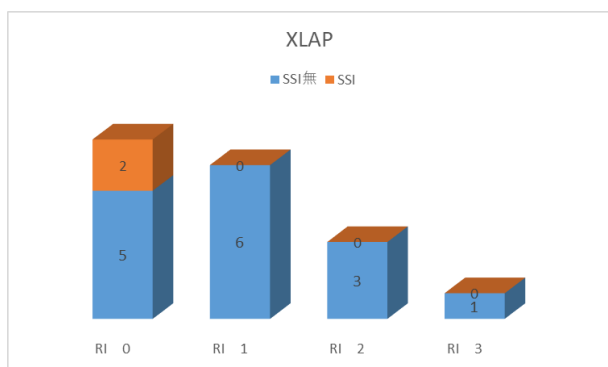
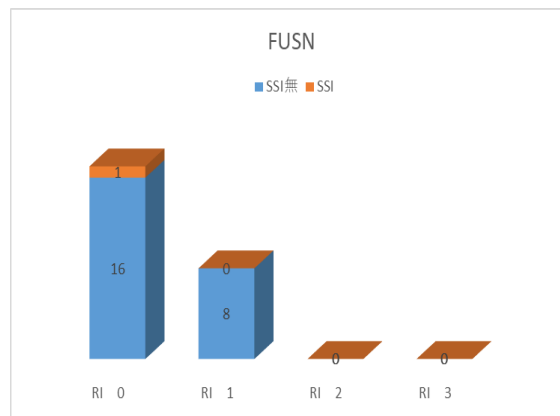
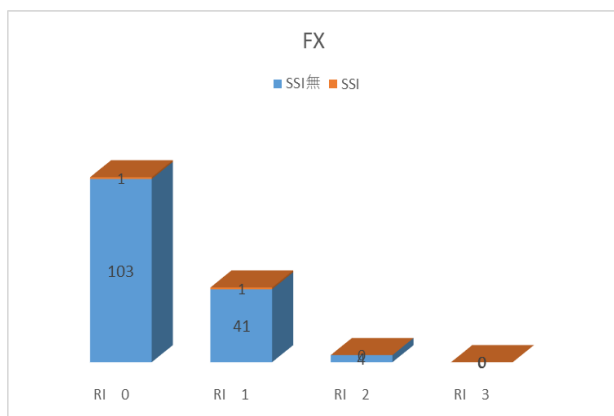
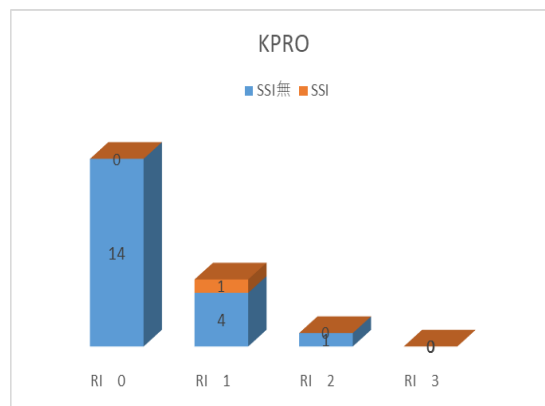
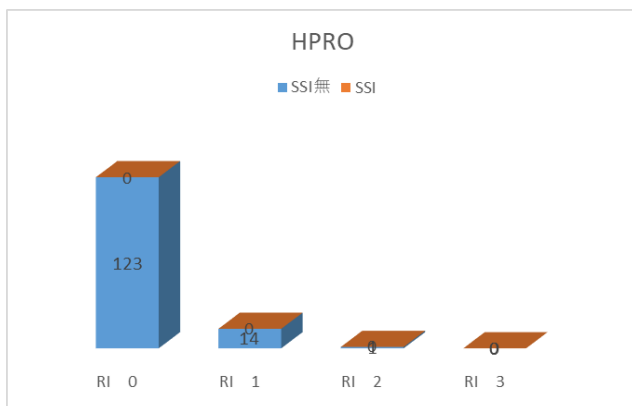
③手術創感染（SSI）

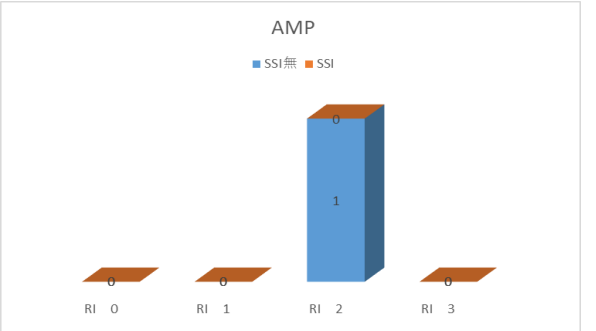
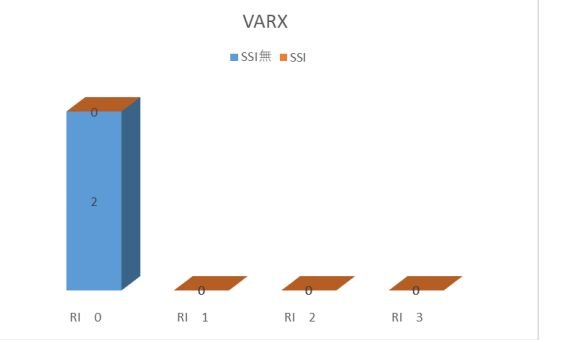
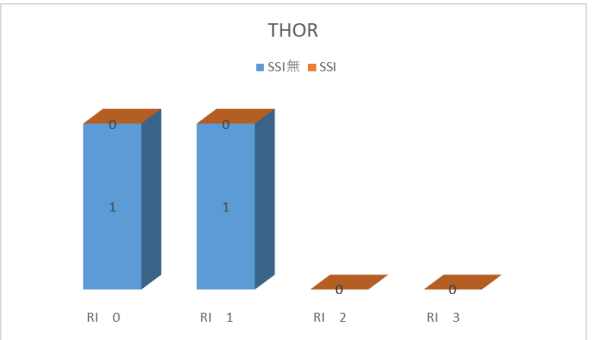
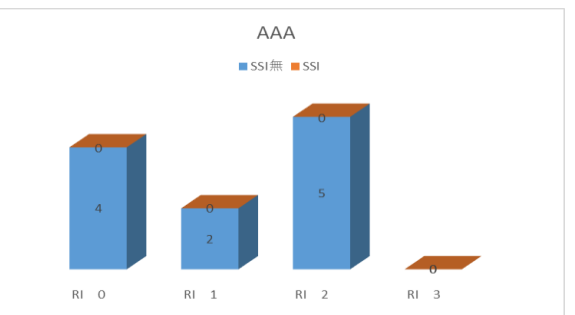
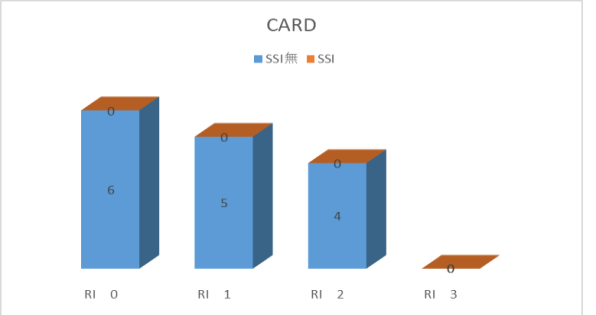
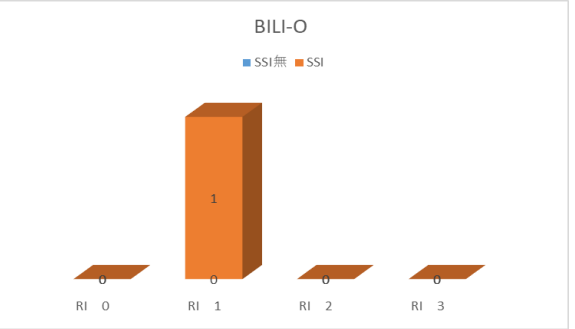
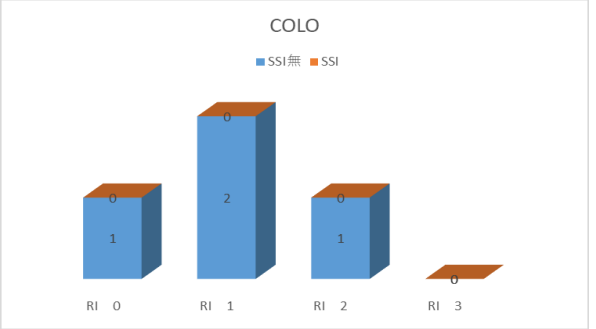
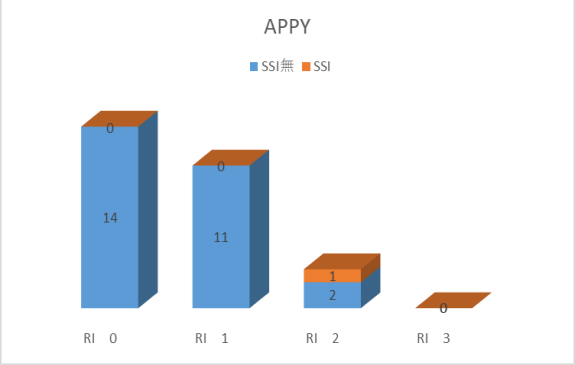
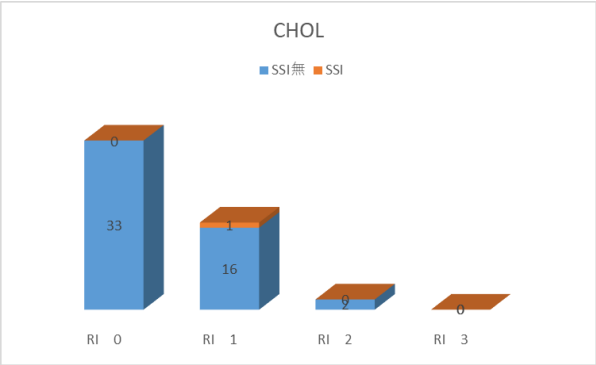
リスクインデックス（Risk Index：RI）による分類

ASA（米国麻酔学会）の身体状態分類（0点または1点）

+創分類（0点または1点）+手術時間（0点または1点）

この総得点（0点～3点）をリスクインデックスという





④人工呼吸器関連肺炎（VAP）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
感染件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
使用器具日	137	29	50	131	150	175	79	175	280	207	157	124	1694
延べ患者	4541	3425	4737	5968	6636	7078	6674	7107	6804	7555	6752	7490	74767
感染率	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.83	0.00	0.00	0.59
使用器具比	0.03	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.04	0.03	0.02	0.02	0.02

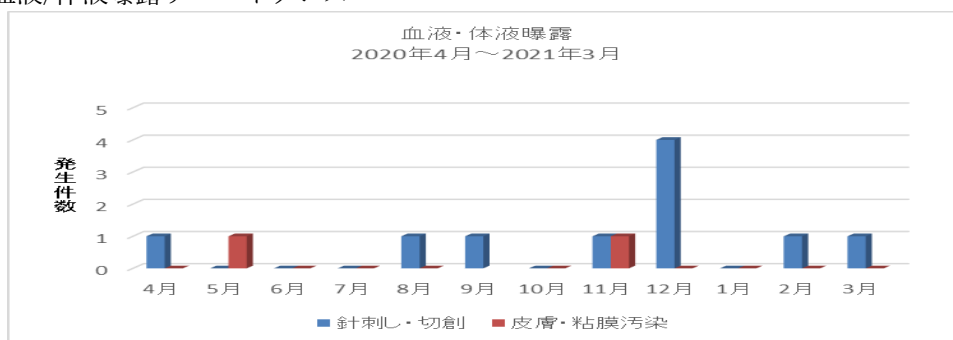
【VAE サーベイランス】

- ・ VAC : Ventilator-Associated Condition 人工呼吸器関連状態
- ・ IVAC : Infection-Related-Associated Complication 感染に関連した人工呼吸器関連合併症
- ・ Possible VAP : 人工呼吸器関連肺炎の可能性例
- ・ Probable VAP : 人工呼吸器関連肺炎推定例(VAP に一番近い状態)

VAE の定義を基に判定 (2020 年 4 月～2021 年 3 月)

VAC (3 件)、IVAC (1 件) 発生

2) 血液/体液曝露サーベイランス

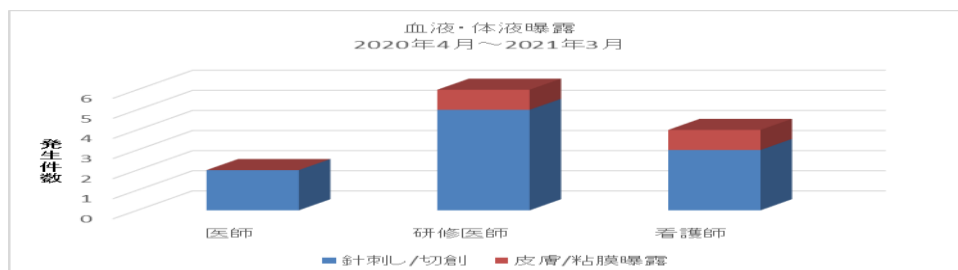


評価：血液・体液曝露 12 件（針刺し/切創 10 件、粘膜/皮膚汚染 2 件）

2019 年度との比較

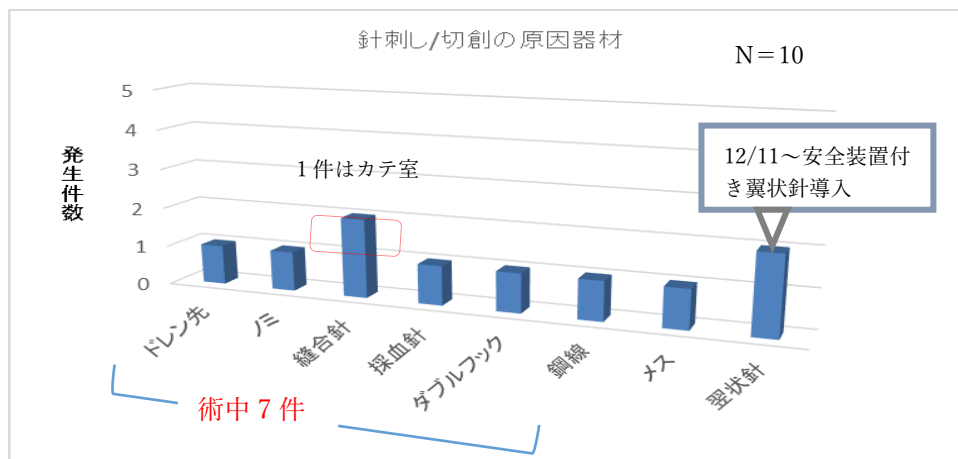
N=12

評価：減少率 33.3%（2019 年度針刺し/切創件数：15 件、2020 年度：10 件）



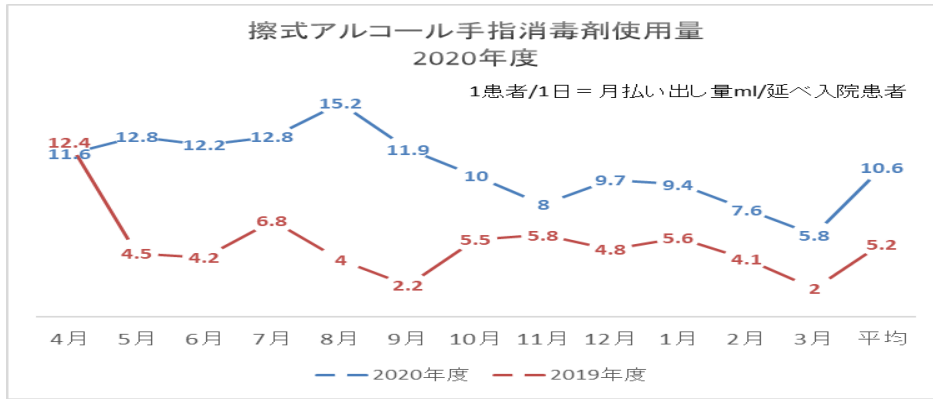
評価：職種別（医師 2 名、研修医師 6 名、看護師 4 名）

N=12



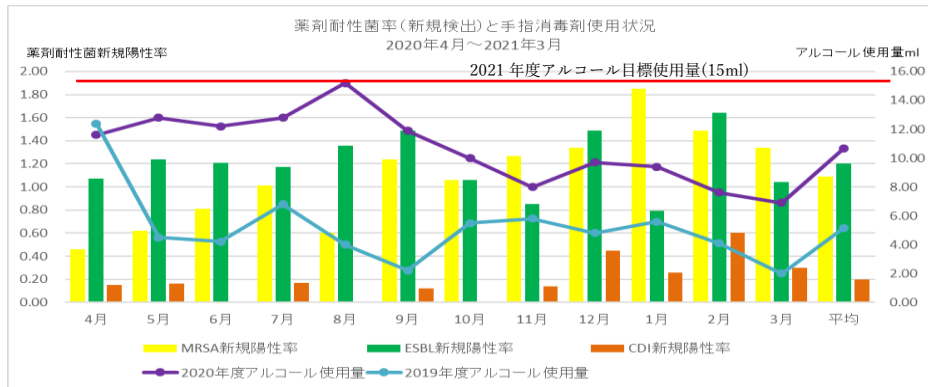
評価：器材による分類（術中の器材 7 件、翼状針 2 件、カテ室での縫合針 1 件）

3) 手指消毒剤使用量サーベイランス

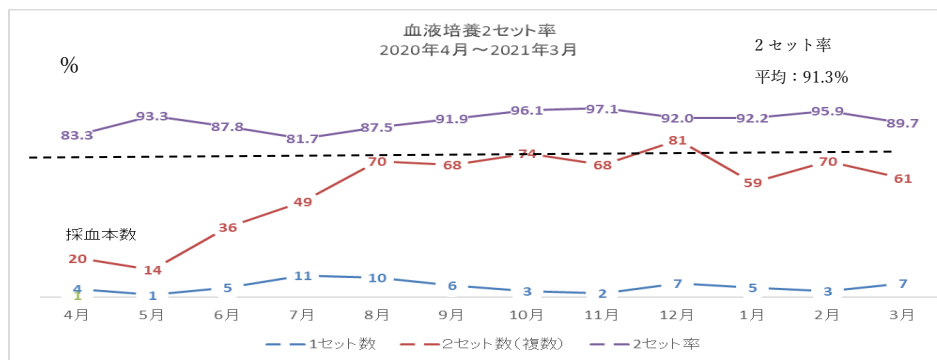


評価：10ml (1患者/1日)、2019年度：5.2ml

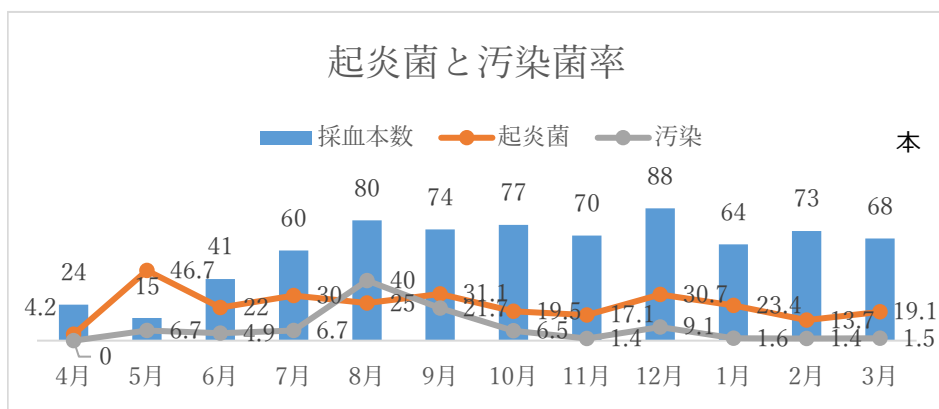
4) -1 薬剤耐性菌（新規検出）と手指消毒剤使用状況



血液培養検査 2 セット



評価：2セット率：平均91.3% (2019年度：82.6%)



評価：起炎菌率：平均 23.2%（通常 15～30%）、汚染率：平均 5.04%

5) マニュアル作成及び改訂

- ① 新型コロナウイルス感染対策マニュアル策定
- ② 新型コロナウイルス感染対策指針策定（9/10 済）

6. 全職員への教育研修

1) 研修参加率 90%以上

院内感染対策のための研修 2回/年程度

①オンラインにて研修

感染管理と感染防止技術（特に看護部中心）

看護部、医療技術部は概ね受講

教育委員会（感染編）

看護部、医療技術部概ね受講

②感染対策の日として研修を実施

第1回8月2日～第8回3月2日（計8回）

2回以上の研修受講率

部署名	部署人数	研修受講者数（2回以上）	受講率
診療部研（修医含む）	59	55	93.2%
医療技術部	120	120	100%
事務部	86	83	93.0%
看護部	285	269	93.0%
委託業者	48	47	97.9%
合計	602	574	95.3%

③部署別研修

開催日	研修名	対象	時間	講師	参加者
4/1	オリエンテーション	新入職者	10：30～	向野医師、加村	
4/3	中央研修 感染管理	新入看護師	PM	加村	47名
5/5～	感染管理と感染防止技術 E-ラーニング	看護部中心			
5/25～	標準予防策と PPE 装脱着演習（標準、 COVID-19）	看護部	PM	加村	
6/26	1-B	看護部	17：00～	加村	39名
8/20	III	看護部	17：00～	加村	31名
8/20	IV	看護部	17：00～	加村	12名
10/9	感染管理	看護補助者	11：30～	加村	12名
10/16	感染管理	看護補助者	11：30～	加村	12名
12/18	I	看護部	17：00～	加村	27名

7. 学会参加

- 1) 日本環境感染学科会 ⇒2021年9月に延期
- 2) 感染管理認定看護師学術集会 不参加

8. 感染管理認定看護師 令和3年3月履修終了、4月から専従として活動開始（2名体制）

9. J-SIPHE〔厚生労働省委託事業 AMR 臨床リファレンスセンター〕

2015年WHO総会にてAMRに関するグローバルアクションプランが採択され自国の行動計画を策定、政府は2017年4月にAMRアクションに基づくAMR対策を推進するためにJ-SIPHE設立
2020年3月から薬剤耐性菌、医療器具関連サーベイランス、SSIサーベイランス、手指消毒剤使用量に参加（抗菌薬2018年）した。

医療安全管理室

1. 病院理念と医療安全に関する活動

○活動目標

- 1) チーム医療の強化・多職種でのカンファレンス実施。職種間のコミュニケーションと連携を図る
- 2) インシデント/アクシデント報告を積極的に行なう職場風土の構築
- 3) レベル3a以上の件数を前年度より3a：20件、3b：5件減少させる
- 4) 5S活動を推進し、患者が安全で快適に過ごせる環境整備を職員全員で取り組む事ができる
- 5) 医療安全に関するマニュアルの見直し及び周知

○活動計画

- 1) 当院の現状把握と部署別のリスクを把握し、医療安全管理委員会・医療安全推進委員会と連携を図りながら医療安全活動を推進していく
- 2) 集計結果を毎月イントラに掲載し当院の現状を職員と共有する
- 3) 偶数月に医療安全ニュースを発行する
- 4) e-learningを活用し、医療安全に関する院内研修の実施
- 5) 日本医療機能評価機構やPMDA、医療事故調査センターなどからの医療安全に関する情報イントラへ掲載し提供する

○目標評価

- 1) 4月にCOVID-19のクラスター発生により、4～5月は医療安全に関する活動はできなかった。6月以降はラウンドを再開したが、ラウンド時間の短縮を図ったため多職種での意見交換の場として活用できたとは言いがたい。職種間のコミュニケーションエラーによるインシデントが数件認められた。今後も職種間のコミュニケーション改善は課題である。
- 2) 部署別の報告件数は下記表の通りである

医師	4階	5階	6階	S4階	S5階	ICU	H12	H6	救外	外来	オペ
32	138	53	109	42	25	137	8	9	63	20	5
薬局	検査	臨工	放科	リハ	栄養	医事	総務	医補			
41	4	6	42	32	10	7	6	12			

医師の報告書提出数が前年度よりも大幅に増加したことはよかった。

- 3) R2年度の報告書総数は795件、4～6月は入院制限を行っていたこともあり前年度に比べ報告数が減少。しかし、レベル3a：61件、レベル3b：23件、オカレンス11件（前年度レベル3a：64件、レベル3b：8、オカレンス1件）目標達成できず。

- 4) 5S活動を推進しているが、継続性がない。設備の問題もあるが、引き続き環境整備を徹底し、特に環境要因による転倒事案を減少させる
- 5) 医療安全に関するマニュアルは改訂できていない。

2. 医療安全における教育活動

○目標：職員合同研修参加率 60%以上

○結果

- ・今年度は COVID-19 の流行により新入職員のオリエンテーション以降は全職員向けの研修は実施できず、e-learning による自己学習がメインとなった。セーフマスター内の e-learning システム利用のためか、受講の有無は部署間での差が大きく見られた。
- ・看護部に対しては例年通りクリニカルラダー別（Ⅰ、Ⅰ-b、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）とトピックス研修、看護補助者に対して研修実施。研修時間を短縮しての実施であったため、理解がどこまで得られ現場での実践に活かしているかという部分では課題が残る。

【研修開催日とテーマ一覧表】

開催日	研修テーマ	参加者数	講師
4/1	新入職員オリエンテーション	新入職員全員	有田 裕子
4/3	看護部集合教育	新入看護師 49 名	有田 裕子
8/6	看護部ラダーⅠ 医療安全研修	31 名	有田 裕子
8/26～28	看護部トピックス 生体情報モニター	3 日合計 191 名	臨工：山内・高瀬・鈴木
9/30	看護部ラダーⅠ-b 医療安全研修	38 名	有田 裕子
10/15・23	看護補助者研修	26 名	有田 裕子
10/21～23	看護部トピックス シリンジ・輸液ポンプ	3 日合計 220 名	臨工：山内・高瀬
10/14 11/19	看護部ラダーⅡ 医療安全研修	10/14 64 名 11/19 17 名	有田 裕子
1/20	看護部ラダーⅣ 医療安全研修	10 名	金生 裕子
1/26	静脈注射におけるリスクマネジメント	10 名	金生 裕子
2/17	看護部ラダーⅢ 医療安全研修	24 名	金生 裕子

3. 医療安全に関する会議報告

<医療安全管理委員会>

毎月第 3 金曜日開催（定例会議 12 回開催）。

構成委員：病院長、副院長（4 名）、看護部長、薬局長、放射線科技師長、医療技術部長、臨床工学技士長、事務長、副事務長、医事課長、経営企画課長、総務課、国際医療担当室、医療安全管理者の計 17 名であったが、8 月より構成委員変更あり理事長、病院長、副院長（7 名）、院長補佐、看護部長、薬局長、放射線科技師長、医療技術部長、臨床工学技士長、事務長、医事課長、経営企画課長、総務課、国際医療担当室、医療安全管理者の計 21 名。

定例会議出席率：4 月 5 月は紙面会議、6 月（84%）、7 月（89%）、8 月（86%）、9 月（86%）、10 月（71.4%）、11 月（76.1%）、12 月（71.4%）、1 月（86%）、2 月（81%）、3 月（76.1%）。

- ・臨時会議開催なし

<医療安全推進会議>

毎月第 2 金曜日（定例会議 12 回開催）。

構成委員：医師 2 名、看護師 11 名、医療技術部 6 名、事務 6 名、医療安全管理者の計 26 名

会議出席率：4 月 5 月は紙面会議、6 月（77%）、7 月（80.7%）、8 月（92.3%）、9 月（76.9%）、10 月（88%）、11 月（96%）、12 月（81%）、1 月（93%）、2 月（85%）、3 月（93%）。

専門部会

1) 転倒転落予防検討部会

目標：①転倒転落件数を120件以下、レベル3a以上の発生を8件以下

②ベッドサイドの環境整備

- ・ウーゴセンサーのコードの長さや電源の確認、設置位置の徹底
- ・ストッパーかけ忘れゼロ
- ・コード類の整備
- ・スリッパ、クロックスではなく靴の着用促進
- ・座面から滑り落ちやすい丸椅子は使用を控える

③転倒転落リスクのある患者の情報共有

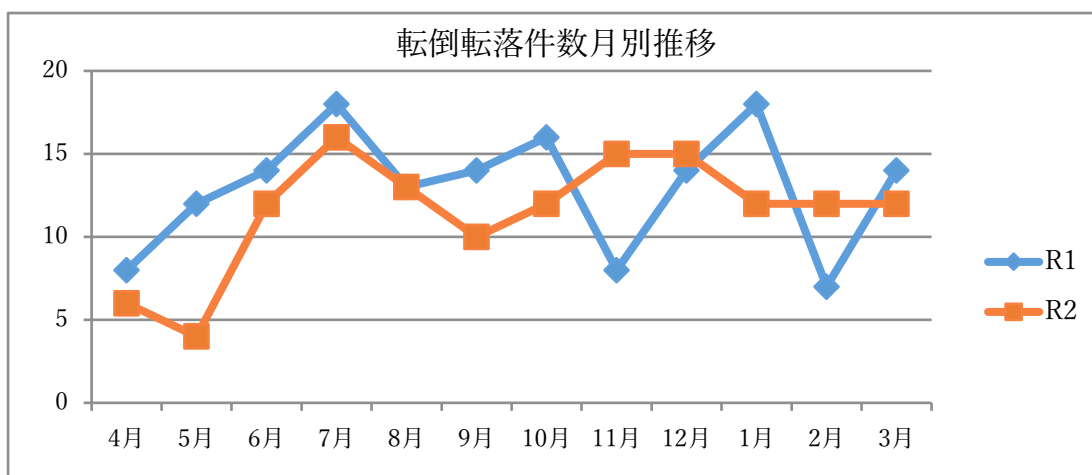
- ・転倒転落アセスメントスコアの経過表への反映徹底
- ・患者情報共有ツールの活用

活動内容：第1火曜日16:00~17:00 複数部門ラウンドを実施

中間・年間活動評価の実施

結果：令和2年度月別報告件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	6	4	12	16	13	10	12	15	15	12	12	12
発生率	1.34	1.16	2.31	2.68	1.97	1.42	1.81	2.23	2.23	1.62	1.78	1.61



- ・転倒転落件数は、R2年度139件であった（R1年度156件）。
- ・レベルⅢ a 5件、レベルⅢ b 3件であった。（前年より8件減）
- ・5S活動の推進をおこなってきたが、ベッド周辺の椅子やゴミ箱の整理、コード類の整備履物がベッド下に入り込むなど不十分な点が多く改善が必要。
- ・ポスター刷新し、靴の着用を呼びかけているがいまだにスリッパ・クロックス使用が多い。
- ・定期的な転倒転落スコア評価、評価結果の経過表への反映は前年度に比べると改善され記載漏れは減少している。
- ・転倒転落の要因として、排泄関連が半数を占める。転倒予防策の実施と共に排泄ケアへのアプローチも必要である。またトイレへ誘導後、側を離れてしまう事案もいまだにあり。介助及び付添時には排泄終了まで側を離れず監視・介助を徹底していく。
- ・ナースコールをPHS式に変更されたが、コール対応開始までに時間がかかっている。
- ・ウーゴ君の設置場所は頭元でとしているが、柵の方（横置き）に設置していたり、紐の長さが80cm以上の場合もあり。長すぎないように適宜調整。またスイッチのON/OFFの確認不十分により作動しなかった事案は前年より減少傾向ではあるが見られている。都度紐を抜き差しして作動確認をおこなうことを徹底させていく。

2) 注射与薬検討部会

目標：①与薬忘れ 40 件以下

②内服アセスメント評価の徹底

③注射台、配薬カート、救急カートの整理整頓

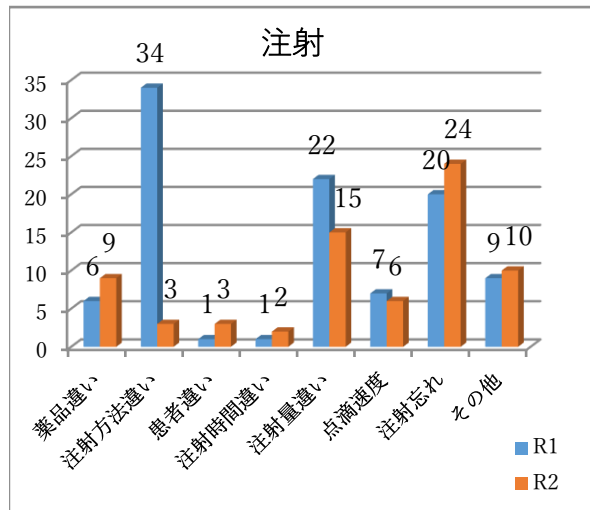
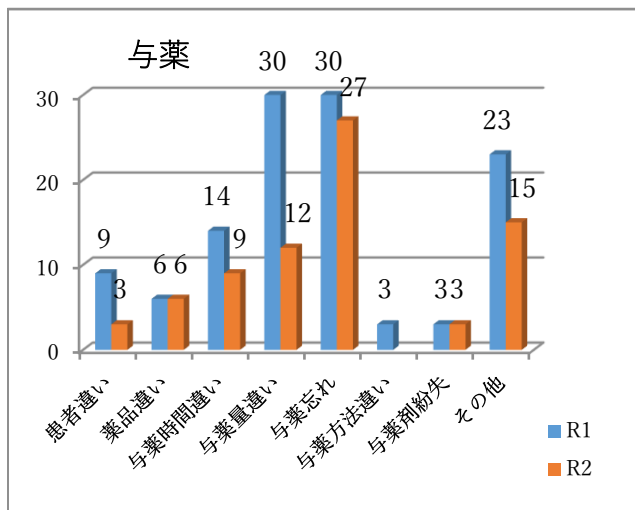
④与薬量、薬品違いを前年度より 10 件減らす

・薬品準備時および投薬前のダブルチェックの徹底

・ラウンド時 6R を理解しているか、ダブルチェックの方法をヒヤリングする

活動内容：第 2 火曜日ラウンド、複数部門ラウンドを実施

結果：



- ・与薬忘れは内服 27 件、注射 24 件あり。内服は食前薬や貼付薬、注射はインスリンや時間指定の薬剤、冷所保管薬の投与忘れが多く見られた。
- ・患者間違いは内服 3 件、注射 3 件。同姓同名患者に限らず間違っている事例もあり、患者名確認時は指さし呼称の徹底と注射認証の徹底を周知していく。
- ・6R の徹底を意識づけるために、各部署へ掲示したが、報告内容を分析すると日付や患者名の確認もれあり。二人の看護師で確認作業を実施しているものの形だけとなっている可能性あり。次年度は正しいダブルチェックをいつどの場面でもどのように行うかというように具体的に例を挙げ、研修を実施していく。

3) 医療機器・チューブ類トラブル予防検討部会

目標：①輸液・シリンジポンプの設定ミスによるインシデントを 10 件以内

②始業点検実施率を 70% にする、医療機器の清掃をおこなう

③バクテリアフィルター交換忘れをゼロにする

活動内容：第 3 火曜日ラウンド、輸液・シリンジポンプの始業・終業点検表の見直し

結果：

- ・末梢ライントラブル（自己抜去・血管外漏出など）68 件、前年度よりも減少。血管外漏出や静脈炎に関する報告数を積極的に行えるようになっており、IV ナースの研修や活動ができている成果であると評価する。
- ・抜去予防のために抑制帯やミトンを使用しているにもかかわらず緩みなどが生じ抜去に至っているケースが多い。抑制が必要かどうか、精神状態のアセスメントをスコアに基づき評価し、抜去防止策を講じていく必要がある。
- ・ベッド周囲の環境調整が必要である。
- ・挿管チューブに関するトラブルでは、カフ破損によるチューブ交換事例 2 件あり。挿管チューブカフ漏れ件数及びチューブの種類を統計し、場合によってはチューブ変更も検討する必要がある。

- ・ Aライン抜去・管理上のトラブルが多く見受けられた。挿入者の手技、挿入位置、長期留置していることも1つの要因と考えられる。
- ・ 輸液ポンプ使用時の流量設定間違い事例あり、設定時のwチェックができていないことも要因であるが、トピックス研修で説明をしていたにも関わらずポンプの種類別に表示が異なることを把握できていなかったことが要因。研修内容とその理解度について、各医療安全推進委員と連携をとりながら評価していく。
- ・ アラーム対応はまだまだ迅速とは言えない現状にあるため、継続して教育指導していく。
- ・ 臨床工学技士による医療機器研修会（人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター）を実施した。継続して研修を実施していく。

4) 患者誤認事故防止検討部会

目標：①同姓同名患者表示の徹底

- ②患者確認はフルネームで名乗ってもらう
- ③患者誤認による与薬（内服・注射）間違いを5件以下
- ④患者誤認による検査間違いを5件以下

活動内容：第4火曜日ラウンド

結果：

- ・ H30年度与薬（内服8件、注射5件）、検査8件の患者間違いあり。
- ・ R1年度与薬（内服9件、注射1件）、検査10件の患者間違いあり。配膳間違い5件、事務関係での患者間違い3件あり。
- ・ ベッドサイドでの注射認証作業は実施できており、注射の患者間違いは減少している。しかし、内服に関してはセット間違い、与薬時の患者間違いが見受けられた。
- ・ 投与直前での最終患者氏名確認を意識付けさせ、指さし呼称での確認を推進する。
- ・ 検査では検査室からの依頼を受け、患者を搬送する時点での間違いが発生している。同姓同名患者の有無を把握していなかったり、複数のスタッフが介在することによる伝達エラーが要因となっている

4. インシデントアクシデント事例に関する活動

- ・ 事故報告書に基づき、院内ラウンド実施
- ・ 報告者へのインタビュー
- ・ 原因分析結果に基づく改善策の査定
- ・ 院内でのインシデントアクシデント事例報告件数や共有事例、警鐘事例についてはイントラへ掲載し情報提供をおこなった
- ・ 医療事故調査制度へ届出症例に対し、外部委員との会議実施

5. 患者相談窓口との連携

相談報告書提出件数：46件

診療に関する相談7件、看護に関する相談24件、接遇に関する相談3件、保険・診療費に関する相談3件、設備・環境に関する相談3件、その他件であった。

相談内容とその対応については、毎月の医療安全管理委員会で報告をおこなった。

6. 医療安全マニュアルの作成・改訂

- ・ セーフマスターシステムバージョン変更
- ・ 医療安全管理室の構成員改訂

7. 物品

- ・ 生食ロック用シリンジ導入

8. リスクマネージャーとしての能力向上に関する活動

日時	研修・セミナー名	学会
8月3日～4日	医療介護福祉のための新型コロナウイルスの危機管理の在り方 (Zoomによるインターネット研修)	医療安全学会

栄養サポート室

当院の栄養サポートチーム(以下 NST: Nutrition Support Team)は平成 17 年 12 月より活動しています。患者様の病状に応じた最もふさわしい栄養管理の提言を通じて栄養状態の改善に努め、治療効果の向上、合併症の予防および QOL の向上を図ることを目的としています。

1. 委員会構成員

診療部	内科医師(2名)、歯科医師(1名)
看護部	病棟看護師(9名)
医療技術部	管理栄養士(5名)、薬剤師(4名)、理学療法士(1名)、歯科衛生士(1名)
事務部	総務課(1名) (日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 7 名含む)

2. 活動内容

1) 毎月第一金曜日 NST 会議

先月の活動内容の報告、今後の予定について話し合います。

2) 毎週水曜日 カンファレンス・病棟回診

病棟をまわり、患者様の栄養状態の把握や食事摂取量、点滴メニューなどを確認し、適切であるかどうか検討しています。

NST 対象患者に対する検討事項	1. 適切なエネルギー量、タンパク質量、水分量および電解質量の把握
	2. 経静脈栄養から経腸栄養への移行の可能性
	3. 経静脈栄養、経腸栄養から経口摂取への移行の可能性
	4. 食事摂取不良患者や低栄養患者への具体的な栄養計画の提案
	食事摂取不良患者における、食事形態および使用薬剤等の検討
	経管栄養時、流動食を投与する際の適切な投与速度の検討
	経管栄養化で下痢が持続する患者へのシンバイオティクスの導入
褥瘡患者への摂取タンパク質量の検討や亜鉛・銅・ビタミン強化の必要性の検討	
経静脈栄養時における脂肪乳剤使用の推奨	
電解質異常時における適切な輸液・薬剤への変更提案	

3. カンファレンス・病棟回診実績

1) カンファレンス・病棟回診回数 44 回

対象患者数 49 人、平均患者数 3.5 人/回

2) NST 介入終了理由

栄養状態改善(目標達成) 48%

転院 33%、退院 4%、死亡 4%、

その他(治療方針変更など) 11%

4. 勉強会開催

栄養についての知識の向上を目指すことを目標に NST 委員会主催の勉強会を開催していますが、2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

地域医療連携室

1. 医療連携のつどい

地域医療連携室が主催となり、毎月様々な分野の講演会を当院にて実施しております。

2020年度も多彩な講演内容で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス拡大の影響により、残念ながら多数の講演の開催を中止致しました。一刻も早く新型コロナウイルスが収束し、以前のように顔の見える連携が出来るように願っております。

2. 実施内容

開催日	テーマ	講師
1月22日	医療連携のつどい(新春のつどい) 福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 急性・慢性心不全ガイドライン かかりつけ医向けガイダンスを活用したうっ血管理 特別講演 九州大学病院心臓血管外科の取り組み －心臓血管外科診療の現状と未来－	座長：ふなこし内科・循環器内科 院長 船越 元 縁者：福岡記念病院 副院長 循環器内科 舩元 章浩 座長：福岡記念病院 副院長 心臓血管外科 宮本 和幸 演者：九州大学大学院医学研究院循環器外科学 教授 塩瀬 明
12月8日	病理症例検討会（CPC） 死亡から数時間が経過していると考えられた死因不明の症例	久留米大学医学部病理学講座 講師 眞田 咲子 大学院生 近藤 慧一 福岡記念病院 副院長 救急科 山口 哲 研修医 入江 香里

福岡記念 PET・健診センター

社会医療法人大成会福岡記念 PET・健診センターは、地域の皆様の健康増進に寄与すること及び地域医療機関の診療支援に貢献することを事業理念として 2007 年 11 月開設されました。

三大死因といわれている「がん」「心筋梗塞」「脳卒中」をはじめ生活習慣病対策に照準を合わせ、PET-CT、マンモグラフィ撮影装置、CT 装置、X 線透視・撮影装置、超音波診断装置、上部・下部内視鏡装置等々の健診装置を完備すると共に専任スペシャリストの医師、放射線技師、臨床検査技師及び保健師、看護師を配し、地域の皆様及び地域医療機関のご期待に沿えるよう万全の体制を確保しています。

1. 令和 2 年度の主な事業活動

1) 地域活動

- ・公民館及び自治協議会の健康講座事業支援（新型コロナウイルス感染拡大の為中止）
- ・高取公民館 健康講話事業の実施（新型コロナウイルス感染拡大の為中止）

2) 職域活動

- ・各地域の商工会議所厚生サービス支援事業の実施（福岡、早良、糸島、唐津）
- ・産業医契約の強化を行い、個人から職場までのトータル管理ケアの実施
- ・契約事業所のストレスチェックの実施

3) 保険診療

- ・PET-CT 紹介元医療機関での放射線科医の読影会の参加（顔が見える連携の推進）の定着化
- ・紹介元医療機関へ半導体 PET-CT 導入メリットの周知活動

4) 新型コロナ対策

- ・健診受診者・職員の安全を確保するため、密にならない予約枠の設定及びクリーンパーテーション、UV 照射空気清浄機の導入。

5) 新規事業の立ち上げ

- ・食品の臨床試験（特定保健用食品・機能性表示食品）や治験（予定）を実施するために治験管理室を健診センター内に設置

6) 受診者サービス向上のため待合スペースに Free Wi-Fi の導入。

2. 令和 3 年度の主な事業活動

- ・新型コロナウイルス対策を行い安全・安心を提供できる健診センターとして全職員一丸となり受診の健康増進に寄与してまいります。
- ・昨年より実施しております PET ドック、人間ドック、各種健康診断のコースの見直しを段階的に行い受診者が受けやすく、検査する事の意義が分かるコース設定を行います。また結果返却の時間短縮を目指します。
- ・半導体 PET の導入の効果を活かし更なる受診者増を目指します。
- ・PET ドックの予約枠の増、受診しやすい価格設定など他施設との差別化を目指します。
- ・食品の臨床試験症例数を十分な感染対策を行いながら増加させます。

1) 地域活動

- ・記念病院地域連携室と共同して現在出来る範囲にて地域活動を展開します。

2) 職域活動

- ・福岡商工会議所、早良商工会議所、糸島商工会議所、並びに唐津商工会議所支援事業を引続き行って参ります。
- ・産業医契約のニーズに応える枠組みの策定

3. 福岡記念 PET・健診センターの特色

1) 施設環境

- ・アクセスに優れ福岡西部の中心的位置にあり非常に利便性に富んでいます。
- ・中央区でありながら駐車場が確保され、車での来院が可能で利便性を高め評判になっています。
- ・健診建屋は、コンパクトにまとめられ、清潔感にあふれ受診者の皆様に喜んでいただいています。

2) 健診センターの施設と体制

- ・半導体 PET-CT 等の検査・健診機器をそろえ、ご期待にお応えしており好評を戴いています。
- ・健診にかかる専門の医師を配して健診の徹底を期しています
- ・女性医師 9 人を配し、女性の健診に配慮しています。

3) 受診者エスコート

- ・予約・健診相談・総合案内・受付・受診者案内等、受診者の目線、立場を尊重信頼・安全・安心に心がけています。
- ・待ち時間を極力なくし、受診者の不安解消に努めています。
- ・宿泊ドック (PET/ドック等) の場合は、市内 3 箇所の有名ホテルと契約し健診にゆとりと潤いを与えることを心がけています。
- ・PET/CT 検査で医療機関からの紹介による患者様には、希望に応じて自宅又は病院への送迎を実施しています。

4) 健診結果・検査結果の措置

- ・健診結果については、親切、丁寧を旨とし、判りやすく納得のいく説明を行っています。
- ・紹介頂いた PET/CT 所見については、翌営業日中にご紹介頂いた医師に返却しています。

4. PET/CT 検査紹介医療機関一覧

医療機関名	件数	医療機関名	件数
福岡赤十字病院	325	神代医院	2
浜の町病院	264	石西整形外科	2
九州中央病院	162	福岡鳥飼病院	1
福岡大学筑紫病院	57	可也病院	1
福岡記念病院	38	福岡病院	1
白十字病院	28	隈病院	1
原三信病院	27	糸島医師会病院	1
福西会病院	26	昭和病院	1
三恵外科医院	19	友田病院	1
福岡記念 PET・健診センター	16	村上華林堂病院	1
九州医療センター	10	別府外科医院	1
畠山内科胃腸科クリニック	6	北野クリニック	1
福岡歯科大学医科歯科総合病院	6	及川病院	1
ウエルネス天神クリニック	5	川崎胃腸科・内科クリニック	1
佐田病院	4	水戸病院	1
木村病院	3	吉村病院	1
福岡大学西新病院	3	九州国際重粒子線がん治療センター	1
喜多村クリニック	2	原口病院循環器科内科	1
ふじ養生クリニック福岡	2	さく病院	1
めいのはま白翠内科クリニック	2		
合計 1,046 件			

臨床研修管理委員会

2021年3月、第16期生5名は初期臨床研修を無事終了し、4月よりそれぞれの施設で後期研修に入りました。現在第17期生6名は協力病院・施設での2年目の研修を行っています。引き続き本年もご指導・ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

そして、2021年4月より第18期生6名が入職致しました。昨年度よりすべての研修施設で研修医評価がEPOCによる評価に代わりました。新型コロナウイルスの影響もあって臨床研修プログラムの下、日夜研修に励み日々切磋琢磨しております。初期臨床研修は、プライマリーケアの診断能力（態度・知識・技能）の修得は勿論大事ですが、更に、医師として社会人としての人格を涵養していただきたいと思っております。

16期生 2019年4月 研修開始	研修医氏名	後期研修先
	入江 香里	九州大学形成外科
	島内 諒	福岡大学整形外科
	野田 啓司	産業医科大学眼科
	藤澤 愛	九州大学病態制御内科学(第三内科)
	山川 曜	久留米大学脳神経外科

17期生 2020年4月 研修開始	研修医氏名	出身大学
	内村 萌人	久留米大学
	岡本 菜奈	山口大学
	葛山 巧	産業医科大学
	後藤 崇	昭和大学
	杉元 悠太郎	長崎大学
望月 彰人	福岡大学	

18期生 2021年4月 研修開始	研修医氏名	出身大学
	石井 雄大	福岡大学
	木村 知代	長崎大学
	繁永 直樹	久留米大学
	的野 渚千	産業医科大学
	山崎 晃平	福岡大学
吉村 修一	久留米大学	

1. 協力型臨床研修病院

施設名	施設長名	郵便番号	住所
医療法人浜江堂油山病院	入澤 誠	814-0171	福岡市早良区野芥5丁目6-37
福岡大学病院	岩崎 昭憲	814-0180	福岡市城南区七隈7丁目45-1
久留米大学病院	志波 直人	830-0011	福岡県久留米市旭町67

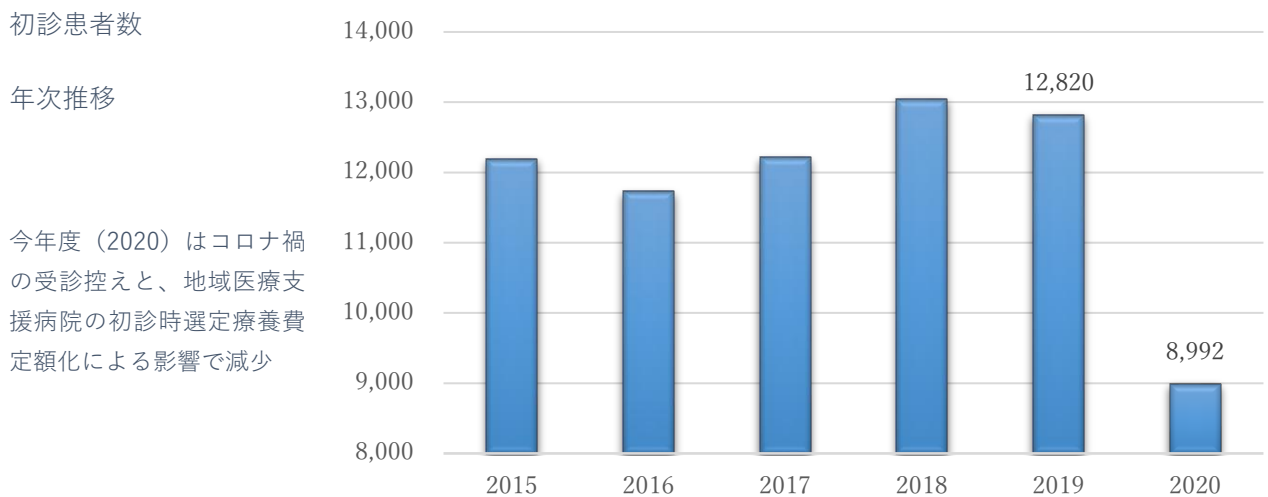
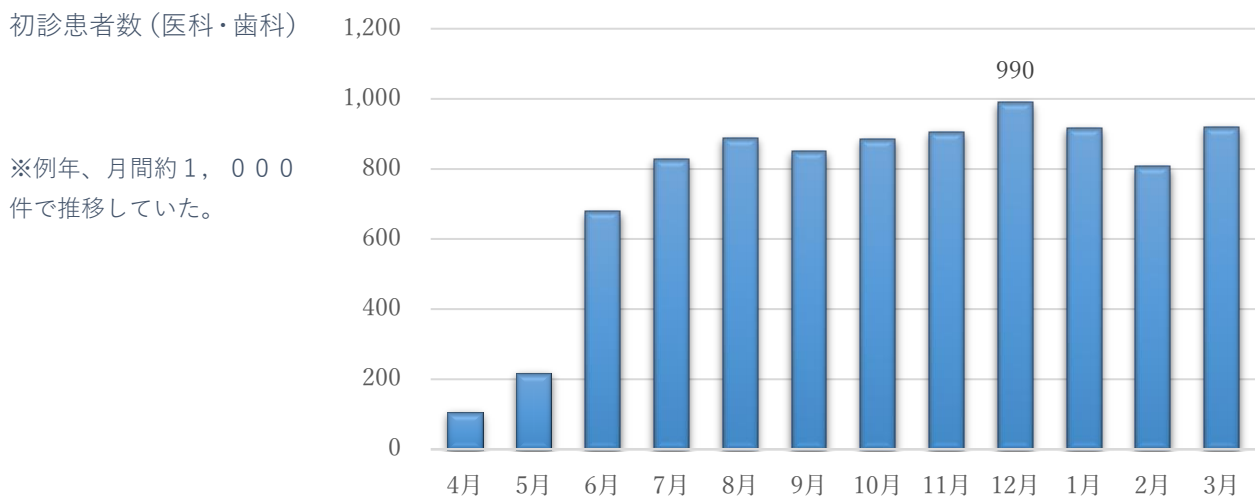
2. 協力型臨床研修施設

施設名	施設長名	郵便番号	住所
介護老人保健施設からぎステーション	稲津 佳世子	814-0171	福岡市早良区野芥5丁目6-37
医療法人にのさかクリニック	二ノ坂 保喜	814-0171	福岡市早良区野芥4丁目19-34

医療統計

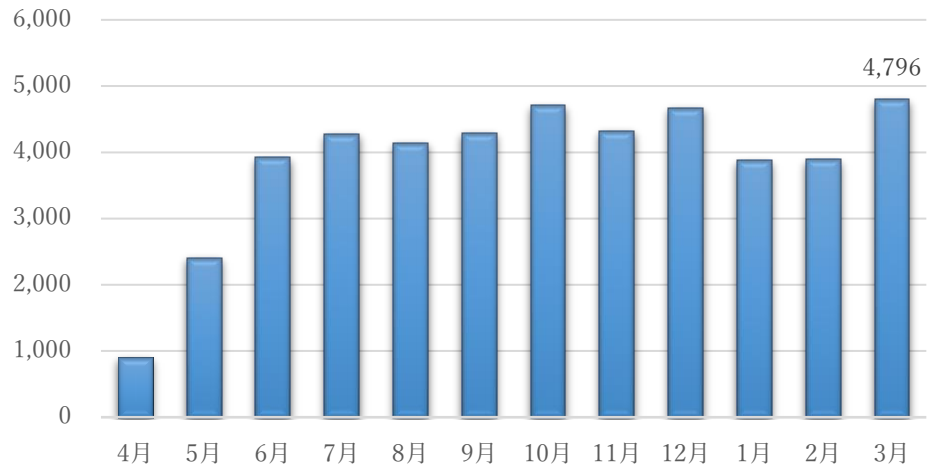
2020年4月、5月はクラスター発生により診療を休止していました。

[初診患者数]

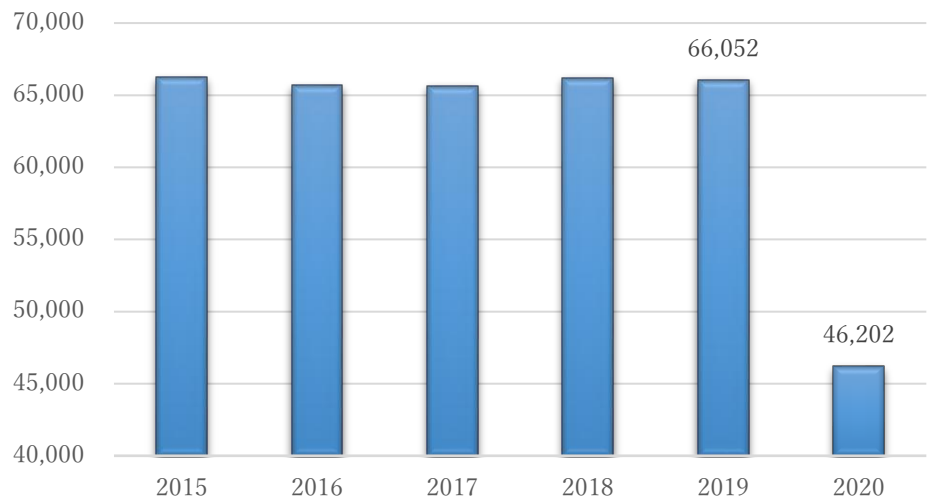


[外来患者数]

外来患者延べ数
(医科・歯科)

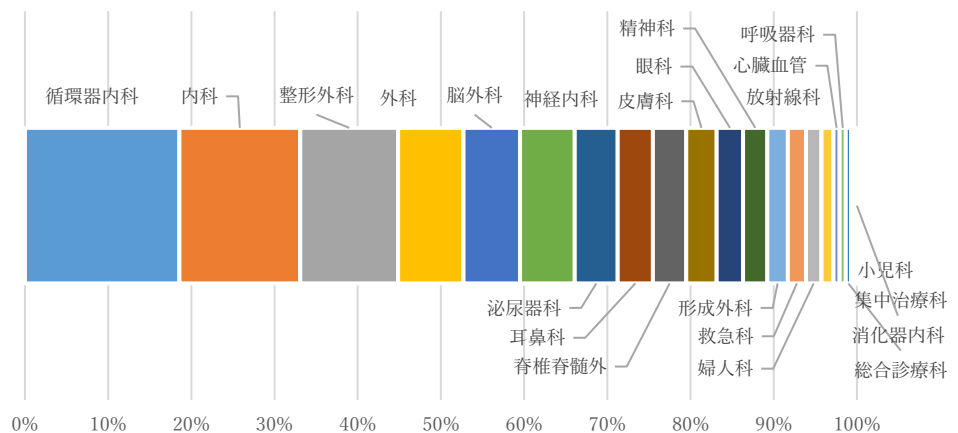


外来患者延べ数
年次推移



診療科別外来患者構成

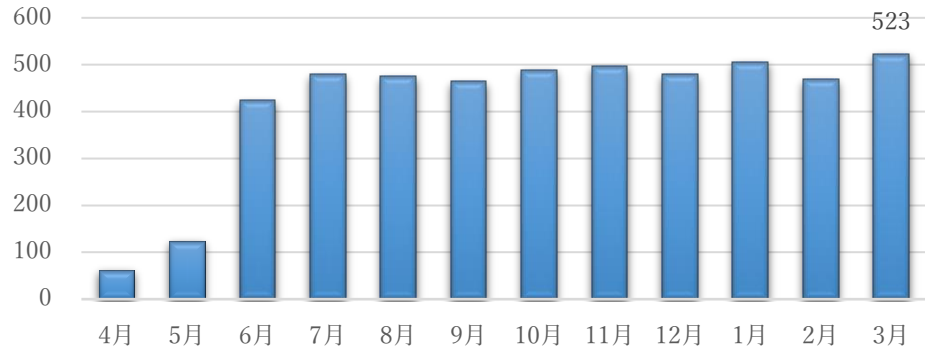
時間外を含む



[入院患者数]

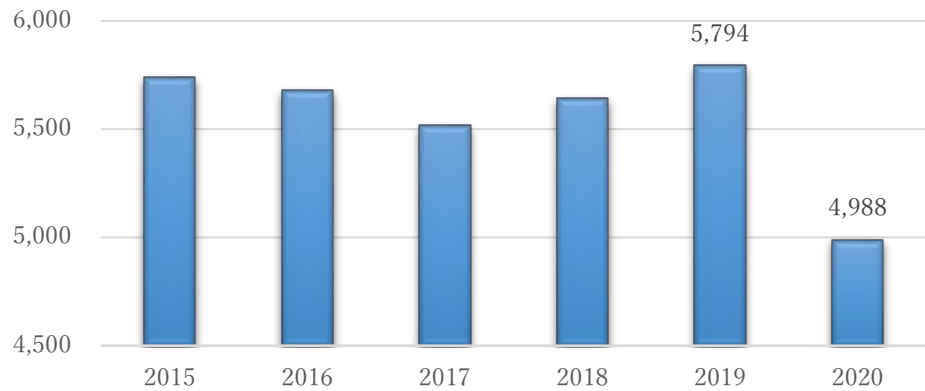
新入院患者数

7月以降は COVID 患者も
受入れつつ平常の数まで回復



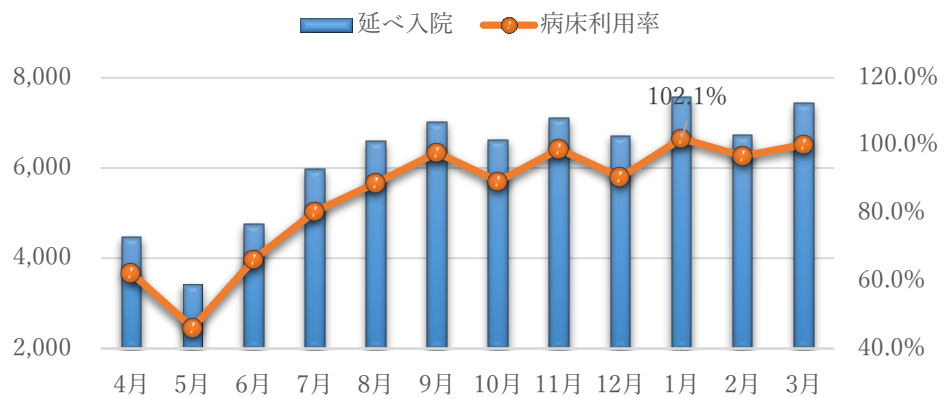
新入院患者数

年次推移



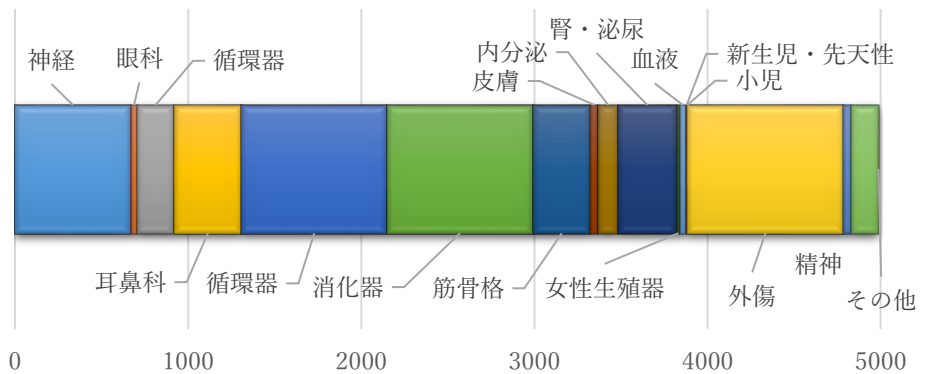
延べ患者数

8月以降は病床利用率
90%以上を維持



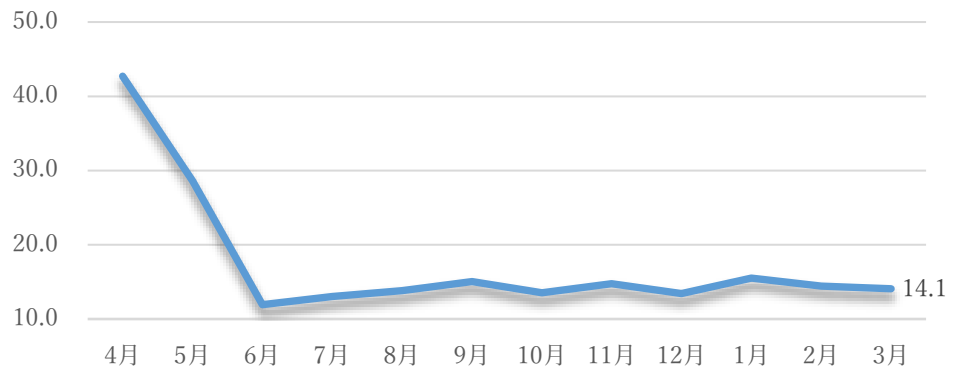
MDC (主要診断群) 別
新入院構成

左から MDC 分類順
COVID (U071) はその他



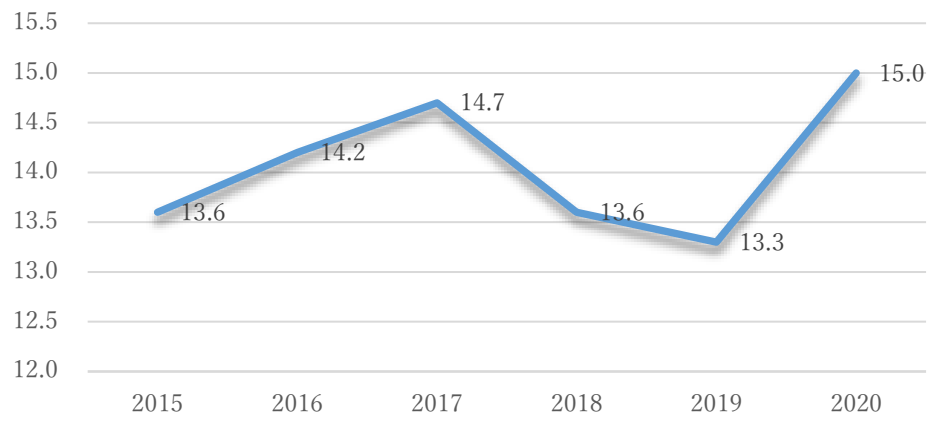
[平均在院日数]

平均在院日数



平均在院日数

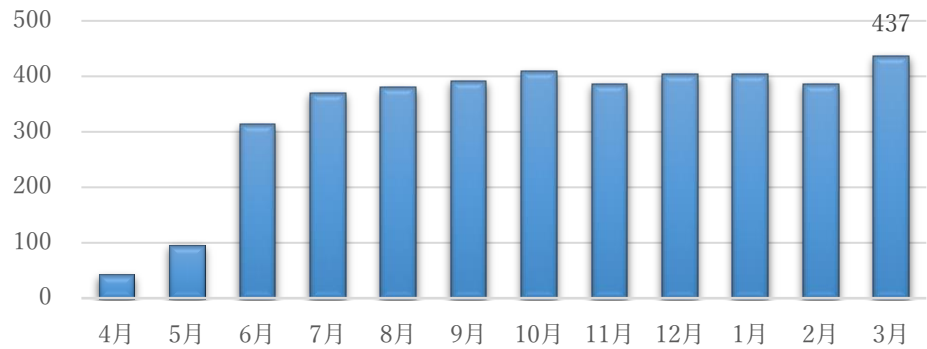
年次推移



[紹介・逆紹介]

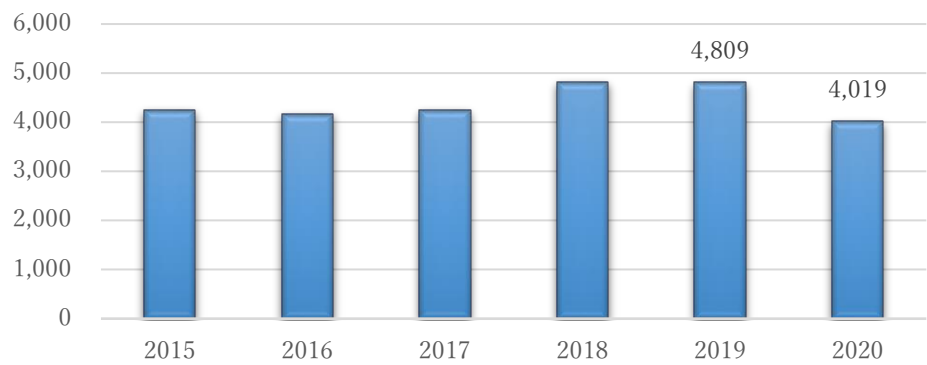
紹介患者数

(初診のみ計上)



紹介患者数

年次推移



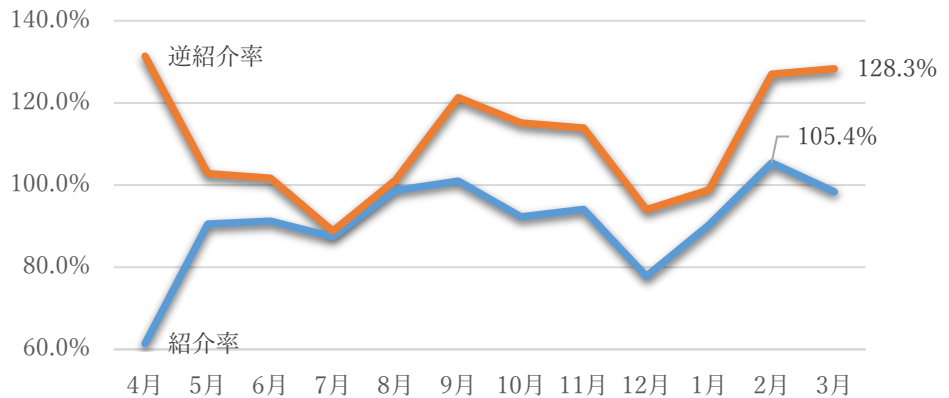
地域医療支援病院

紹介率・逆紹介率

[紹介率] 紹介初診/初診(救急・時間外初診除く)

[逆紹介率] 逆紹介/初診(救急・時間外初診除く)

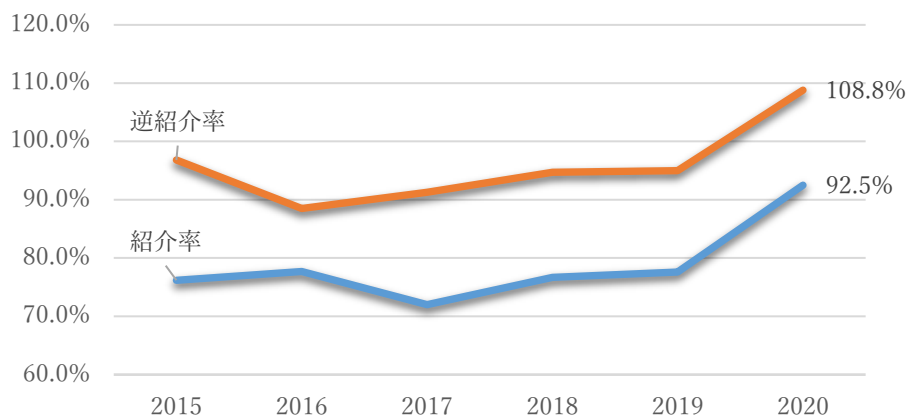
4月は外来診療休止し他院へ依頼したので逆紹介率が上がった



地域医療支援病院

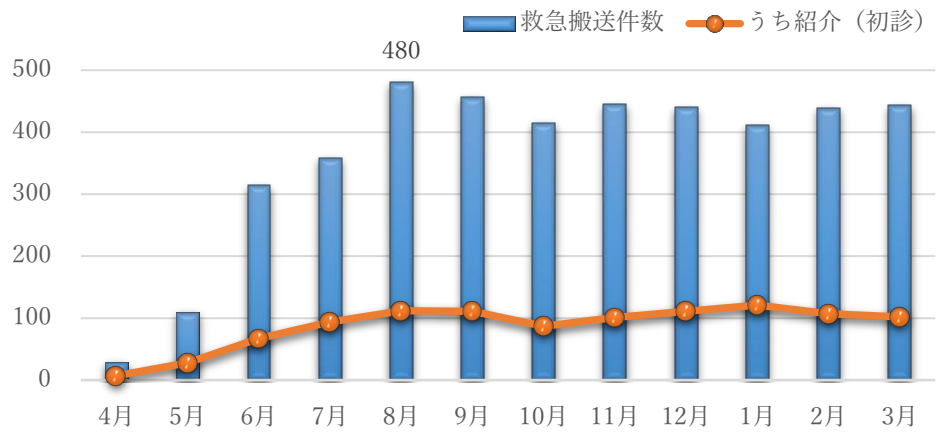
紹介率・逆紹介率

年次推移



[救急患者数]

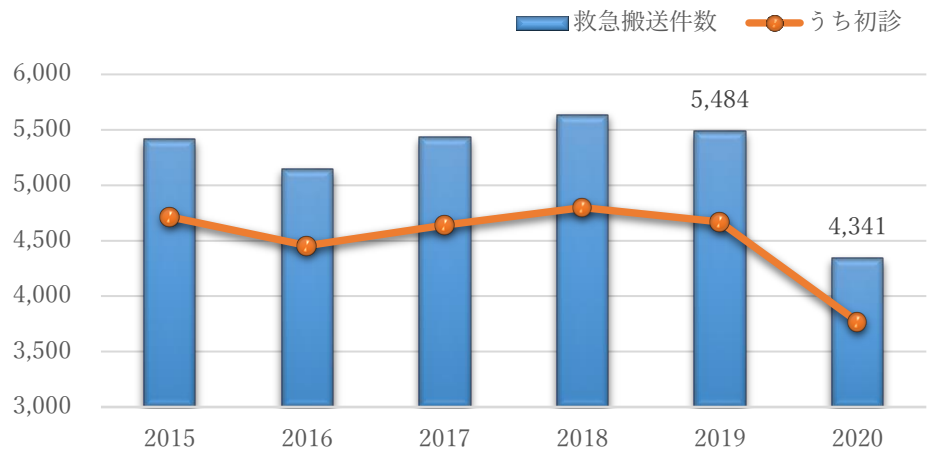
救急搬送件数



救急搬送件数

年次推移

例年 5,000 件以上の搬送件数であるところ、今年度は COVID 影響で下回った。



編集後記

皆様に無事令和2年度の年報がお送りできることに感謝いたします。

令和2年度は、年度早々新型コロナウイルス肺炎への対処で病院全体が忙殺されましたが、5月下旬には病院として一旦収束を見ることができました。その後も冬から春にかけて全国的に第2波、第3波があり、この編集後記を記載している現在は第4波の渦中にあります。ほぼ毎日のようにPCR陽性の患者様の診療にあたり、また院内でのワクチン接種、福岡市内のワクチン接種会場へのメディカルスタッフの派遣等、新型コロナウイルス肺炎はまだまだしばらく診療の大きな部分を占めることと思います。

一方で当院の柱である救急医療です。令和2年度の救急搬送件数は新型コロナウイルス肺炎の影響で減少しましたが、新型コロナウイルス肺炎への対処をしながらも本来の当院の特色である救急疾患の診療も積極的に取り組み、これまで以上に地域医療に貢献をしたいと考えています。

連携病院施設の皆様には時にご不便をおかけすることがあるかとも思いますが、何卒お力を頂きたくお願い申し上げます。

最後に精魂傾けて原稿整理をして下さった総務の藤田さん、医局の本多さん、データを提供いただく診療情報室の平川さん、いつもありがとうございます。

病院年報編集委員長 石岡 久和

2020年 社会医療法人大成会年報

発行：令和3年11月

編集・印刷：年報編集委員

委員長 石岡 久和

委員 平川 英武

藤田 拓也

本多 佳奈子